

經濟困難應急策

五七〇

蠶絲	桑及繭種改良に關する各種の施設を含む	一五〇	五〇
畜產物(生牛、馬、卵、乳製品等)	補助、獎勵	一〇	一五
小產物(遠洋及近海漁獲、鹽等)	漁船及漁具改良、其他各般施設	三〇	一五
林產物(用材、薪炭材等)	造林林諸施設特に林道軌道開設	六〇	二五
鑛產物(金、亞鉛、錫、鉛、鐵鑛及石油等)	關稅改正、其他補助獎勵に關する各般の施設	五〇	一五
基本工業(鐵、鋼、機械、自動車、化學肥料、染塗料其他)		四〇〇	一八〇
加工業(綿布、絹布、毛織物其他)		一〇〇	二五
助長施設	道路修築、河港改修等		一〇〇
合計		一〇〇〇	六〇〇

備考

- 一、從來支出せる農商兩省の產業獎勵費を始め各省に互る產業關係の各施設は其の政府支辨たると地方負擔たるとを問はず總て本表の五箇年計畫と對酌併行して共に繼續す。
- 二、本表記載の總經費は五箇年間の繼續事業として臨時產業資金制度を設け總額六億圓を支出するものにして此間内外緩急に應じ各年度の所要支出を定む。
- 三、本表は朝鮮、臺灣を含まず、是れ亦別途計畫を講ずるものとす。

右は單に大綱を擧げたるのみなるが、實際の施設に際しては緩急に應じて時宜に適切ならしむべきこと勿論で

ある。而して此の計畫を達成することに依つて最も直接的に現はるべき効果は

- (1) 現内閣の爲め打切られたる從來の事業費約五億圓の復活と、現在支辨しつゝある各種產業施設の上に、更に年額平均一億二千萬圓の國庫支出額を加へて前述各般の事業を起すものなるが故に、相當多額の資金が即時活動を開始し民間に流動する。隨つて國民の購買力は増進し商品の需要を盛んにし、資金の運轉を圓滑ならしめ、我國の經濟界に活況を呈すると明瞭である。
- (2) 是等各般の施設に必要な機械、器具、材料其他能ふ限り國産品を使用すること勿論なるを以て、現に生産過剩に悩むものも、新たなる需要を喚起し市場の景氣を振興する。
- (3) 是等各般の施設に依り大に勞力の必要を生ずるが故に今日最も朝野の頭腦を痛ましめつゝある失業問題及就職難問題に對して適切有效なる解決策となる。
- (4) 斯くして失業問題が解決し商品の需要が起り資金の流動も圓滑とならば其の刺戟に依り各方面の事業も興起するに相違なく、隨つて剰下の不景氣風は必然的に掃き除かれる。
- (5) 而して右計畫の進行に伴つて年々輸入は減少し五箇年後には人口増加、生活向上等に依る消費の増大をも加へて然も輸入のバランスを得るに至る。
- (6) 其の結果正貨の流出を防止し兌換券の基礎を鞏固安定ならしめる。
- (7) 加之、是等の施設は悉く永久的價値を有する事業なるが故に五箇年後に於ては從來の輸入超過國より一轉して輸出超過國となり、十年後に至らば少くとも二十五億圓以上の増加を示し國際經濟戰の優勝者たる地位を確保し能ふ。

尚ほ此の計畫に基く生産對消費の關係を表示すれば

全生産額

(イ) 現在の總生産額

一一〇億円

(ロ) 今後五ヶ年間に於ける自然的増産額

一八(過去十ヶ年間の平均生産増加率は年約三分であるから)

(ハ) 産業五ヶ年計畫に依る特別増産額

一〇

合計

一四八

全消費額

(イ) 現在の總消費額

一一二億円

(ロ) 五ヶ年後に於ける消費増加額

二六(過去十ヶ年の平均消費増加率約四分強と、産業五ヶ年計畫所要の原料輸入増加分を含めて)

合計

一四八

右の如くにして初めて我が國民經濟は安定するのである。素より現在の如き不況時代に於ては生産及消費の兩方面共過去十箇年の平均自然増加指數——即ち生産三分弱、消費四分強の自然増加率——と比較して多少の減退を免れざるべしと雖も然も之を國民經濟の全局に照らして生産對消費の關係に年々二三億圓内外の開きあるは、現に昨年來の不景氣時代に於てすら内地植民地を合して約二億五千萬圓乃至三億圓の輸入超過を示しつゝある事實に徴するも明瞭である。随つて今後年々百萬人以上の人口が増加し且つ時代の進歩に伴ふ國民生活の向上を見込む時は五年後に於て矢張り約十億圓の生産不足を告ぐべきを豫想せなければならぬ。別言せば今に於て速に徹底的經濟政策を樹立し輸入防遏策を講ぜざる限り、年々二億乃至三億の正貨を減少し五ヶ年後には其の對外支拂

勘定が累増して十億圓にも上ることゝなるのである。

事實の告ぐる所既に斯くの如くなるを以て、之を現状に放任するに於ては、現在保有する八億七千萬圓の正貨の如き三四ヶ年にして枯渴の虞れなしとはいへない。一年假りに二億圓の輸入超過と見ても四ヶ年後には無くなるのである。否、我國現在の兌換制度よりいへば、新に公私の外債を起し借金を増して正貨を補充する以外今後一ヶ年乃至二ヶ年にして通貨と正貨準備高との均衡がとれなくなるのである。若し萬々一斯かる状態に陥つたとせば、我國の經濟界は如何なる光景を呈するであらうか。それは惨めなる戰敗國の運命に逢着すると異らずして實に寒心に堪へないのである。

積極的増産政策の效果

之を以て吾々は第一に當面の不景氣打開策として、第二に失業問題解決策として、而して更に根本的なる國難匡救策として積極的なる産業五箇年計畫の急務を痛感するものである。併し茲に注意すべきことは單に生産増加を圖ると言つても決して現内閣の金解禁の如く不用意であつてはならない、それには嚴正適切なる統制策が伴はなければならぬ。例へば

- (甲) 現在既に生産過剩を告ぐるもの
- (乙) 全然生産不可能なるもの

(丙) 將來發展の見込なく輸出の可能性を有せざるもの
是等は無論五箇年計畫より除外する。そして國家の力を以て其の振興發達を保護助成すべき産業は

- (A) 國民の必需品にして現在尙生産不足の爲に輸入するもの
- (B) 我國に於て生産可能なるに拘らず、金利、運賃、税制及動力、燃料等の關係に依り外國品に壓せらるゝもの
- (C) 將來對世界的に發展の見込あるも現在尙幼稚又は種々の障礙を脱し難きもの

これ吾々が原則として積極的増産を圖らんとするものである。随つて吾々の産業計畫は現在既に生産過剰の事實あるものに對して屋上屋を架するが如き愚擧を企てざるのみならず、實際には之を統制し保護して適當なる調節と合理化とを行はんと欲するものである。

斯くしていよいよ五箇年計畫の遂行に精進するに於ては現在朝鮮、臺灣を含めて約二十億圓内外の輸入額中、少くとも次の品目と金額とを防遏し得べきを疑はない。

最近五ヶ年平均輸入額及對増産豫定額	(種目)	
	(最近五ヶ年の平均輸入年額)	(五ヶ年計畫達成後の増産即ち輸入防止額)
一、大豆及各种油粕等	一億五千萬圓	一億圓
一、小麥、粟、雜穀、種子類	一億圓	一億圓
一、木材、パルプ等	一億五千萬圓	六千萬圓
一、金、亞鉛、鉛、錫、石油等	一億圓	五千萬圓

一、鐵及銅類	一億五千萬圓	一億圓
一、機械類、自動車及船舶等	一億五千萬圓	一億二千萬圓
一、アルミニウム、金屬製品等	五千萬圓	三千萬圓
一、化學肥料類	五千萬圓	四千萬圓
一、曹達、加里、染料、塗料等	五千萬圓	四千萬圓
一、其他諸品	二億五千萬圓	一億六千萬圓
合計	十二億圓	八億圓

右は最小限度に見積つての輸入防止額である。實際には是れよりも遙に好實績を擧げ得べきを信ずる。
次に産業五箇年計畫所要の金六億圓の財源を如何にするか。そは次篇「減税及財源問題」に述ぶる通り吾々は此點に於ても直接一般國民の負擔を増加することなくして然も極めて合理的なる方策をとるべき用意を持つてゐるのである。

要するに國家は六億圓の資本を投じて五年後に至り年々十億圓の生産を増加するのである。之を一ケ年に割れば平均一億二千萬圓を支出して然も五ヶ年後に十億圓宛の收穫を擧げる、而して此の收穫は未來永久に年々繼續して益々増加するのである。世上豈此の如き效果至大なる事業が又と他に見出されるであらうか。然も之に依つて同時に失業問題は解決され、景氣は立直り、輸入は防遏され、正貨流出の不安を一掃し得るのである。若し之をしも不利不經濟なるが如く誤解するものあれば、それこそ飢餓に瀕しつゝ尙榮養を攝るべからずといふの類で

ある。吾々は斷じて消極的退嬰的なる餓死政策に與することは出来ない。大に榮養を攝りて大に活動し以て國富國益を増進する。それが即ち眞實の積極的政策であり、國民自ら活きるの途である。然らざれば國難は打開されず、不景氣は救はれないのである。

第三 減税及財源問題

國民負擔の輕減

國民經濟の資源を涵養し國力の充實を圖る爲め、能ふ限り國民の負擔を輕減することは、原則的意義に於て最も正しき國家の財政方針である。それは同時に不景氣打開策として、生産振興策として、極めて重要性を有することは敢て事新らしく言を費すまでもない。

素より國民負擔の輕減といつても其の範圍は頗る廣汎に互り税制の改廢のみには止まらない。又其の税制の中に於ても所謂直接税の外に間接税があり、直接税の中にも綜合課税を改めて源泉課税に復すべしとの議論等相等各面に主張されてゐる。又政府の專賣事業に屬するもの、例へば煙草の如きに就いても國民負擔の輕減より

見て相當考究さるべきものである。但し現政府が歳入の減少に餘儀なくされ辭を節約に藉りて頻りに事業の繰延べを行ひつゝあるが如きは毫も負擔の輕減にはならない。繰延べは文字の示すが如く所要の事業を後年に押し遣るに過ぎずして、却つて其の負擔を將來に重からしむる結果となる。殊に繼續事業の一時的中止の如きは寧ろ不經濟と見らるべき性質のもの多きを拒み難いのである。

吾々の期する所は國民經濟の現勢に鑒み取敢へず年額五千萬圓を下らざる程度に於て、現實的に國民負擔の輕減を圖るに在る。之が具體的方法は無論時宜に應じて適切妥當の計を立つべきであるが、今試みに余輩の考案を擧ぐれば大要下表の如し。

減 税 案		備 考	
税 目	區 分	減 税 額	
地 租	稅 率 引 下	一五、〇〇〇 <small>千圓</small>	現行田畑租率百分の四・五を三・〇とす
營 業 收 益 稅	免 稅 點 引 上	一五、〇〇〇	田畑租約四千五百萬圓に對する三割三分三厘減
	稅 率 引 下	六、〇〇〇	現行個人の免稅點四百圓を八百圓とす
	計	七、〇〇〇	現行法人の百分の三・六を三・四に、個人の百分の二・八を二・二とす
織 物 消 費 稅	綿 交 織 物 の 免 稅	一三、〇〇〇	總稅額約五千八百萬圓に對する約二割二分減
	廣 幅 物 免 稅	三、〇〇〇	綿を多分に含む絹綿、綿毛交織物の免稅
	計	一〇、〇〇〇	絹、毛、其他の廣幅物の免稅
		一三、〇〇〇	總稅額約三千六百萬圓に對する三割六分の減

其 他	續 產 稅 率 半 減	各種 減 免 稅	一、五〇〇 七、五〇〇	現行稅率百分の一を〇・五とす

上表に掲ぐる所は一目して直ちに理解し得らるゝ所なるを以て何等説明を要せずと信ずるが、唯織物消費税に包含する廣幅税に關しては念の爲に一言を附加する。現在我國の織物總産額は商工省發表昭和四年度總産額約十五億七千萬圓にして中廣幅物九億八千萬圓である。而して殘額約五億九千萬圓は小幅織及雜織物より成り純然たる内地用反物である。然るに之を廣幅織に改むる時は其の殆んど全部が直ちに國際商品化し我國獨得の趣味意匠に依り、諸外國に對して輸出の途を開き得るのみならず、國內に於ても現在其の使用分量より見て優に一割以上即ち年額少くとも五千萬圓の利益を現實に擧げ得るのである。加之製産費の遞減及大量生産を至便ならしむるが故に國民經濟の全局より見て稅源の減少を顧慮すべきにあらすと思ふ。尙鑛産稅の輕減も資源の開發を促進せんが爲めにして、就中金の産出に對しては國家に於て特殊の保護法を講じ大に之を獎勵するを妥當と考へる。

言ふ迄もなく減稅問題は最も直接的に財源問題と關聯する。殊に今日の如く深刻なる不景氣時代に際會し歳入の激減しつゝある場合に於ては之を行ふの容易ならざるを豫め覺悟するの要あると共に、緩急能く其の機宜を得るを期せねばならない。率直には何人も減稅を不可とし國民負擔の輕減に反對するものなく、問題は一に財源關係如何に在る。故に以下財源問題に就いて少しく所見を陳べる。

財 源 問 題

上來吾々の主張し來れる政策を實現せんが爲めには減稅財源として年額五千萬圓、竝に不景氣及失業對策としての産業五箇年計畫に總額六億圓（年額一億二千萬圓）を必要とする。此の中前者の減稅財源は永久的性質を有するものであり、後者の五箇年計畫は事業の性質上繼續を必要とすべきものあるも茲には専ら定められたる年度を限りての臨時的事業として施設を講ずる。

そこで吾々は右兩政策を行ふ爲めに必要な財源を何處に求むべきかに付き大體の目標を擧ぐれば

- (一) 行政整理
 - (二) 軍備の經濟化
 - (三) 官業及官有財産の整理
 - (四) 一定期間を限る特別奢侈稅の創設
 - (五) 産業公債の發行
- 産業五ヶ年計畫財源

即ち(一)の行政整理と(二)の軍備の經濟化に依る財源を以て減稅に充當し、(三)以下の財源を以て産業五箇年計畫を行ふのである。

(一)行政整理 の問題は我國多年の宿題にして何人も其の緊要なるを認めれど、其の範圍廣く且つ明治以來の

傳統と因襲とに釘づけられて容易に所期の效を奏し難く、加ふるに總豫算中の四割約六億五千萬圓は（昭和四年度公布豫算）既定の歳出即ち義務費より成るを以て、之を變更する爲めには先づ以て法律を改正せなければならぬ。そして義務費中には一億五千萬圓の恩給年金を含み且つ人件費が一般會計所屬のみにて四億圓以上（特別を加ふれば約八億）を占めてゐる。是等は現内閣が所謂緊縮主義の建前を高唱するに拘らず殆んど一指をも染め能はざるものである。且つ又現政府は其の歳入減に均衡を得せしむる必要上より再三豫算を變改し、本年度に於て六千萬圓、明年度は一億三千万圓乃至一億五千万圓の節約繰延を行はざるべからざることを既に自ら告白しつゝある状態なるを以て、今俄に多額の財源を行政整理に依つて捻出することは至難の事情に在る。併しながら吾々は現内閣とは全然異なる別箇の方針に據り所要財源を見出し得べき用意と確信とを有つてゐる。而して今後漸を追ひて行政の根本的改革を行ふと共に一層國民負擔の輕減を圖らんことを期するものである。

元來現内閣は當初行政整理を政綱に掲げながら、組閣後其の態度を一變して冷然沈黙を守るの態度をとり、頻りに事業費の繰延べに依つて一時を糊塗しつゝあるは、吾々の甚だ遺憾とする所である。彼等は行政整理の結果官廳内より多くの失業者を發生するの虞あるを理由と爲すが如しと雖も、一方に事業の繰延に伴ひ直接間接失業状態に陥るものゝ生ずるは免れ能はざる事實であり、之が爲め益々不景氣を深刻擴大しつゝあるのみならず、政府それ自らに於ては人件費に手を觸るゝを避け、全國民の一部分たる少數の吏員を擁護する爲め、他方に於て事業を打切り、却つて大多數の犠牲者を一般社會に迫出せしめ人民の怨嗟を買ふが如き不合理の現象を惹起して

ゐるのである。吾々は素より斯くの如き姑息の小策に與せない。假りに行政整理の爲めに若干の離職者を生ずるとも他方生産事業の振興を圖り且つ政府自ら積極的助成施設を行ふが故に苟くも相當の技能經驗あるものは寧ろ容易により有望なる地位を獲得し能ふことゝなるのである。即ち吾々は如何なる方面、如何なる場合を問はず、失業活用の目的を達成するを方針とするものにして、有爲の國民を徒食に苦しませ、或は事業を廢して人間を遊ばしむるが如き無意味の方策に出づるを欲せないのである。

尙從來の行政整理は所謂天引主義を主とし事の性質如何に考慮する所なく、單に若干の經費を捻出すべく各省に分割強制したるも是れ甚だ理由なきことである。それよりは先づ從來の形式的職務様式を改め事務の簡捷を計ることに依り經費の自然的減少を圖るを至當とする。例へば現に一般國民が其の積弊に惱める認可主義の如きを整理改廢すとせよ、機能の敏活、職司の進捗、繁文縟禮の刷新等に據り官廳事務を著しく減少せしむること必ずしも不可能なりとせず、隨つて經費の縮少さるべきは見易き理である。これ唯一例を挙げたるに過ぎざるも實質的價値を有する行政整理は須らく制度及運用の改善に出發せざるべからずして、之を等閑に附し或は之に背馳するが如き姑息の整理節約は毫も緊縮の效なく却つて有害無益に歸せんのみ。

(二)軍備の經濟化 倫敦軍縮協約の結果として財政上何程の餘裕を生ずるか現に識者の疑問視する所であるが、これは暫く別問題として吾々の主張する所は陸海軍を通じての國防の經濟化である。就中陸軍に關して國民は特に嚴肅なる考慮を求めつゝある。

目下審議中と傳へらるゝ陸軍の改革案が如何なる形、如何なる内容を有するかは吾々の與り知る所にあらざるも、茲に言ふ所の經濟化とは單なる縮少を意味するものではない。現に陸海軍が必要としつゝある各種の機關、技術、訓練、製作、教育等各般の施設を通じて能ふ限り之を民間と協同或は移管し、成るべく民間に於て平時培養の方針を採り、最も不生産的と見らるゝ國防施設をして國家の產業方針に適應致せしむること、これ吾々が要望する軍備の經濟化である。此の方針に隨ひて適當なる改革に打着せば、今日陸海軍所屬の各機關、兵器、軍糧、造船、飛行機其他各般に互り民間の經營と培養に委して不可なきもの必ずしも少しとせず。又教育の普及及達せる今日に在つては四十年前の三ヶ年制、二十年前の二ヶ年制を基準とするよりは適度に兵役年限を短縮し且つ兵員減少可能方法に就いて考究すべきである。此間吾々は前項の行政整理と合して五千萬圓の減稅財源を見出すの至難ならざるを確信するものである。

(三)官業及官有財産の整理 此亦其の内容多種多様にして茲に委曲を盡し難しと雖も、現在の官業中之を民營に移すに至當又は有利とするものもあれば、速に相當整理を行ふを可とする官有財産も少くない。今日官有財産の總額は七十億圓餘に上り我國の公債總額よりも尙多額なるは意を強くするに足るが如きも、幾何の程度に之が生産の經濟化を圖りつゝあるやに至つては寧ろ疑問である。例へば假りに電話を民營に移すとせば如何。國家は現時の収益に相當する株を所有するとしても尙約四億圓の財源を得るに止らず、民營後の電話事業の普及及發達とは官營時代に倍する速度を示すであらう。そして現に世界の奇觀と稱せらるゝ權利金の如きも自然減少し消

滅するに相違ない。又假りに國有鐵道を半官半民ならしむるとせば如何。之が爲め何等國防上の危險を感ぜざるは勿論、之に依て得る所の財源と、將來に於ける業務及施設の改善とが官營時代に比して退轉すべしとは恐らく何人も想像せざるべし。其他陸海軍關係以外のものを擧ぐるも造幣廠、製鐵所、印刷局、山林事業等その方法に宜しきを得ば何れも民營に移すを有益とし、又は民營に委して不可なき事業と認められる。又專賣局及大學以下各直轄學校の如きも全部絶對的に官營ならざるべからずとする理由は無いのである。吾々は敢て上記各機關及各事業の總てを擧げて之を民營又は半官半民化すべしと主張するにはあらず、然も其の性質及國民の要求等に考慮して適時適當なる方法に依り之を整理する事に依り相當の財源を得べきは毫も疑ひを容れない。

(四)特別奢侈稅 此は産業五箇年計畫を行はんが爲め一定期間を限り特別に徵稅するものにして此種の實例は歐米諸國を通じて極めて多く、寧ろ何等かの形に於て同種の課稅を行はざるもの殆んど無しといふも過言では無い。稅制上の原理論よりいへば無論種々の異論あるを免れずと雖も、一は社會政策的意義に於て、一は道德的觀念より見て、國家が特に財源を必要とする場合、比較的擔稅力を有する國民の需要品に對し特別稅を課するは各國共に何れも已むを得ずとせられてゐるのである。而して吾々は本稅の創設に依り約二千萬圓程度の財源を豫想することの不可能ならざるを信ずる。

(五)産業公債の發行 此れ即ち最後の財源である。原則論よりいへば其の目的の生産的にして且つ公共的なる限り、何等公債の發行を恐怖視すべき理由なきのみならず、時と場合とに依つては公債財源を活用し幾多至大の

效果を奏せる事實を指摘すること寧ろ極めて容易である。現に非募債主義を絶對的信條と爲してゐる今日の政府すら、預金部資金を運用する事に依つて地方事業の起興を奨勵し、或は更に失業公債を募集せんやの説さへ傳へられてゐる。たとへば預金部資金と雖も之を借受くるものより見れば其の本質に於て公債と何等差異なし、隨つて此の一事の示す所既に非募債主義の破綻であり幻滅である。

吾々は勿論現政府の如き矛盾の政策に追隨せんとするものでも無ければ、自ら好んで多額の公債を發行する如き輕舉を行ふものでは斷じて無いのである。故に能ふ限り前記各般の方策に依り所要財源を作り極力公債の發行を避くる方針なりと雖も、所謂殺人的不景氣打開策として、目前生計窮迫せる失業者活用策として、一日をも緩うすべからざる場合に方り、萬已むを得ずして之を行ふに何の支障があらう。然も其の目的は生産増加である、輸入防遏貿易發展である。五ヶ年間に六億圓を投じて爾後年額十億圓を贏得せんとするのである。斯くの如き有效且有意義なる公債を不可とする理由は素より絶無であり、強ひて之に反對する論者あらば、そは刻下の國難を憂ひとせず、世界の實勢に開眼せざる故意の反對者にあらずんば、一部局少なる偏見家たるを自白するに異らぬ。名は産業公債と稱するも事實は失業公債であり、國難打開公債であり、國民經濟振興公債たることを特に記憶せらるべきである。

臨時産業資金制度

上述の方法に依り産業五箇年計畫に必要な財源の調達は、確實性を帯ぶると同時に、其の收支を嚴格にし且つ其の使途に關する事務の統轄と運用の敏捷とを期するが爲め新たに臨時産業資金制度を設ける。

該資金制度は其の目的とする所専ら産業五ヶ年計畫の遂行を期するに在るが故に他の事業と混同し、又は一時の急務其他如何なる理由ありとも他に流用するを許さない。而して其の收支は極めて嚴密に定められたる範圍、定められたる事業、定められたる限度に於てのみ承認される。要するに運用の最善を求め、最も適切妥當にして最も確實を期するが爲めの資金制度である。

斯くの如くにして所定の計畫が着々進行し其の達成されたる暁を想像する時、我國の經濟界は如何に在るべきか。我國の農業、工業、林業、鑛業、水産業及大中小の商業家等は果して如何なる光景に接すべきか。六億の投資は今日の日本に取りて或は大なるやも知れぬ。併し年額十億圓の生産は更に遙に至大である。之に依つて直接的刺戟と間接的影響を受け民間各方面を通じて必然勃興し來るべき加速度的生産増加と國家の富とは更に數層倍巨大である。此の曉に於て、所謂失業群と就職難等の苦惱ありや。貿易の逆調と正貨の流失とに痛憂して國民生活の最後の運命點を氣遣はざるべからざる如き不祥の暗雲ありや。未曾有の國民的受難に呻吟し苛烈なる運命劇を日々目撃せざるべからざるが如き悲痛なる現象を依然として持續すべきや。素より絶對的樂觀は如何なる場合にも之を期し能はざれど、少くとも自己の不明を世界的不況時代に嫁し、或は輸入超過に壓迫せられつゝ尙生産過剩を啣つが如き無策の悲鳴と變態的現象とは消滅するであらう。假令世界は不況なりとも佛國は現に好景氣

である。獨逸も著しく復興し來り僅々三ヶ年の努力を以て既に輸出超過國に好轉しつつある。次には我日本である。否、是非とも日本であらねばならない。

吾々は現前の國民的苦境を以て天の試練と考へる。而して我國民は必ずや此の試練に優勝すべきを確信する。但し無爲に傍觀して居つては折角の天佑も脊を背ける。自己の責任を他國の不景氣に嫁して何等努力する所なくんば、他國が更に退轉せる場合を如何にするか。永久の輸入超過は永久の債務である。永久の債務を荷ひて如何に國民生活を安定し如何に國際經濟戰に對處せんとするか。吾々は國民の聰明なる理解と判斷とを求めること切である。

第四 保護政策と積極的施設 産業保護政策の眞意義

苟くも列國の實情に盲目ならざる限り、我が經濟國難に對する根本策として、又當面の深刻なる不景氣對應策として、眞に有意義なる政策は主として輸入防遏を目的とする生産經濟の振興を基調とする施設を第一急務とす

べきは寧ろ餘りに平凡なる眞理である。隨つて之に背馳する他の手段方策は其の如何なる理由を持ち出し來るにせよ、畢竟國家經濟の全局を達觀せざる局部的偏見にあらずんば、一時の變態的現象を誤認せる末梢神經的議論に過ぎざるは多語を要せずして分明である。而して此の事實と理義との分明なる以上、國家として採るべき方針が我國にとりて緊要とする産業の發展を眼目とすべきは論なきと同時に、此の目的を達成する爲め適正なる保護助長策を講ずべきは是れ亦改めて説明を加ふる迄もないと思ふ。

吾々は此の見地に基きて上に掲げたる通り産業五箇年計畫を樹て農業、工業、林業、漁業等の獎勵促進施設を行はんと欲するものにして、例へば農業方面に在つては耕地整理及國營開墾事業、各種農産物の増産と統制、農具、農作法及貯藏運搬販賣設備の改善等に心力を傾倒し、林業方面に於ては官民合同組織に依り造植林諸施設、殊に林道軌道の開設を進捗せしめ、又工業方面に在つては肥料、鐵、石油類、毛織物、機械、染料、塗料、自動車及藥品等國內の需要最も多くして然も國産足らず、我に於て十二分の生産可能性を有し乍ら尙多額の輸入を海外に仰ぎつゝあるものに對し、關稅其他妥當なる保護獎勵策を講じ、以て國民經濟の充實を期すると共に、別に一般産業の助長施設として河川、港灣、道路、用排水等の修築開設を行ふべく、既に具體的成案を有してゐるのである。

然るに茲に特に一般國民の理解を徹底せしめざるべからざる重要問題は、一部消極主義の支持者が未だに積極的産業施設の合理的妥當性を會得し能はざる爲め、關稅改正及輸入管理に由る保護政策の意義及價值に關し、往

々兎角の議論を試むるものがあり、動もすれば舊時代の自由貿易論に惑はされ、延いて其の施設の價値に疑念を抱かしむるが如き傾向なきを保全しないことである。是れ一は經濟的智見の未だ普及せざると、一は歐洲大戰に際し一時的ながらも意外の好影響を受け、其後の打撃も歐洲諸國の如く直接的ならざりし爲め、今日尙世界現時の實勢に目醒めざるの致す所といはねばならない。

事新らしく論ずる迄もなく、世界の各國は今や關稅戰爭の時代である。曾て自由貿易主義を以て一定不動の國是とし、終始一貫堅く持して變らざりし英國すらが、歐洲大戰後漸次其の政策を改めて保護主義をとるに至り、後に起れる勞働黨内閣の如きも其の政綱には自由貿易主義を標榜し、保護稅の撤廢を數次聲明し來れるにも拘らず、最近には現マクドナルド首相自ら保護政策の施設を繼續せるのみならず、同國勞働組合大會は自由貿易主義を以て過去の殘骸なりとし、それは唯だ二百萬の失業者を製造せる幻覺的政策に過ぎずとまでも論議されてゐるのである。参考の爲め左に戰後主要各國の實情を略記すれば、

英國 多年自由貿易の名家たるを誇りとし、歐洲戰爭前の一九一三年には同國輸入總額に對する財政關稅收入は前者の百に對して五・三九に過ぎざりしが、戰爭直後一九一八年にはそれが八・〇五となり、更に一九二一年には從來の財政關稅の外に樞要工業保護の爲め外國製品に對し三割三分三厘の保護關稅を設定せるのみならず、別に毎年の豫算に依り財政關稅の名義の下に特に資澤品に對し高率關稅を課することゝなれり。

(尙其後數次改正せしも現に英國の關稅率は世界第七位に在ること後に表出するが如し)

米國 一九二一年の緊急國難關稅に次いで一九二二年のフォードネー・マックカムバー・タリッフを制定し、殊に現フーズ

大統領に至りて頗る廣汎なる關稅改正を行ひ、前年の關稅收入豫算五億一千六百萬圓に對し一億一千萬圓以上の増收計畫を樹てたり。此の關稅改正が日本の對米輸出品に如何の影響あるかは既に世に知らるゝ所なり。

佛國 同國は過去五十年間一貫せる保護政策を採用し來りしが、戰後一層其の方策を高度化し、此間屢々其の制度を變更せり。蓋し爲替及物價の極端なる變動に遭遇せるを以て一九一九年以後附加及増加係數制度をとり、或は最高稅率を引上げ、一九二二年には平均三十割の稅率を高め、更に一九二六年には二回に互り各三割の一般的増率を行ふ等頻々改正を行へり。但し一九二七年八月獨佛通商條約協定成るに及び漸く安定せり。

伊太利 一九二一年七月新關稅法を發布し稅率の引上げを斷行して保護政策を深化し、事實上内政的手段に依り一部の關稅管理を行ふ。

獨逸 一九二五年一月ドウズ案に依る五ヶ年間の拘束を脱するや同七年新關稅法を制定し稅率を引上げたり。

西班牙 戰後直に關稅引上を行ひたるが就中一九二〇年十一月、一九二一年五月及一九二二年二月の三回に互る改正に依り保護政策を強度化し、現今世界一の關稅國となれり。

丁株 一九二一年の修正關稅に依り資澤品の關稅引上を行ひ、次で一九二四年三月及同年六月の兩法律に依り更に高率とせり。

歐米主要各國の行ふ所斯くの如し。随つて爾餘の諸國が自衛上同様の方策をとり、或はより以上の保護政策を實施するに至れるは寧ろ當然といふべく、殊に我國と最も密接の關係ある濠洲及印度が殆んど極端と認めらるゝ關稅改正を斷行せるは世人の記憶に尙新たなる事實である。斯くして現時歐洲戰爭後世界各國の保護關稅政策が如何に甚だしき變化を示せるかは次表に依つて其の一斑を推知し得よう。

戦後主要各國の關稅收入率概況（輸入總額に對する割合）

國別	一九一八年	一九二六年	同上	順位
英國	八・〇五%	九・五七%	(七)	
米國	五・七九	一三・三九	(五)	
伊太利	二・七三×	七・四二	(八)	
濠洲	一・三二八	一九・五四	(三)	
印度	九・八六	一九・九一	(二)	
西牙	一四・八二×	二・三五〇	(一)	
阿陀	八・七一×	一〇・六二	(六)	
加那	一六・〇六	一三・七七	(四)	
佛那	五・四〇	四・三六	(一〇)	
支那	二・七二	三・八八	(一一)	
日本	三・七六	六・二二	(九)	

一九一八年の指數中、伊太利及南阿聯邦は一九二一年、西班牙は一九一三年の計數なり（日本商工會議所調査に據る）

右の數字は總輸入額に對する關稅收入率の變遷を示せるものにして、其の中には多額の無稅品をも含有しつゝあるを以て、精密には關稅に依る保護政策の實體を明確に表現せるものと言ひ難きも、大勢は略々察すべきである。尙統計の比較的完備せる日米兩國のみに就いて歐洲大戰開始前年以後の實勢を示せば左の通りである。

日米兩國關稅收入率比較

年次	米		日		本	
	輸入總額に對する關稅收入の割合	有稅品總額に對する關稅收入の割合	輸入總額に對する關稅收入の割合	有稅品總額に對する關稅收入の割合	輸入總額に對する關稅收入の割合	有稅品總額に對する關稅收入の割合
一九一三年	一七・六九%	四〇・〇八%	一〇・〇九%	一九・九八%		
一九一五年	一二・四九	三三・四六	五・六七	一四・二八		
一九一七年	七・〇一	二六・一八	三・六七	八・四七		
一九一九年	六・二〇	二一・二七	三・一九	八・二七		
一九二一年	一・四四	二九・四六	五・五二	一一・七五		
一九二三年	一五・一八	三六・一七	五・〇八	一三・三四		
一九二五年	一三・二一	三七・六一	四・二二	一二・五九		
一九二六年	一三・三九	三九・二四	六・二二	一五・七八		

米國は一九一六年以後四ヶ年間は軍用品製造用原料の無稅輸入増加及物價騰貴の爲め關稅收入率減少し、日本も亦一九一七年以後物價騰貴せるに拘らず從量稅の改正無かりし爲め一九二一年まで減收率を示せり。
尙上記の統計は一九二六年迄の數字を示せるものなるも爾後米國の關稅は更に著しく増加しつゝあり。

米國の如く天下第一の富國にして世界に於ける正貨の大半を一國に占有しつゝある國家すら決して自由貿易主義を採らず、其の關稅政策が日本と比較して如何に在るかは、前表及最近の實狀に照らして、略々想像し能ふ筈である。

斯くいへばとて勿論吾々は各自の國情を無視して一率に關稅を高めよと主張するものにもあらざれば之を以て政府の財源増加を圖るべしとの意見を持出すものでも無い、否、若し世界各國が一齊に其の心を同じうして關稅の障壁を撤去し公正に門戸を開放して資源の自由なる利用及移動を承認するならば、吾々は雙手を擧げて滿幅の贊意を表するに吝ならざるものである。併しながら現實の世界は上述の如く劇烈なる關稅の交戦時代であり、關稅戰爭は即ち別の言葉に於ての産業戰爭に外ならない。而して此の關稅戰爭には例へば海軍縮少案に於けるが如く數箇國間を限りて或種の妥協的方法を發見することが事實上殆んど不可能であり、一方に或る種目の協約を取結ぶとせば、他方に別種の産業が起興する。若し強ひて何等かの方法を求むるならば、曩に國際聯盟に依つて企てられし如く現状を限度として休戰條約を各國間に成立せしむるにあれど、それは産業上の後進國に對して擡頭の機會を奪ふものであり、隨つて富めるものは益々榮え、貧しきものはいよ／＼窮するの結果を招來し、却つて不合理不公正の世界を現出するに相違ない。是れ歐洲各國間の如く領域相接せる地續きの國家に在つてすら該國際會議の失敗を記録せしむるに過ぎざりし所以である。

産業戰爭には終局が無い。人類の生活が日々に向上し、各國の人口が年々に増加する限り、何人と雖も生産の増加無くして將來の生存を豫想し能はぬからである。いふ所の産業戰爭を更に他の語に置き換ふるならば、即ち輸入防遏、輸出増進である。何故に然る乎、輸入を防遏し輸出を増進するにあらずんば經濟的に獨立し得ないが故である。之をより端的に言へば正貨を保持することが出来ない、正貨を保持し能はざるに於ては國民は飢餓線

上に悲鳴を放ちつゝ世界の浮浪者となるか、將た經濟上の戰敗者となりて富裕國に隸屬するか。與へらるべき運命は、二つに一つしか無いからである。假りに物々交換若くは他の新たなる經濟的機構を見出し來る時代が遠き未來に出現するにもせよ、生産なくして活き得べき人類の國家と社會とは永劫に到來しない。然も斯くの如き經濟的機構の根本的變化を想像することは、寧ろ無價値のユートピアである。人類三千年の歴史を無視する一種の夢想である。現に貨幣價値の否定に出發せるソヴェエツト聯邦の如きすら八百億ルーブルの大負擔を國民に強制して尨大なる五箇年計畫に全力を捧げてゐるのである。而して其の目的とする所は同じく生産増加であり、依つて以て輸入を防遏し輸出を増進せんが爲めである。別言せば國民經濟の充實であり振興であり、斯くして國際的産業戰爭の彈丸たる正貨の獲得増加を期待しつゝあるのである。

積極的施設の本質的價値

既に現實の世界が産業戰爭の舞臺である以上、之に必要な保護政策の重要性は最早や議論の餘地なきまでに明白であると共に、増産第一主義を基調とする積極的施設の本質的妥當性も亦國民經濟上絶對的眞理として世界的に證明せられなければならない。それは當然の論理であり、事實である。

不幸にして我が國民は徳川時代三百年の鎖國的氣風尙一部分に残存せる故か國際間の形勢に鈍感なるものあるを免れざるが如きも、活ける事實は何よりも雄辯である。從來我國と緊密なる貿易關係を有する濠洲の如き、近

年羊毛其他農產物下落の爲め輸出不振を告ぐるや、金輸出の再禁止を斷行し、且つ極端とも見らるゝ關稅改正を行へるのみならず、進んで事實上に輸入總額を限定する政策を實施し、又伊國に於ても一面國際貸借の均衡を圖ると同時に、國產の保護獎勵に熱注しつゝある状態の猛烈さと徹底ぶりは殆んど傍若無人と言はるゝほどである。例へば濠洲が一九二九年十一月二十一日百四項目に互る關稅引上案を議會に提出して、其の翌日より直ちに實施せる如き、又同年十二月には大多數の品目に對し改正補足を加へ、尙本年四月には一部輸入品の禁止と、制限及禁止の高率附加稅賦課を公布せるに甘んぜず、七月に至つて又々輸入品全部に互り二分五厘の附加稅増徴を行ふ等、其の方策の峻烈にして且疾風迅雷的なる、我國一部の自由貿易論者にとりては恐らく夢想だに及ばざる事實である。其の結果として我國の絹布は殆んど禁止的課稅を受け、北海産櫛材の如きは全然彼れが國禁となりつゝある。其他従前我國より輸出せる綿布、人絹、メリヤス、硝子類、ボール紙、文房具、刷子、麥酒、燐寸等幾多品目に互り何れも打撃を被りつゝあるは當業者の現に體驗する所である。

濠洲政府が斯くの如き手段をとるに至れる目的が輸入防遏と國產振興に在る事勿論ながら、直接的には正貨維持を主眼とし、其の應急策として金の再禁止を行ふ一方、多くの輸入品目を禁制又は増稅せるものにして、最近同國の商品輸出額約一億三千萬磅に對し輸入額を一億萬磅に限定せしめ、貿易勘定以外、國債利子として英國に支拂はざるべからざる三千萬磅をも總て貿易關係に於て相殺し、以て國際貸借の均衡を保たんとする迄に果斷の政策を採つてゐるのである。故に其の輸入防遏策は頗る徹底的にして事實上殆んど總ての輸入管理と異るなく、

其の産業保護策も亦極めて明快なる積極主義を採りつゝある。然も其の政府は労働黨であり、又其の國富及國民所得等に於ては我が國民に比して殆んど十倍に近いと稱せらるゝ多幸なる地位に在るにも拘らず、尙斷乎として斯くの如き積極的輸入防遏及生産増加策を遂行し何等遲疑する所なく關稅其他の保護手段を講じてゐるのである。人口僅に六百五十萬に過ぎずして生産及消費の状態等、素より彼我同日に論すべきに非ざるも、之を我國の現狀と對照してそもゝ如何の感ありや。

此種の活ける實例は單に濠洲のみでは無い。英米獨佛等の事は既に各雜誌新聞に傳へられ露國の計畫も前に一言したが、就中更生の意氣を以て國民經濟の建直しに努力しつゝあるのはムツソリニを首相とする伊太利である。同國は一九二六年一月特に法律を以て中央諸官廳は勿論地方官公衙竝に國家の補助を受くる組合及一切の公私各團體に對し國產品以外の購入使用を禁じ、自動車の如きも輸入を禁止する等強度の産業保護政策を行ふと共に、他方に在ては農、工、鑛、其他各種産業に對して極力補助獎勵を與へ、殊に電氣、鐵、人絹及自動車工業等に關する積極的施設の大に見るべきものがある。又我が國民にとりて注目すべき事業としては蠶業の復興發展に異常の力を注ぎつゝあることとして一九二三年法律を以て蠶種製造販賣規定を發布し、或は養蠶試驗所を設け、或は蠶業獎勵費を支出し、或は桑樹購入者に對し一割五分の補助金を與へ、現に小學校に於ては養蠶の實地教育を施しつゝあるなど未だ我國にも見ざる施設を行つてゐる。更に耕地増加、農業資金の簡易貸付、小麥の増收計畫等を始め砂糖に對しては禁止的關稅を課して甜菜栽培事業を促進し、更に興味あるは米作を獎勵し其の鐵道運

賃を例外に遞減してゐることである。此の如くにして伊國の産業は過去數年間に於て各生産額の二割乃至五割を増加すると共に従前の輸入超過は著しく激減し、本春ムツソリイニ首相をして伊太利は經濟的に猶一千萬の人口を増加するも敢て悲觀するに足らずとの有名なる演説をなさしめたのである。

凡そ是等各國の事實は果して何を物語るか。繰り返す迄もなく悉く輸入防遏、輸出増進の爲であり、而して之を具體化する實際上の施設は悉く關稅其他の方法に依る保護主義を採用し、以て生産増加に全力を傾倒してゐるのである。別言せば列國の行ふ所總て積極的政策の實現以外の何ものでも無いのである。斯くても獨り日本のみは自由貿易主義を尊重し、或は姑息なる消極的方策に低迷して自國の産業を他者の脅威に放任するも可なりとすべきか。何等自ら積極的施設を行はずして永久に輸入超過國たる立場に満足するを賢明なりとすべきか。

或は言ふものあり、關係政策其他の方法に依りて自國の産業を保護すとせば、それだけ需要者は高き物價を負擔することゝなるべく、又積極的施設を行ふに於ては國費を増加するにあらすやと。此種の言屢々一部消極論者の口に上りつゝありと雖も、それは唯眼前一時の事を杞憂して大局の利害を解せざる謬見に過ぎない。暫く論者の言に隨ひて保護政策に伴ふ物價高を不利とし、或は外國品の優良割安なるを認むと假定せよ、而して米も麥も豆も木材も鐵も機械も肥料等も悉く依然輸入に待つとせよ、現に我に於て八億圓の正貨を有する間は其の代價を支拂ふに苦まずとしても、年々輸入超過を續けて四年五年の後に至らば果して如何。たとへ外國品を割安なりとし之を購入せんと欲するも其の貿易の決済尻を如何にして清算し得るや。結局又外債に依るか、然らざれば國家の

何物かを賣拂はねばならなくなる。若し外債に依るとせば其の元利を何人が負擔するや。國家の何物かを賣拂ふとせば資源はそれだけ減少するにあらすや。其の何れに依るにせよ、國民の損失に歸するは三尺の兒童も直ちに了解し得る筈である。

之に異りて保護政策に由る國民の負擔は假りに或は一時的増加を免れずとするも、直ちに國産の改良發達及増進となりて現はれるのである。吾々の五箇年計畫に示すが如く國庫より總額六億圓を支出すれば、年額十億圓の生産増加となりて回收され得るのである。最初の兩三年間は主として支出時代に屬するも其後に至らば收支接近し、五ヶ年の後には投資額に對して年々十七割の配當を永久に受くと同一の結果を持ち來すのみならず、生産増大に依る價格の低下も自ら期待される。然もそれは悉く我が國內に於ける勞働賃金として活用されるのである。就中鐵の如きは或る一定期間其の原料たる鑛石を購入するに於ては爾後古鐵の利用再製に依り、當初の如く多大の原料を必要とせざるに至る。是等の事實を正しく理解するならば、假令當面的には一割二割の高き代價を支拂はざるべからざる場合ありとも、一時を忍んで國産の保護獎勵を速行するが至當なるのみならず、吾々は上に述ぶる如く能ふ限り其の財源を國民の新たな負擔に求めず、同時に減税を行ひつゝ、然も増産計畫を達成せんとするのである。況んや積極的政策に依る國家としての投資は、其の大部分を舉げて直接廣義の勞銀と化して國民の手に落ち國內に循環すると共に、併せて失業問題の解決策となり、農工商等各方面の景氣回復策ともなるに於てをや。

或は又言ふものあらん、我國若し保護關稅及一部輸入管理を行ふに於ては他國も亦直ちに之に對して報復的手段を以てし、益々關稅戰爭を苛烈ならしめ從來の輸出をも減少せしむるに至らずやと。然り、此種の見解は一理ありと雖も、列國現時の實情は我國が保護政策を行ふと否とに拘らず、何れも競つて關稅其他の手段に依り各自の産業を極力擁護し輸入防遏に努めてゐるのである。故に我國のみが獨り遲疑逡巡すとも何等大勢に關係なきのみならず、之を行ふに方りて慎重の用意を缺かざれば、所謂報復手段なるものに對しても敢て防衛の途なきを憂へないのである。然るに若しも他邦の報復を過度に恐怖し自主的政策をとる能はずとするに於ては、今後一切を擧げて外邦の言ふがまゝに盲從する外なく、國家それ自身の獨立性を喪失しなければならぬ。例へば米國、濠洲、印度等が其の關稅改正及輸入禁制等を斷ずるに方り果して我日本の利害に如何なる考慮を拂ひたりや。他國の輸出品に不利の影響を與ふるを恐れて關稅の増徴を差控へたりや。否々、事實の告ぐる所は既述の如く寧ろ正反對である。我國としては條理を盡して締盟各國との意思疏通を圖るべく、各國も亦その必要已むを得ざるを知らば故意に報復手段に出づるが如き暴舉を好む筈が無い。故に米國其他友邦との關係を細心に注意し周到なる準備を怠るべからざること勿論なれども、之を唯一の理由として自ら必要とする政策及施設を憚るが如きは全然無意義である。又外國資本家の之に應ずる對策としては、例へば我が國內に來りて單獨或は協同して企業製作する等の途も開かれてゐる。現に幾多の大工業が此種の方法に於て我國内に經營されつゝあるもの十指を數へ得るではないか。

若し夫れ積極的施設に由る増産計畫達成の曉、其の生産品を何れの國に賣捌かんとするやを問ふものありとせば、吾々は言下に明答を與へるであらう。それは先づ國內の需要に應ずるが爲めである、即ち日本國民に賣らんが爲めである。換言せば現在生産不足の爲め餘儀なくされつゝある輸入を防壓すると共に將來國民生活の向上と消費の増進に缺くべからざる必需品を充足せんとするのである。今日我國の經濟界が總ての産業に互りて悉く生産の過剩に惱める如く觀察することの誤れるは既に前に指摘した通りであり、眞實には現在と雖も國內に自給し得るものに對し尙十億圓以上の生産不足を告げつゝあるは是れ亦上に述べた通りである。然るに此の明瞭なる事實を見忘れて積極主義の効果を疑ひ保護政策に躊躇するが如きは、一錢の正貨なくとも依然外國品を購ひ得るもの如き空想に耽るか、或は何程輸入が増加し何程正貨が流失すとも天佑に依つて救はるべしとの迷信に安んじつつあると異らない。吾々は何等論理的根據を有せざる景氣循環論に國家の生命を托する能はず、又他國の財界好轉を空頼みにして七千萬國民の苦難を無爲無策に見送るも可なりとするが如き仙人的樂天主義の共鳴者ともなり能はず。問題は頗る嚴肅であり、既に絶對的性質化しつゝある。是れ吾々が農林、工礦、水産等各種生産助成事業の積極的施設を緊切とすると共に、關稅改正及部分的輸入管理案を提唱する所以である。

第五 失業問題解決策

歐米の失業者と我國の失業問題

所謂失業問題は現今世界各國が切りに持ち悩みつゝある人類の負債である。佛國其他少數の例外あれども、歐
洲大戰後殊に近年に至り甚だしく問題を激化し來れる傾向あるは、蓋し世界空前の大亂に衝撃されたる人心の反
映か。

然れども歐米各國に於ける失業問題を以て直ちに我が日本のそれと同一視するは妥當の見解で無い。少くとも
其の動機、原因及性質等に於て彼我大に差異あることを知らねばならない。歐米に在つては大戦當時多くの労働
者を戦場に狩り出す爲め盛んに各種不用意なる宣傳を行ひたる事實もあり、失業保険及失業基金制度等に伴ふ一
種の誘惑作用もあり、産業合理化に由る多くの犠牲者もあり、是等は何れも單なる經濟界の不況の爲めに産み出
されたる失業者とは言はれない。少くとも歐米に見る所の失業者の背後には國家の手を以て彼等の爲に施設さる
べき總ての事業が殆んどその餘地を残さざるまでに出盡してしまつてゐる。輸入防遏と輸出増進の爲に必要な
直接的及間接的助成事業は其の經濟的に可能なる限り行き渡つてゐる。これ現に労働黨政權下に在る英國すらが
未だ適當なる解決策を發見し能はざる所以である。

幸か、不幸か、我國の現状は前者と異り未だ國家の施設として行はるべき幾多の事業が未開拓のまゝに放置さ
れてゐる。變態的なる生産過剰の聲喧しきも、他面に於ては生産不足よりする巨額の輸入超過が繼續し當然に見
出さるべき労働者の働き場所を無意味に遊ばせてゐる。未だ産業合理化の遂行されたるにもあらざれば、機械力
が人間を驅逐し去る迄に國家を擧げて工業化したのでも無い。別言するならば眞實の失業者、眞實に働くべき餘
地を發見し能はざるにあらずして、實は優秀なる働き手を持ちつゝ其の働くべき機會が彼等に與へられてゐない
のである。事業も場所もあるに拘らず、之を活用しないのである。端的には政治の缺陷である。消極政策の罪で
ある。

歐米の失業者中には失業保険金にありつく爲め、又は失業基金を受取り得る爲に必ずしも一時的失業を厭はざ
るものがある。敢て失業を名譽とせざるまでも、明日より飢餓線上に投げ出さるゝことを恐れざるだけの仕掛け
が出来てゐる。我國には未だ此種の制度の具備せざる代りに、失業に名を藉りて労働を忌避するが如き分子は絶
無といつて宜い。前者は失業保険又は失業基金を得る爲め自己の失業者たることを公然的に名乗り出す勇氣あれ
ども、我國に在つては能ふ限り失業者たることを祕する。兩親妻子にすら精神的苦痛を感ぜしめざらんが爲め成
るべく之を隠蔽する。歐米に於ける失業者数が何百萬と稱せらるゝに比し、我國の失業者が三十萬臺に止まれり
とするは決して正確なる數字といはれない。觀じ來れば齊しく失業問題といふも、歐米と日本との間には本質的
差異あること斯くの如くである。然るに之を混同して世界的共通現象なりと稱し、何等責任を自覺せざるものあ

るが如きは無分別の甚だしきものと言はねばならない。

之を我が國民經濟の全局より觀る時、國內に多くの失業者あるは實に不經濟極まれる二重三重の消費である。失業者が有する技能體力を無意義に徒消せしむること其の一である。失業者及其の家族の生存に必要な衣食住の負擔を借金又は親族故舊等の何人かに背負はしめ、生産なき消費を他に嫁すること其の二である。既に技能體力ありて何等かの方法に依り直接間接國家に寄與し得るに拘らず、之を利用せざることを爲め國富の増進と國家人文の發達をそれだけ遅らかすの結果を招くこと其の三である。若し夫れ失業苦の爲め思想を險惡にし、或は生活の困窮に堪へ兼ねて死を急ぎ、又は自暴自棄に陥るものあるに於ては、是れ實に如何なる代償を以てしても取返し能はざる消費の極限といはねばならない。

消費節約を政綱の第一に掲ぐる現政府が區々たる枝葉末節の事項を重大視して國民生活の根柢に觸るゝ如上各種の絶大消費に顧念せず、然も自ら標榜せる節約主義の爲め財界を不振にし失業者を迫出せる如きは餘りにも悲惨なる矛盾であり、政策破綻である。殊に八億圓の件費を其のまゝにして五億圓の事業費を打切り、官界の間のみを擁護して一般國民間に多數の失業者を續出せしむるが如きは、一部少數者の爲に多數國民を犠牲にすと言ふものあるも之を否定し能はざる秕政である。

嚴正なる意味に於ける失業者は眞實に働くべき事業なく、場所なく、機會なき場合に限らるべきものである。國家に活用すべき事業あり、地域あり、方法あるに拘らず、然もそれが國家の將來にとりて極めて經濟的有利な

るにも拘らず之を活用せず、又は活用の途を知らざるは是れ眞實の意味に於ける失業者を以て目すべからずして本來は政府の不明又は無政策に禍ひされたる國民生活上の被害者である。

國家は常に其の共同生活體を支持擁護するが爲め國民に對して各般の義務を要求する。兵役、納税其他諸般の法律は皆其の現はれである。既に法律を以て義務を要制する以上、國家は國民生活の安全を保障せなければならぬ。生活の保障なくしては如何なる義務も満足に履行するに堪へ能はぬからである。俗にいはゆる生命あつての物種である。随つて之を國民側よりいへば吾々は生くる権利がある、生きんが爲めに働く権利を持つ。故に働くべき職を要求する権利を與へられて居り、而して職を要求する権利は他の語に於ては國民が必要な場合國家をして事業を起興せしむるの権利を意味する。たゞ國民共同生活の全局より見て斯くの如き権利の行使が、實際上不利と認むる場合に於ては、多數者の利益の爲め已むなく少數者の忍従を要求する。忍従を要求するが故に失業保險、失業基金制等を設けて他の手段に依りて生活を保障するのである。

故に國家の失業對策としては何よりも先づ、職を與へて失業者を無くすることである。それは國家が國民に負ふ所の義務である。先づ此の義務を盡して尙全部を働かし能はざる場合に失業基金及失業保險等の作用を喚起する。一方に制度を整備するの必要あると共に、應急的當面對策としては第一に失業者活用の途を講ぜざるべからざる所以である。

失業問題解決の具體策

以上の説明に依り我國の失業問題が歐米のそれと其の性質を異にする事實を知り得ると同時に、我國に於ける失業對策の如何に在らざるべからざるかは直ちに了解さるべきことと思ふ。

之を具體的に約言すれば、國家の力を以て大に生産助成事業を起すことである。元來國家經濟に於ける貿易上の輸入超過は實質上外國労働者に職を與へて自國の國民を活用せざる反映である。輸入超過の爲め支拂ふ所の對外勘定は外國商品の代價にして、外國商品の價格を構成する根本要素は即ち勞銀である。如何なる商品と雖も廣義に於ける勞銀の結晶にあらざるなきを以て全然我國に産出せざる純原料品以外、我が國民の技能勞力に依り生産可能なる商品を輸入することは即ち外國労働者に對して賃銀を提供すると同じである。然も自國內に多數の失業者及未就職者を抱へつゝ、何等積極なる輸入防遏策を講ぜざるが如きは、明かに國家それ自らの怠慢又は無政策を暴露すると異ならない。

生産事業の直接經營は公共利益の保持上眞に已むを得ずして國營と爲すものゝ外、原則として、民間之を行ふべきものである。隨つて國家の力を以て起興し促進すべき事業は、各種産業に對する助勢施設である。農業にせよ、林業にせよ、肥料、鐵、油、機械等の工業にせよ、政府自身の手を以て生産其のものゝ事業に従事すべきにあらずして、政府の行ふ所は是等總ての産業を振興發展せしむるに必要な各種の手段を盡すに在る——既述の舉ぐれば、生産助成施設以外、農業方面に於ては

- (1) 耕地整理
- (2) 農事改良
- (3) 國營開墾
- (4) 開墾助成等

林業方面に在つては、

- (5) 造林
- (6) 林道修築等

工業方面に在つては、

- (7) 肥料、鐵、油、機械等々基本工業の保護獎勵に由る勞力の需要
- 一般的施設としては、
- (8) 河川及港灣改修
 - (9) 道路修築
 - (10) 用排水擴張及改修等

是等幾多の必要なる施設が現に我が國民の手に依つて行はるべく眼前に取り残されてゐるのである。然るに今日我國に於て經濟的に有利なる失業對策なきが如く臆斷し、或は名を失業救済に藉りて姑息の計畫を地方に課しつゝあるが如きは更に不明と無策の上塗りを爲すものといはねばならない。

吾々は既述の通り産業五箇年計畫を樹立し自然増加以外別に十億圓の生産増加を期待するものである。而して之に要する六億圓の支出は概ね前記各般の助成事業に充當さるべきものなるを以て、そは他の語に於て對失業施設と同じであり、失業問題の解決策と其の内容を一にするものである。別言せば是等助成事業の實施に依り六億圓に該當する勞力が直接間接何等かの形に於て吸収されるのである。故に現に生活戰線に呻吟する失業者は直ちに活用され就職の途を發見し得るのみならず、是等助成事業の刺戟と進行とに伴ひ一般財界は頓に活氣を呈し幾多事業の興起擴張を見るべきこと必然たるを以て、更に知識階級といはず技術勞働者といはず、苟も活動に堪へ得る國民は旺盛なる勞力の需要に接すること極めて明白である。假りに現時の事實に即して産業五箇年計畫に依る國庫支辨及地方支出額を概算するも其の年額は最少限一億八千萬圓を下らざるが故に、統計が示しつゝある我國民所得一人一ヶ年三百五十圓を基準として算出すれば、一年を通じて優に七十二萬人の失業者を活用し得るのである。然も是れ唯政府事業に従事する直接の勞力需要數に過ぎずして、間接的の勞力需要——即ち此の事業に伴ひて必然的に振興する農工商其他各種産業及一般方面の勞力需要——は前者に比し遙に多きに上るべきを疑はない。

勿論、上述の施設は主として國家の力、政府の事業として率先其の任務を負擔するを當然とする。之を地方事業に委し少額の國庫補助を與ふるを以て足れりとするが如きは少くとも刻下の急務に適應すとは言へない。現に政府は失業救済を名として起債及補助條件を緩にし、且つ低利資金を供給する方法に依り、地方事業の起興を激勵しつゝありと雖も、各地方に在つては少數の都市以外内心寧ろ之に迎合せざるもの多く容易に其の實績は舉らない。如何なる低利資金と雖も、借りたるものは返済せなくてはならない。然るに今日の如き不景氣時代に際して目前直ちに直接的収益を豫想し能はざる助成事業を地方に要求するが如きは、さなきだに公課の重きに惱みつつある地方に對して更に過重の負擔を強ゆることとなり、決して時宜に適切なる政策とは言へない。從來國庫補助に依る地方事業は無論之を繼續すべきも、當面の失業解決策を單なる金融方法のみに依り主として地方に轉嫁するは甚だしく妥當を缺く。

且夫れ、所謂失業救済なるものは其の語の既に不穩當を極むるに止らず、其の發想に於て亦大に謬れるものである。現に失業者の要求する所は「救済」にあらずして「生業」である。各自の技能體力に適する職務勞役を求めつゝある者にして、決して國家又は地方の救恤を哀願してゐるのでは無い。不具老癯等に由る勞働不能の爲に困窮する者は別箇の法律即ち救護法に依つて救済すべきである。若し所謂救済を名として事業を起すに於ては、半ば慈善的恩惠的心理作用を誘發すること必然的なるを以て、其の能率の不良なるを免れ難く、随つて非經濟的結果を來すは夙に各國の屢々經驗せる所である。健全なる體力及技能を有する國民に對して救済呼ばはりは人格侮

辱でもあり、失業者は「救済」すべきものにあらずして「活用」すべきである。

失業対策と不景氣打開策の因果的關係

そも、失業対策は不景氣打開策と因果的關係を有する重要事にして一方が解決されるれば他の一方も同時に局面打開の効果を奏する。假りに前述の計畫に據り七十餘萬人の失業者が生業に就き、何等かの生産に従事すとせば、之に依つて收得する勞銀給料等は直ちに日用品其他の生活用に供せられ、購買力を喚起増進すること明かなるを以て、農商工其他總ての方面に需要供給作用を振起し、其處に一般好景氣を持ち來すに相違ないのである。況んや直接的には七十餘萬人なれども、該計畫に刺戟促進されて間接的に隆興すべき勞力の需要増加の更に多大なるものあるに於てをや。

世上或は斯くの如き積極的助成施設の爲に國費を増大し、國家の財政を膨脹せしむるに至らんことを恐るゝものありと雖も、是れ亦杞憂である。吾々の計畫は常に國費の増大を招かざるのみならず、前に述ぶるが如く却つて國民負擔の軽減を期しつゝある。今假りに一步乃至百歩を譲つて論者の言の如く多少の國費増加を免れずとするも、新たに投下すべき六億圓は殆んど其の全部が給料勞銀其他の形を取りて國民の手に落ちるのである——機械、材料等總て國産品を用ひる事とし萬已むを得ざるもの以外は、従前の如く外國品を購入せざる方針を徹底せしめる、故に現内閣の主張する如く決して輸入増加とならないのである——國民の手に落ちる金額は假令増加す

とも轉々循環して經濟界を需しこそすれ、國家の全局に於ては毫毛の損失は無いのである。苟くも國民の手に在る限り其の政府に在ると銀行に在ると將た何人の所有に歸するとを問はず、百のものは依然百として存在する。之に反して輸入超過よりする國富の減少は其の一錢一厘と雖も海外に流失して還らないのである。外國の勞働者を養ひ外國の農商工を賑はしこそすれ、自國にとつては永久の損失であり、之を取戻す爲には別箇の生産と勞力とを提供せねばならない。これ各國が全力を擧げて輸入防遏、輸出増進に心血を注ぎつゝある所以にして、國內經濟と國際經濟とを混同する一切の論議見解は其の根本的立脚點に於て悉く誤つてゐるのである。苟くも兩者の「けじめ」を識別する限り假令積極的施設の爲に若干國費の増大を餘儀なくすとも、それが國內の勞働力を活用し國産を増進し輸入を防遏するに有效なるに於ては毫も國家經濟の損失を招かず、否、至大の國益を齎すのである。滔々たる世の消極論者は蓋し國家經濟と國際經濟とを識別せざる結果、徒らに手を拱きて不景氣を傍觀し、何等有意義なる失業対策をも講じ能はぬのである。

尙ほ知識階級の失業問題に至つても、上述の計畫だに遂行せば當然に其の大部分は解決せらるべきである。如何なる事業と雖も單なる體力乃至下級勞働者のみにて事足るにあらず、其處には必らず優良なる頭腦と技術を要求せらるゝが故である。但し將來の方策としては現時の教育制度を改善し、殊に法科萬能主義の傳統的風習を匡正するを急務とする。今日各大學及専門學校より送り出さるゝ卒業生は昭和三年度統計に據るも四萬一千人以上り然もその中の大半は法文系（法律、經濟、文學、商科）である。然るに其の就職率を見れば法文系は三八%な

るに對し他方の理科系（理、工、醫、農）は七六%を示しつゝある。これ我が教育制度が國民の實際的要求に適合せざることを證明すると同時に、生産方面に對する教育の必要の切實なるを示してゐるのである。

更に近時世目を惹きつゝある朝鮮労働者問題に對しては既述の如く朝鮮、臺灣に於ける産業政策を樹立し、且つ産業統制の範圍を植民地に擴大することに依つて解決の手段を見出すべきであり、又斯くして解決されねばならないのである。

曾て大正七八年の交、歐洲戦争の好影響を受けて産業興り、輸出激増の盛況を呈せし時代は果して如何なりしや。人口過剰を歎ずる我國に一人の失業者なきのみか、却つて勞力の不足を告げ給銀は異常の昂騰を示したのである。當時の知識階級、大學及専門學校卒業者は各方面より引張風の觀を呈し、官界を志望するものゝ如きは寧ろ劣等者を以て目せられた程である。知識階級にせよ、筋肉労働者にせよ、産業だに振興し貿易だに好轉したならば最早や問題では無くなる。事の我國に關する限り、不景氣打開策と失業問題解決策とが事實に於て同一内容を有すること推して知るべきであり、而して其の不景氣打開策及失業解決策が積極的なる生産助成施設を遂行する以外、目前最も適切にして且つ效果的なる方策なきは既に何人にも明瞭であらう。更に所謂思想問題といひ、社會問題といひ、それが國民經濟の不振、就職難及失業問題に關聯する限り、若くは國民生活の不安に根ざす限り、其の對策も亦前來所述の方策を以て特に最も有效と信ずる。

第六 正貨問題の重大性

國際經濟戰の窮極點

今日、列國々民は悉く國際的經濟戰線に立ちて不斷の戰鬪に従事しつゝある將卒である。而して此の國際的經濟戰線は主として貿易の形を取つて列國間に展開されつゝあるが、其の最大武器は何かといへば即ち金である。正貨である。より多くの正貨を獲得せるものが最も強く、より少き正貨を持てるものが結局敗者の地位に置かれる。此の意味に於て正貨は平和的經濟戰の砲彈であり、これ無くては如何に精銳なる肉彈を以てしても一挺の速射銃にも及ばぬのである。

學者間の議論としては所謂重金主義ではいけないとか、貨幣偏重主義は不合理だとか、從來から種々の意見が行はれてゐるが、然し現實の世界に於ては何としても正貨問題を輕視することは出来ない。嘗に輕視する能はざるのみならず、實際に於ては最も激烈なる貨幣戰爭の時代である。國際的經濟戰の別の言葉が貿易戰爭、關稅戰爭等の形に於て言ひ現はさるゝならば、貿易戰爭、關稅戰爭の合言葉は即ち貨幣戰爭奪戰である。正貨の奪ひ合ひである。眞實「金が敵の世の中」であり、正貨が無くなるといふことは國の滅亡と殆んど同じ意味に歸着する。矢盡き刀折れて敵に降伏すると同様の運命に落ちる。

斯かるは何人も熟知する事實であつて最早や議論を必要とせぬのであるが、然も我國民は果して正貨問題の重大性に就いて正しき理解を把持してゐるだらうか。曾て露西亞のルーブル紙幣が反古同様となつたことがある。又獨逸のマークが慘落又慘落殆んど無價値に歸したことを世人は今尙記憶してゐるであらう。そは如何なる理由に原因せるか、革命、變亂、戰敗の爲め兌換制度の基礎が破壊されたからである。經濟的にいへば通貨に對する正貨準備が無くなつた爲である。正貨準備を缺ける通貨は即ち不換紙幣である。不換紙幣はたゞの反古紙と同じである。唯だ國家に信用のある場合は必ずしも正貨の準備如何に拘らず相當の價値を有するが、その信用程度は即ち國民經濟の強弱に比例する。而して國民經濟の強弱を表現する第一のバロメーターは貿易上の數字である。輸出超過の國家でありさへせば國際上當然に受取勘定が多く債權者の地位に在るものなるが故に敢て必ずしも正貨の準備高を争ふに及ばない。英國は輸入超過國であるが、世界各國に對して巨額の投資を行ひ其の元利及配當金に依つて十二分に貿易上の支拂勘定を以て、實質的には矢張り輸出超過國と同様の優位を占めてゐる。單に商品關係より見れば英國は戰前戰後共世界一の輸入超過國なれども、金の出入關係を加へて綜合的に清算せば立派な輸出超過國である。又佛國は外人觀光客が年々十億圓もの金を同國に落して行く、伊太利の如きも矢張り觀光客や移民の送金に潤ほされてゐるのであつて、それが國際戰線上非常に力強き兵糧となつてゐる。然らば我國は如何に在るか。

我國內地の正貨保有高は本年八月末現在に於て八億七千萬圓と發表せられてゐるが、之を本年一月金解禁當時

の保有高十一億圓と稱せられたる當時に比すれば、既に内地のみにも二億三千万圓の激減である。それも内地の産金高や、支那方面より流入せる正貨二千七百餘萬圓を繰入れての事であり、別に三億圓餘の在外正貨も準備されてゐたのである。然るに其の在外正貨も今は殆んど消盡せるものゝ如く、隨つて内地正貨の流出額と在外正貨の減少額等を合して既に約五億圓内外の金が過去半歲餘りの間に減少してゐるのである。

勿論如上の激減中には金解禁直後に於ける一時的現象として目すべき分も若干は含まれてゐるであらう。併しながら之を貿易關係其他の受渡勘定に照らして今後の趨勢を推すとせんか、甚だ樂觀すべからざるものあるを知らねばならない。否、目下の状態の如くんば現に保有する八億七千万圓の正貨が明年上半期の輸入期末に至り六億圓に降ること無しとは何人が斷言し得よう。若し斯くの如くにして一年約二億圓内外の海外流出を現状の儘に見送るに於ては、今後數年にして如何なる事態に逢着すべきか、其の結論は餘りにも明白なるのみならず、それは聽て經濟國難の最後の運命を豫告するものといはざるを得ない。

正貨問題に對する第一の目標は繰返す迄もなく輸入超過の數字である。事の我國に關する限り貿易以外の收支は移民の送金、外來觀光客の消費、滿鐵其他海外放資額の配當及利子並に海外運賃收入等を合して約一億五六千萬圓を推計し得られるが、之に對しては外債利子其他の支拂に大體同額の金を持出さねばならぬのであつて、此間殆んど何程の餘得をも期待することは出来ない。隨つて今後尙從前の輸入超過を持続するに於ては、植民地を合せて來年上半期に至り少くとも二億乃至二億五千万圓の正貨減少を免れ難き立場に置かれてゐるのみならず、

其後に於ても特殊の方策を樹立し急速に生産増加、輸入防遏の計を講ぜざる限り、毎年保有正貨の流出を防止し能はざる苦境に立たねばならない。これ即ち何等掩ふところなき我國の現勢であり、其處に經濟國難の窮極點を暗示されてゐるのである。

列國の對策と我國の現勢

吾々が本年一月の金解禁を以て其の時期を得ざる無準備の輕舉たるを憂ひたるは前述の實情に深き關心を有せるが故である。本來は先づ輸出入の均衡を保持し得べき方策を確立し、正貨の流出を未然に防止すべく適切なる用意だに具備せしならば、現に見るが如き苛烈なる激動を我經濟界に惹起せず、僅々半歳の間に内外を合せて五億圓にも上るが如き正貨の減少を招かなかつた筈である。

日本は英米に倣つて舊平價解禁を斷行したが、此の三國の經濟的位置と云ひ貿易關係と云ひ、それ等に於て如何なる比較が示されて居るか、米國は生産充實せる大輸出超過國であり、英國は充溢せる資金と廣大な領土關係に於て貿易收支以外に大入金國である、然るに我國は遺憾ながら産業的には未成熟國であり、連續的入超國である、何の資格あつて英米と同一の事が爲し得るであらうか。然るに正貨問題と緊密の關係に在る入超に對しては何等對策をも樹てず漫然解禁を斷行せる如き、或は之を以て低物價策——輸出増進の背水的政策——と考へしやも知れぬと、そは投機的無謀の舉であり、之が爲め國民をして不安危險の境地に陥らしめたのである。濠洲、亞

爾然丁が輸出農産の暴落に遇ひ金再禁の舉に出でし實例に顧みても、國際貸借の決済に對する準備が如何に緊切なるかを知るべきである。人の知る通り米國は現に六十億圓に近き正貨を保持し、世界に於ける金の約半額をも所有しつゝあるが故に舊平價を維持するは極めて當然のことであり、又英國は多年世界の債權國たる地位を占め、戰前各國及植民地に投下せる同國の資本額は米國と雖も數歩を譲らねばならない。隨つて英國が債權擁護の爲め舊平價に復歸するの必要あるは寧ろ米國以上に緊切なる理由を有つてゐる。然るに其の英國に於てすら舊平價解禁の爲には一年以前より特別委員會を組織して慎重なる調査と準備を重ね決して輕率には之を斷行しなかつたのである。そのみならず英國政府は豫め金本位制復歸の準備として、戰時の財政整理と同時に節約せられたる國費の剩餘を以て短期流動公債及政府紙幣の償還を行ひ、或は外國債を長期の内國債に乘替へる等實際は四五年以前より極力解禁の用意を整へてゐたのである。それ故に一九二〇年頃には十四億磅内外に上れる流動公債も解禁直前には八億磅臺に減少し、外債其他の不確定公債も七十五億磅臺より六十六億磅臺となつてゐた。即ち金解禁直前の四五年間に約十五億磅(百五十億圓)を整理償還してデフレーション政策を實行し、時機の到るを待ちつゝあつたのであつて、之を我國の政府が新内閣成立匆々率然として解禁を聲明せるに比すれば全然同日の談では無い。然も尙其上にも英國は特別委員會を設け十二分の準備を講ずること前述の通りである。

然るに斯くも慎重に慎重を加へ、準備を重ねたる英國と雖も、一たび金解禁を行ふや、其の經濟界に與へたる衝動は尋常では無かつた。勿論我國の如き痛烈なる激動を惹起せざりしとはいへ、舊平價解禁の結果として産業

貿易上に不利なる影響を與へたる事實は既に一般に認識せられてゐるのみならず、同國の有力銀行及財界の首腦者間には舊平價解禁の無謀なりしを非難し、金本位制無用論を主張するもの、乃至新平價説を高調する論者少なからざる有様である。敢て問ふ、我日本は英米と比較して同等の經濟的實力を誇り得べき如何なる實質的資格を有しつゝありや。其の國民經濟、其の國際的地位、其の富源、其の財力、其の債權、其の産業能力等の如何なる點に於て無準備無條件の金解禁を最良の方策とし之を無批判的に謳歌し得る程の要素を具備しつゝありや。若し之を具備しつゝありと公言し得るならば、折角舊平價解禁を行へるにも拘らず、先般の英債借換に際し何が故に利廻六分二厘にも該當する國辱的公債をすら忍從せなければならなかつたか。眇たる玖馬すら五分七厘、南亞の如きに於ても五分九厘の公債を米英に募り得たのである。現政府は金解禁の最大理由として英債借換の事を喋々しつゝありと雖も、僅々半歳間に五億圓内外の正貨を激減せしむるよりは寧ろ該英貨公債の現金償還を行ふ方遙に有利且賢明としたのである(當時若し總額二億三千萬圓に對し該英貨公債の現金償還を行ふとせば、恐らく其半額を以て事足り殘餘は既に我國に買戻されてゐたのである)。

更に之を佛國の實例に見るに同國は其の金解禁を行ふに方りて、敢て國際間の體面論などに拘泥せず、舊平價約五分の一の新平價を以て解禁を斷行し我國とは全く其の政策を異にしたのである。然も同國の經濟界は之が爲め何等不良の刺戟を受けざるのみか、爾來頓に形勢好轉し世界各國の不況時代に際し寧ろ戰前以上の活況を現出しつゝある。之より先き佛國戰後の國勢は實に艱難を極め、爲に頻々内閣の更迭を見ると共に幾多非常手段が講ぜられ國情容易に安定せざりしが、幸にドウス案も成立し獨佛通商條約の締結に會し、新平價解禁の効果顯然た

るものあり、俄然として經濟界の形勢は一變したのである。近時の報道に據れば同國に於ける保有正貨現在高は實に四百六十七億法(平價にして三十六億七千萬圓)に上り、尙別に多額の在外正貨をも保有し、比隣各國皆失業問題に困じつゝある際、同國獨り財界の好轉と産業の復興擴大とに依り啻に失業者の影を見ざるのみならず、逆に外國労働者の移入を目撃する程の好状態に在る。

斯くいへばとて吾々は直に濠洲及アルゼンチンの例に倣ひて金輸出再禁止を主張するものにもあらざれば、佛國の如く舊平價の即時切下げを當局に強要するものでも無い——但し現内閣の辯護者が濠洲に於ける金輸出再禁止の事情を誤解し、之が爲め同國の不景氣を來せるが如く云爲するは原因と結果とを取違へたる謬見である。濠洲は同國輸出の主目たる羊毛其他農産物の暴落と國民生活に必要な日用品の生産缺乏の爲めに貿易の均衡を失し、對外支拂不能状態に陥れる結果再禁止を行つたのである。別言せば同國の再禁止は即ち財界の不景氣、經濟界行詰りの結果であつて其の原因では無い。然も斯くの如き不景氣と行詰りを告ぐるに至れる主なる理由は實力に伴はざる舊平價解禁を急げる爲めなりといふも失當では無いのである——

吾々の望む所は我が日本をして能ふ限り濠洲の如き状態に立至らしめざることを期するに在る。加之一旦既に舊平價解禁を行へる以上極力之を維持せんことを欲するが故にこそ各般の調査攻究を遂げつゝあるのである。そして其の結論が國家の根本方策として、將た當面の不景氣打開策として、積極的なる産業發展策を講じ以て輸入防遏と輸出増進に最善の努力を傾倒する以外、妥當適切なる效果的手段なしとの斷案に到達したのである。

然も此の政策たるや、最早や緩漫遲疑に流るゝを許さない。一日一刻も速に實行に着手するにあらずんば、國民生活を安定し、經濟界の不況を好轉せしめ能はぬからである。前にもいへる通り現在八億七千萬圓の正貨は現狀を持ち續くる限り兩三年にして残り少なくなるのである。現に貿易關係の示す所は一年二億乃至三億圓の正貨流出を餘儀なくさるゝ傾向を呈しつゝあるのみならず、若し此の狀態を速に一新するにあらずんば其の前途は容易に樂觀し能はぬのである。随つて今後尙漫然として何等對策を急がざるに於ては三四ヶ年にして自滅的行詰りを告げ、最早や再禁止乃至平價切下げの利害を論ずる資格も無くなり、單なる支拂不能てふ破目に陥るだけである。これ即ち國際經濟の死線に立つと異るなく、國際經濟の死線は國家及國民にとつて何ものにも代ふべからざる絶對的危局たるを知らねばならない。世の消極主義者と樂觀論者は此の死線、此の危局をしも何等憂慮するを要せずとするか。此の最後の場合に臨んでも尙天佑的なる景氣の循環を待望せば可なりとするか。

應急對策樹立の必要

明治以來の日本は偶然にも十年毎に戰爭に際會し、之を機會として國勢の躍進と經濟界の展開とを經驗した。併しながら幸運は手を空しくして待つべからず、過去に好轉せる偶然の事實が重ねて今後に反復され得るか否かは神明の外に豫知すること不可能である。然るに其の豫知し能はざる幸運を空頼みして目前に現はれつゝある國難に無關心なるに於ては前途實に寒心に堪へざるものがある。世上或は正貨問題を論議するを不可とし、再禁止

論者に對して殆んど非國民呼ばはり爲すが如き者すらありと雖も、歐洲各國に在つては夙に此の問題を重大視せざるなく、之が爲め屢々内閣の更迭を餘儀なくせること、吾々の寡聞を以てするも實に十數回の多きに及んでゐるのである。殊に最も保守的國民にして經濟上の自由主義を尊重する英國ですら、多くの有力者が舊平價解禁の失敗と金本位復歸の無謀を高唱しつゝあるのである。然るに我國に限り何が故に國民經濟の死活問題たる正貨問題に觸るゝを非とし、自ら目を閉ぢ耳を塞ぎて之を忌避すべしとするか。

試みに思へ、今後若しも生絲の低落に依る輸出減退の趨勢が容易に好轉せずして依然貿易の均衡を失ふ結果、正貨の流出を繼續し、若くは萬一兌換の不安に起因する資金の海外移動を激成するが如きことあらば、其の金融及國際信用に及ぼす影響と、國民經濟に與ふる壓迫とは果して如何。勢ひの趨く所遂に濠洲の如く金輸出再禁止の已むなき狀態に立至らん虞れあるは寧ろ自明の理にあらずや。且又若しも我國の正貨保有高が或る程度の規準を割るが如きことあるに於ては、實際上舊平價を支持せんと欲するも支持し能はずして國際間圓價の變動を惹起するに至らんは是れ亦避け難き徑路ではないか。然るに此の見易き事理に沈黙し、或は之を未然に防止すべき政策をも講ぜず、更に之を攻究論議するをも不可とし、恰も腫れものに觸るが如き態度を執るべしとせば萬一の場合如何にして我が國運民命を支持せんとするか。斯かるは眞に國家の前途に忠誠なる先憂者及責任を解する政府の態度と稱し得ようか。佛國は舊平價五分の一の切下げを行ひたれども之が爲め何人も同國の國際的威信が失墜したとは言はない。否、世界各國は却つて佛國の政策を賢明なりとし稱讃してゐるのである。國家の實力、國民

の經濟的信用は舊平價と新平價との如何に依るにあらずして其の實質の強弱如何に由るのである。舊平價を維持し正貨の流出に苦惱するよりは、若し識者輿論の向ふ所新平價に依つて財界が好轉すとせば、新平價の斷行何の憚る所があらう。故に現内閣の人々（濱口首相及井上藏相）が新舊平價の問題を論議するを非とし、之が爲め實際間の威信を害するが如く強辯しつゝあるは却つて國家及國民經濟の重大問題を理解せざる證據である。今日の日本に取りて眞實に憂慮すべきは最後の兵、最後の一錢となる迄も不利なる戰勢を傍觀して何等對策を講ぜざる無自覺と苟安姑息とである。自他共に殆んど堪へ難き苦難に直面しつゝ強ひて己れを辯護せんが爲め一時逃れの樂觀論を唱へ、明日の計を考慮せざるその日暮らしの政治である。此の意味に於て今日正貨問題の論議を封ぜんとするが如きは、所謂耳を覆ふて鈴を盗むの類といはねばならない。

吾々は素より自ら好んで不祥の言を發するものではない。唯だ思慮ある國民は常に最悪の場合を豫想して最善の計を樹てる。最悪の場合を豫想するが故に、假令如何なる難關に逢着するも見事に之を突破し得るのである。吾々は有爲なる我が國民が必ずや此の覺悟此の確信あるを信するが故に、率直に内外の現勢を述べると共に今後の經濟政策の如何に在るべきかを解説したのである。繰り返していふが正貨の問題は尙相當の準備を保有する期間に於て其の對策を樹立せなければならぬ。若しも之を怠り遲疑逡巡して萬一にも兌換制度の基礎を動搖せしむるが如き事態の發生、又は此種の不安を起さしむるが如き場合に立至りたる後、遽に周章狼狽して始めて善後策を講ずることゝならば、其の國民經濟に及ぼす影響の痛烈さは恐らく今日の難局に數倍せんことを知らねばなら

ない。尙相當の準備高を保有する期間なればこそ有效有意義なる對策を確立し得るのである。一旦所要準備額を割るに於ては其處には既に議論も辯解の餘地もなく、唯だ再禁止と圓價低落の運命を宣告されるだけである。是れ吾々が時艱を默視するに忍びず、正貨問題に對する世人の注意を喚起すると共に、之が根本的且應急的對策として産業五箇年計畫及之に關聯せる各般の積極的施設を急務とする所以である。

第七 米及蠶絲問題に就いての對策

（竝に朝鮮、臺灣に於ける産業政策）

米及蠶絲は我が國民經濟上最も重要にして且特殊的性質を有する問題である。殊に本年の米作は内地植民地共未曾有の豐穰を報せる結果、近時價格の激落を告げ、蠶絲も亦昨年の高値時代に比し半額以下に暴落せることは既に何人も知悉する所である。故に之が當面の對策を講ずると共に、將來の根本方針を確立し適當なる施設を行ふの急務なるは言を俟たない。而して其の方策を適切妥當化する爲めには單に内地のみならず朝鮮、臺灣に對しても一貫せる政策の下に合理的施設を行ふの必要があり、各植民地に於ける産業政策の確立と統制とが緊切なる

要務である。以下少しく其の趣旨を述べる。

米價調節問題

先づ米の問題に就いて云へば、從來國民生活上の最大關心事として、又我國産業上の一大弱點として、深く朝野を悩まさしめたるは國民の主食物たる米の不足であつた。それは「價格」の問題よりも寧ろ「量」の問題として重要視されて來たのである。大正年代に於ては、此の量の不足を補ふため、多き時は五百萬石以上、少き時も尙百萬石内外の外米を輸入し、大正十四年の如き約七百萬石を朝鮮、臺灣より移入せる上に、更に五百萬石以上の外米を輸入し、之が爲め外國に支拂へる金額は實に一億二千萬圓に上つた。昭和年代に入つてよりは朝鮮、臺灣米の移入増加に依り外米購入高は漸次減少し、昨年の如きは特殊の用途に供せらるゝ碎米百萬石内外を加へても總額百五十萬石以内に過ぎないのであつて、食用米の輸入は殆んど皆無に近い程に激減した。

近年我國に於ける米の生産高は漸次増加の趨勢を示しつゝありて、大正十四箇年間の平均五千六百萬石に對し昭和四箇年間の平均生産高は五千九百萬石に上り、今後更に種子の改良、耕作法の進歩、耕地の整理及擴張等に伴ひ一層其の産額を増加するに於ては植民地よりの移入と相俟ちて、當面量の不足を補充するに苦しまざる機運に向ひつゝある。殊に本年の如きは假令稀有の豊作とはいへ、内地植民地を合して五六百萬石の過剰を見るべしと傳へられ、之が爲め多年朝野を悩ませる「量」の問題は一變して今や「價」の問題を惹起してゐるのである。

勿論此の豊作は尙異例と見るべく、之を以て常時を律するは未だ必ずしも妥當の見解とはいはれない。故に國家の根本方針としては、過去の統計に照し、將來の人口増加に伴ふ消費を考慮して、依然相當の増産計畫を必要とし、少くとも自給自足の方策を確立すべきであり、又其の可能性の極めて確實なるものあるを疑はない。

自給自足則ち「量の問題」は既に述べた通りであるが、然らば「價の問題」は如何。之に對しては更に根本的に適正なる政策の樹立を要するのみならず、特に刻下の狀勢より視て當面的に其の急務を訴へつゝある。若し之を成行の儘に放任して、其の暴落を傍觀し何等顧る所なきに於ては、折角改良發展を遂げ來れる我米作の進歩を頓挫せしめ形勢逆轉の虞れなきを保せない。何となれば價格暴落の爲め農家に取れて採算不利を告ぐるに於ては自然米作を差控へ、耕地の整理擴張等に努力を注がざる傾向を惹起せずとは限らぬからである。

殊に本年の米作は、内地のみにも六千六七百萬石に上ると豫想せられ、之を平均生産額に比ぶれば、六七百萬石の激増である。我が國民の如く内地米に對する執着心強く、萬已むを得ざる場合の外容易に外米を口にせざる状態の下に在りては、僅少の不作と雖も代用米に乏しき爲め、忽ち價格の暴騰を免れざると同様、一割にも上る豊穰を告ぐるに方りては、忽ち價格の暴落を招くを免れない。現に最近の市場は尤も明確に此間の事情を物語りつゝありて、概算六千萬石の割六百萬石の増收を聞くや、正米市價は四割安の十八圓を告ぐる有様である。年の豊凶に依り收穫の増減は素より當然なりと雖も、之が爲め平時の實態を超越せる急騰又は暴落を免れざるが如き特殊の事情を有する我國に在りては、其の一般經濟界に及ぼす影響、特に現在疲弊困憊の實情に在る農村の

打撃は蓋し想像に餘りありといはねばならぬ。

茲に於てか根本的米價調節策の樹立は、國民經濟上一日も猶豫すべからざる緊急要件となりつゝあるが、此際從來の米穀法のみによつて遺憾なき解決を期せんとするも、到底其の效果の徹底的なるを望み難い。假令其の運用資金を倍額し過剰米を買上ぐるとしても、其の數量、金額に於て素より容易ならず。且つ買上げられたる多額の過剰米を單に從來の如く貯藏せんか、夫れは一種の重荷となりて常に市場を壓迫し累を後日に遺すの虞れあること、絲價補償法に依りて金融を受けたる生絲が今日却つて市場を壓迫し貿易上の痛と看做さるゝに至れる事實に鑑みて三思を要する。

故に吾々は米穀法の根本的改正を圖ると同時に、先づ現行法の施行範圍を擴張し、之を朝鮮、臺灣に及ぼし、本年の如く生産過剰の爲めに米價の暴落する時は、是等産地より直接海外に賣り放つ途を開くことを以て當面最善の策と考へる。

率然之を聞けば、多年米の輸入あるを知りて、全然輸出方面の事情を精査せず経過し來れる我が國民中には果して其の可能なるやを疑ふものあらんが實際に於て米は現に重要な國際商品の一つである。而して其の輸入國は單に日本のみにあらずして、支那も、印度も、瓜哇も多額の米を外國より買つて居るのである。現今米の主要生産國中輸出力を有するものは蘭貢、西貢及暹羅の三ヶ國のみに過ぎずして、是等三國より世界各國に供給さるゝ輸出總額は昭和四年度に於て約六百萬噸、三千六百萬石に上つてゐる。而して此中日本に輸入せられたるは

僅に百五十萬石に過ぎないのであつて其他は支那へ四百六十萬石、印度へ七百萬石、瓜哇へ三百五十萬石、歐洲各國へ一千萬石、北米へ百四十萬石である。

假りに歐米方面は別としても、我が近域たる支那及び瓜哇の兩地が約八百萬石、印度が七百萬石の米を外國より輸入して居る事は特に注目すべき事實であつて、過去に溯れば、明治二十八年頃迄は我國も亦歐洲大陸其他諸國へ米を供給して居つたのである。故に我が對策だに宜しきを得ば米の輸出は何等不可能ならざるのみならず、隣域支那の如きは人口増加と消費の増進に依り近年輸入遞増の趨勢を示し、將來の需要も亦更に増加するものあるを豫想せしめる。

唯だ問題は價格の一點に在る。我が内地米産と蘭貢及西貢等外米との間には現在我が米價の廉なる際と雖も、尙一石四五圓の差あるが故に此間相當の對策を講ぜねばならない。即ち我が領土中最も生産費安き朝鮮、臺灣米を其の産地より直接海外の需要地に輸出すとせば、運賃其他の關係をも加へて内地米よりも割安に外國に供給し得ることゝなり外米との値幅は相當縮少する。假りに此の方法に依り二百萬石を鮮臺兩地より輸出し之を外國市場に賣放つとせば之を内地に賣るに比し石五圓の差としても一千萬圓であり、三百萬石として千五百萬圓の差損となれど、我が國民經濟の全局より見れば是れ寧ろ小額の犠牲である。之に依つて農村の脅威を脱し、それに伴ふ一般經濟界への衝動をも除去し得るに於ては、敢て忍び難き犠牲では無いのである。之に反し若し現在の儘に放任せんか、我が米價は自然に世界的水準に下り西貢及蘭貢米等と殆ど同一又は僅少なる價格の差に甘んずるの

外なきに立至らば必然的である。政府が極力買収貯蔵を行ふとしても其の數量に限度あるのみならず、之を輸出せざる限り内地に停滯し、其の結果として勢の趨く所或は外米以下の價格に低下するやも測り難く、然も其の貯蔵米の爲め幾年かの間、内地の米價を壓迫さるべきは今より推斷に難からぬのである。

斯く考へ來れば米に對する政策は自給自足を原則とし、凶年に備ふる適當數量の貯蔵を別とし、より以上の剩餘を告ぐる場合は、之を海外に輸出するを以て最も得策とする。而して之が爲め國家が多少の負擔をなすは世界の標準價格に於て彼猶格段の差違ある以上、止むを得ざる次第であり、特に本年の如き稀有の豐作を深刻なる不況時に迎へたる場合の對策としては、如上の輸出政策を除き他に良法は有り得ないと信ずる。

世間往々米價が下落すればする程、消費者階級の生活負擔を軽減し、勞銀其他一般低物價策に適應すと稱する者あるも、國民の大半を占むる農民が其の主要生業と爲しつゝある米價をして其の生産費を割らしめ、僅かに數ヶ月の間に四割内外の暴落を現出するに至れる現狀をも憂慮せず、之を成行に放任してより以上の慘落をも拱手傍觀せんとするに於ては、國家經濟の全局より觀て、それこそ國事を辨せず政治を解せざるものと評するも敢て過酷とはいはれない。之を以て吾々は速に現行法を改正し先づ生産過剩の爲め比較的安價にして且つ海外販賣に際し輸送上にも便宜を有する朝鮮、臺灣に其の施行範圍を延長し、以て當面對策の實行に資すべきを主張する所以である。

朝鮮、臺灣を含めての産業統制

元來朝鮮にせよ、臺灣にせよ、等しく我國の統治範圍に屬する以上、内地産業と競争して利害の衝突を醸すが如き方策を行ふは決して賢明とは言はれない。故に産業統制の區域を鮮臺に及ぼすべきは極めて至當のことであり、鮮臺夫れ自らに於ても、内地の政策と照應協調して有無相通、共存共榮の計を樹つるを永久の得策とするのである。然るに顧みて從來の實狀に徴するに、鮮臺共に貿易上年々輸入超過を示し、其の額一億圓内外に上るが如きは國家として大に考慮すべきものと云はざるを得ない。現に朝鮮に於ては頻りに産米を獎勵せる結果、今や却つて内地の農村を脅威する程の狀態を呈しつゝある反面に於て、年額三千萬圓の肥料等を輸入しつゝあるが如きは決して策の宜しきを得たるものとは云ひ難い。臺灣の如きも内地に六七千萬圓の米を移出しながら他方に於ては五百萬圓の外米を輸入し、且千二百萬圓の豆糟、一千百萬圓の硫安を輸入し居るが如き（昭和三年）何れも賢明とは云はれない。國民經濟の全局に於ては輸入防遏、輸出増進を根本的建前として其の方策を運用するの當然なるは吾々の機會ある毎に縷述せる所であるが、朝鮮の如きは我が内地に不足せる大豆、麥及棉花、柞蠶等の生産を獎勵すべく、又臺灣に於ては砂糖以外麻、煙草、鹽の如き、内地が外國より輸入する品種の増産をこそ圖るべきである。

大局に眼醒むること遅き一部人士は言ふ。粟、麥、豆等の如きは、假令之を北海道及植民地に植付くも滿洲

又は米國品に比し割高となり、是等に壓迫せらるゝが故に寧ろ低廉なる輸入品を購ふを利とするにあらずやと。是れ世に所謂自由貿易論者と同一謬見に出發するものにして、假りに論者の言の如く、外國産の割安なるを理由として内地の生産を差控へ、悉皆之を輸入に仰ぐとせば其の結果は如何になるか。現在の輸入超過二億五千萬圓は一躍して五億七億に上り、八億圓の正貨準備高も一年にして消盡するのみならず、之が爲め國內に生業を失ふもの數百萬人を算すべきは極めて明白である。輸入に必要な正貨なくして如何に貿易を決済せんとするか。國民多數の生業を奪ひて何物を與へ得る確信ありや。之を個人の生活に考ふるも、自己に資財ある場合は勞役を避け生産を缺くとも尙必需品を購ひ得るであらう、然し之を費消し盡して無財産となりたる曉は如何にすべきか。借金には限度あり、自己の信用以上に貸すものは無い。故に猶相當餘力を有する時に於て獨立生活の計を立て、一面其の資財の保持に努むると同時に、他面將來の計を樹つる必要あるは自明の理である。是れ吾々が今日速かに國家の力を以て國內に不足せる生産増加の大計を樹て、輸入防遏、輸出増進の目的を達成するが爲め必要なる保護、統制及積極的助成施設の缺くべからざるを主張すると共に、其の統制範圍を朝鮮、臺灣に及ぼす事の急務を高調せざるを得ざる所以である。

所謂鮮人勞働問題の如きも、主として彼我の間に何等産業政策の統制調和なきが故に發生するものにして、鮮臺に於て産業政策だに確立し、内地と照應協調する方針の下に各々適切なる施設だに行はゞ、彼等も相當の職を得て大體自然的に解決され得るのであつて、今日斯かる問題に悩まされざる能はざるは是れ亦畢竟産業政策の樹

立を怠れる缺陷に由來するのである。

蠶絲問題の現在及將來

蠶絲政策の重要性は我國の貿易表が極めて明快に證據立てつゝある。單に生絲の一種目のみにても内地の需要を満たして猶既往數年間平均八億圓内外を輸出し、之に絹物類を加ふれば九億圓以上に上り輸出總額の四割五分に達する有様である。

然るに其の生絲が本春來激落に次ぐに激落を以てし、隨つて其原料たる繭價も慘憺たる暴落を告げ我國の不景氣は之が爲め甚大の深刻を加へて居るのである。年産六億圓内外にも上る繭の價格が急激に低落して農家に大打撃を與へたる結果其の購買力を激減せしめ、延いて一般商工業其他各方面に直接間接痛烈なる影響を及ぼしつゝあることは最近米價の暴落と共に、我が經濟機構の全面に亘り複雑なる相互的因果關係を有する現實の社會に於て最も痛切に何人の眼にも映出しつゝある所である。

世の一部には國內に於て生産可能なる十億圓以上の日用品を依然外國より輸入しながら、今や我國は全般的に生産過剩に陥り、之が爲め不景氣を招來せるが如き錯覺的悲觀論者が少くない。これ蓋し生絲の暴落に眼を奪はれ、國內的需要の關係と、世界不況の影響とを見分けもせず、全部的に一切の現象を混同して實際の真相、國際經濟の全局を辨別せざるの致す所と認められる。本來よりいへば生産過剩なればこそ、その餘剩を輸出し得るの

であり、然らざれば國際經濟戰に進出し能はぬのである。此の意味に於て我が生絲は幸ひにも内地の需要を充たして尙過剩あるが故にこそ、年々巨額の輸出を爲し我が貿易の大宗と成りつゝあるのであり、今後とも永久に益々其の發展を期する爲め適當なる國策を必要とするのである。

惟ふに生絲國策の重要對象としては、人造絹絲及我國以外の生絲產出國に優勝すべき方策を缺くべからざると同時に、變轉する世界の需要關係を考察し、臨機適當の施設を怠つてはならない。然るに現時の實情は果して如何ぞや。

勿論、事の生絲市價に關する限り、米國の不況に大なる波動を被らざる能はざるは寧ろ見易き理にして、斯かる昭々たる事實の前に疑惑を挟むものはあり得ない。併しながら嚴正なる問題は斯かる見易き理あるにも拘らず同國の不況と其の影響が我が生絲に甚大なる衝動を持來す事を考察して豫め何等か對策を講ずるの途なかりしや否やに在る。殊に是等の事情あるをも顧みず、恰も時を同うして國際貸借に關する何等の準備もなく俄に金解禁を斷行し、市價墜落の勢を加重せるが如きは抑も國家爲政の任に在る者として、其の宜しきを得たるや否やに在る。米國其他各國が不景氣であればある程、我國としては十二分の用意と準備とを整ふるにあらずんば、一個の黨派心などに驅られて輕舉するを容さない。然るに政府は率然として金解禁を聲明し斷行したのである。其の結果として少くとも爲替相場の比差に依る生絲價の低落は即ち市場に現はれざるを得ない。然も是れ唯だ最少限度の影響であり、單なる形數上の波動に過ぎずして實際的には我國の經濟價値が何程に評價せらるゝか、又表面上に

持來さるべき最少限度の影響と雖も、之を動機として如何なる副作用を起すべきか。是れ責任を解する爲政者として深き考慮を缺くべからざる重大事實たりし筈である。

加之、現政府は一面頻りに米國の不況を宣傳すると共に、他面我が經濟界の不健全なるを叫びつゝ不用意にも無準備の金解禁を行へる結果、忽ち意外なる副作用を迫出せるに驚き蒼皇として其善後策に焦慮するの餘り、當然に熟慮すべき經濟關係の大勢をすら推測を誤つたのである。そして自ら主張せる金解禁の精神とは背馳したる生絲價安定補償法に依り極めて拙劣なる人爲策を採つた爲め爾來益々形勢を不良化するに至つたのである。此間假令銀價暴落の影響あるにもせよ、そは自ら求めて競争國たる支那及歐洲生絲の發展に絶好の機會を與へたと異ならずして、急激なる生絲價の暴落と我が輸出の一時的激減を來せる直接的原因を追究せば、何としても現内閣の責任を見通し能はぬのである。

然れども是等の事實は既に過去に歸せるを以て茲には別問題とし、眼前に切迫せる急務は、今日及今後の計を如何に樹つべきかにある。換言せば、第一には如何にして此上の低落を防止し、適當なる生絲價の安定を期すべきか、第二には世界の趨勢に順應して我が蠶絲の生産を調和せしむべき方策如何。是れ刻下最緊要の問題たらねばならない。

先づ第一の生絲價安定策より云ふならば、他事は差措きても政府の補償其他に係る二十萬梱の在庫品に對し臨時消化の應急策を講ずる事である。年額五十五萬依の輸出を以て近年の常態と見らるゝ需要關係に對して二十萬梱

(十一萬俵)の停滯品を保持することは、恰も難治の病根を体内に抱藏するが如く常に之が爲め血液の循環を障
げられ、市場の圓滑なる活動を阻碍せずには措かない。殊に本來年に互る需給關係を豫想すれば一層過剩の虞れ
ありとも不足を告ぐべき状態ではない。然るに二十萬俵の重荷が常に市場を壓迫するに於ては自然的なる作用を
相場面に現出するの障碍をなすに相違ないのである。故に臨時的手段に依るとも適當な方法に依りて速かに之を
消化するにあらざれば生絲及繭市場をして何時迄も其の脅威より解脱せしめ難いのである。之と類似の現象は近
年米國に於ける棉花の豐作に依り殆んど從來の倍額にも該當する程の滯貨が山積し、爲めに價格の激落を告げ流
石のフーヴァー大統領をして策なきに苦惱せしめつゝあると同様の觀を呈する。但し彼に在つては我國の如く金
解禁の衝動を受けず、隨つて我國の生絲が昨年下半年に於て米國の見越輸入——爲替の騰貴を豫想しての——思
惑を惹起せるが如き事もなければ、金解禁後忽爾として絲價の暴落又暴落を告ぐるに至れる如きとは性質を異に
する。別言せば彼は全然生産増加と豐作の結果に由る市價の低落と滯貨であり、之に異りて我は政府の誤れる政
策が大なる禍ひを爲し今日の悲況を持ち來せるものたるを知らねばならない。

聞くが如くんば米國政府の方針としては、過度の生産増加を調節する爲め反別制限其他種々の方法に依り頻り
に生産統制に努力しつゝありと雖も、一般農家に在りては其の價格の低落すればする程益々多量生産に依つて其
の収入減を補はんとし容易に其の實效を奏せず、殊に棉花は印度、埃及等他に競争者あるを以て、米國獨り生産
制限を行ふとも直に豫想通りに其の市價を回復せしめ得べしとは斷ぜられず(小麥も亦世界的生産物なるが故に

同様事情に在る)、此の點より見れば我國の蠶絲は世界需要の大部分を占むる特産品たる地位に在るを以て其の
策だに機宜を失はずば相當恢復の可能性あるのみならず、今日米國の不況時代と雖も其の需要量に於ては前年に
比して大差なく決して悲觀するに及ばないのである。

吾々は如上の理由に依り何よりも先づ二十萬俵の滯貨の消化を急務とするものにして、其の方法としては例へ
ば毛織物地に代る洋服地の製作を奨勵して内外の需要を喚起し併せて毛製品の輸入を防遏するも一策であり、又
靴下其他の絹製品にして從來佛伊等より供給しつゝある各國に對し、我が貿易販路を開拓するため相當の補助を
與へて輸出を促進するも他の一策である。其他尙幾多別途の方法がある筈であり、政府に於て適當なる考慮を運
びさへせば自ら持て餘せる滯貨を活用する事に依り、産業及貿易上の新規軸と新天地を見出すこと必ずしも不可
能とせないのである。多額の費用を懸けて徒らに死藏するよりは、之を活用すべき對策を講ずる。それが爲政者
としての當然の任務であらねばならぬのである。

次には將來の對策如何である。前述の如く、當面二十萬俵の消化策を講ずるとしても、今後の絲價が直ちに好景
氣時代同様千四百圓にも千五百圓にも騰貴すべしとの觀測は寧ろ冒險である。米國の經濟界が何等かの突發的又
は奇蹟的事情に依り再び白熱的盛況を呈することあらば、我國も亦其の好影響を被るべきも、斯かる空頼みを以
て政策の基調と爲すは頗る危険にして眞摯なる識者の與せざる所である。最も堅實なる方針としては好景氣時代
の價格を標準とするよりも、寧ろ市場の沈衰時代を最低規準としての對策を樹つるを安全とする。

専門家の實驗する處に據れば、我國の蠶業は世界に冠たりと雖も、精密には尙幾多改良進歩の餘地を残してゐる。例へば既に發見せられたる新蠶種を普及せしむるに於ては從來の設備及勞力を以てしても現在に比し質量五割増の繭を生産し得る可能性がある、然も之に要する桑葉は割合に多きを要せないのである。又一方桑園に就いて見るも現在荒廢せるものを整理し栽培法を改良すると共に、肥料の低廉化を圖るに於ては今日に比し約二倍以上の葉を收穫すること至難ならずとせられて居り、何れも既に専門技師間に於て實地に試験済みとなつてゐるのである。

斯くして蠶種及桑園の改良に依り、現在と同一の費用及勞力を以て實質上五割増の繭及二倍以上の桑葉を收穫するに至らば、之に準じて繭の生産費を従来よりも低下し得ると同時に、繭を原料とする生絲も亦同じく其の生産原價を著しく切下げ得ることとなるのである。

固より上述の實績を擧ぐる爲めには相當の經費を必要とする。新蠶種の普及、桑園の改良及肥料の低廉化等總て國家の力を以て實行を奨励促進するにあらずんば急速の進展を期することは出来ない。即ち蠶絲政策を確立して各般の助成施設を行ふと共に、低利資金の融通を始め蠶種の無料又は實費販賣、桑園改良法等を講ずべく、又肥料の如きも既記五ヶ年計畫を遂行して其の價格を引下げる。一言にして盡せば積極的政策の實現に依る生産原價の低下である。吾々は手を空しくして好況時代の再来を待望するが如き僥倖主義よりも、寧ろ不況時代に善處して之に打勝ち得べき方策を最も確實且安全と信するが故に積極主義の施設に依り生産原價の低下を圖り、之に

依つて蠶絲業の更生と發展とを實現せんと欲するのである。

既に言へる如く我が蠶絲業の前面に横はる重要對象は人絹と支那其他の競争國とである。併しながら何故に之を重要對象と見做さざるべからざるかと問へば、それは唯價格の問題に歸着するのである。故に我國の蠶絲業が上述の如く改良進歩を加へ其の生産原價を切下げ得るに至つたならば、當面の問題は自然に消滅するのである。今日支那絲が米國に進出しつゝあるは寧ろ一時的現象——我が對米爲替の騰貴と銀の暴落に因り價格の變則的に低廉なるが爲め——であり、我に對する生産量の壓迫では無い。人絹の流行も亦同じく其の價格の安きが故に外ならずして本質的には人絹を以て天然絹絲に取換へ能はざるは勿論、嗜好の向上に伴ひ木綿及毛織物より人絹に向へるものが更に進んで天然絹絲を要求するに至るべきは自然の徑路である。之を米國の統計に徴するも生絲の需要増進率は遙に棉花及羊毛に優り、既往十箇年の指數は毛織物に増減なく綿絲の二割増に對し生絲は實に十割の増加を示しつゝある。本年の如き大不況時代にして然も一方に支那絲及歐洲絲の臨時的進出あるに拘らず、我が生絲の輸出量は前年の數字と大なる差異は無いのである。又他方我が生絲の強敵と認めらるゝ人絹の需要高は本年上半年期に於て之を前年同期に比し約六割、百六十萬依内外の減退を示しつゝあるに對し、天然絹絲は上述の如くさしたる減退を現はしてゐないのである。又以て生絲の需要の、如何に弾力に富めるかを知るに足る。

斯く觀察し來れば人絹といひ支那絲といふも、要するに價格の問題に外ならざるは既に明瞭である。故に吾々は上記の方法に依り積極的施設を行ひ生産原價の低下を圖ると同時に諸税を輕減し以て世界の嗜好と需要の大勢

に順應し、我蠶絲業の發展を基礎づけんとするものである。而して行く／＼は我國の貿易が蠶絲以外の生産物に依りて輸出入の均衡を保持し得る迄に各方面の産業を隆昌ならしむると共に、生絲の輸出額は別に貿易勘定の貸方となりて、國富増進の表目たらしめんことを欲するものである。蓋し生絲は我國の特産品として世界獨歩の地位を占めしめ、依つて以て國民經濟の繁榮と生活向上の最大資源たらしむるを最善の方策と信するが故である。

不景氣對策論

(昭和五年十月十四日、工業俱樂部に於ける講演速記)

現下の財界に就いて

(昭和五年十月十六日、電氣協會關東支部に於ける講演速記)

經濟國策としての根本的不況對策

(昭和五年十月發行、雜誌『經濟往來』所載)

産業國策に關する一二例

(昭和五年十月發行、雜誌『ワールド』所載)

解題

茲に採録せる四篇は何れも昭和五年十月、世に現はれたるものにして、我が山本翁が當時如何に國民の經濟的苦難を打開すべく、白熱的努力と精根を注げるかを物語つてゐる。

翁は其の頃政友會の政務調査會長として鋭意經濟國策の樹立に精進し、各方面に互る諸般の調査檢討に日も亦足らぬ状態であつた。随つて其の講演に説述するところは、矢張り前篇に掲げた『經濟國難應急策』と大體の趣旨を同じくするものであるが、然も時と場所の相違に依つて亦おのづから別箇の味ひがある。所謂對機説法の妙趣ともいひ得よう——其の中でも『産業國策に關する一二例』は稍特殊の問題を取扱つてゐる——開けば八萬四千の法門となるが、歸する所は經濟國策の一貫諦に徹するに在る。

尙、此の内の第一と第二とは僅に二日を隔て、講演せるものであるから自然其の内容も近似の點が多いが、故人の特色は最も能く此の二篇に現はされてゐる。殊に第二の『現下の財界に就いて』と題する講演は、さながらに翁生前の聲咳そのまゝである。博引傍證、種々の實例を擧げて諄々として説くところ、まさに翁の獨壇場であつて、今日再びその人あるを知り能はぬ。

不景氣對策論 (速記)

一

今日の會合に是非出席するやうに——先に丹羽君からお話ございましたが、私は多勢お集りになる席上には近頃出ぬことに致してをりますし、また、とりとめてお話し申し上げる事も御座いませんで、却つて私の方から皆様にお目に懸つてお話を承ることが出来れば甚だ幸ひである：斯ういふ意味で御返事したのであります。處が今晚の様様では何だか、私が講演でも申し上げる様なことになつてをります、私が茲に参りました心持は今申しました通りで、随つて纏つた具體的組織の下にお話をする準備も何もございません。謂はゞ前座といふ意味でお話を致しまして、その後で實際經濟の事にお携はりになつておるでになる皆様方のお教へを受けたいと思ひます。

今日不景氣といふ問題はもう耳慣れた爲めでありませうか、又は不景氣といふ聲を出す勇氣が無くなつた爲めでありませうか、或は仕方がないと觀念した爲めでありませうか、兎に角、一時程は喧しくなくなつて参りました、併し實際の狀況は私が茲で改めて申し上げるまでもなく、益々深刻に趨きつゝあり、新聞雜誌に現はれてゐる世相

なり、内容的には更に深刻の度が酷しい様に思ふのであります。

先般私共が經濟調査隊といふ名を附けまして、調査致しました結果などから考へましても、表面に現はれた事實よりは餘程深刻なものがあります。一例を申し上げますと、八九人の家主——所謂大家さんを集めて會談したことがありますが、その時の話によると山の手方面では七八割位の家賃が納つてゐるが、下谷、神田、日本橋といふやうな下町方面では、半分位しか家賃が納らない。酒屋、魚屋等の連中を集めて話を聞いてみると、先月の末は書附を何本書いて其のメ高は何百何圓であつたが、實際に集金の出來たのは漸く半分で、非常な番狂はせであつたと言つてをりました。

更に逕信省に行きまして電話料金の納入方を見ますと、滞納が昨年の上になつてをります。瓦斯會社、電燈會社と言はず略同様の次第で、所謂市民生活の一般に互り生活の状況を見ますと、想像したよりは餘程酷い。小賣商人は顧客先の金が集らないから問屋に納めない。問屋も當然手形の割引が効かない。製造元にも仕入代を納められない、随つて製造元が生産を減するか、中止するのは自然の結果であります。

斯様にして、一番廣い下層から元の方に向つて、目に見えざるモラトリアムが布かれてゐるといふ状況であります。

二

仍つて問題は、この不景氣、この經濟界の状況が何うしたならば建直るであらうか、いつ頃になつたならば恢

復するであらうか、といふ事でありまして、これは當然吾々共も、また諸君も憂慮しなければならぬ問題であります。

處が政府の聲明してゐる處、若しくは現實に執りつゝある政策、新聞雜誌の批判、若しくは經濟學者等の意見を見ましても、適確に斯くの如くにして如何なる時機に經濟界は復興する、而して結果は斯くの如くであるといふ具體案、即ち吾人をして信賴せしむるに足る對策は、心細い程何も發表されてゐない。然らばこの不景氣は此の先何うなるのでありますか。自然の儘に放任して往つたならば、何うなりませう。若しこれを直すことが出來ないならばこの不景氣は益々日を追つて深刻になりはせないか、と斯様に思ふのであります。而してその深刻になつた最後は何處へ往くか、よくいふ言葉の暴動！暴動が起つて何うなる、更にその暴動なるものが進展するとなれば、所謂社會的の革命といふ怖るべき事態となることあります。併し如何に暴動が起り、社會的の革命が起つても天から金が降る譯でもなく、人が物を與へて呉れる譯のものでもありません。假りに大暴動が起り、最も恐る可き忌む可き革命的の事變が起るとしても、それが爲め何に依つて日本の經濟界、國民生活の安定が保たれるか、斯う云ふ最後の疑問に到達せなければならぬ様に考へるのであります。

よく此頃は世上に世界的不景氣と言ふ話があります……私は先刻も申し上げた通り、組織的にお話をしますが、でありませぬから、斷片的に世間なり新聞雜誌に傳へられてゐる問題を捉へて卑見を申上げるのであります。その中でよく言はれてゐる世界的不景氣……この世界的不景氣が日本の不景氣の全部の原因であるが如くに傳へ

られるのであります。それは私共も今日の不景氣を來たす一部の原因であることは之を認めるのでありますが、それが全部で、絶對的の根本理由であるとは認めないのであります。

世界の中でも英米特にアルゼンチン、濠洲の如きは最近に至つて財界は非常に不振を來し日本と同じ不景氣に悩んでゐる。處がフランスの状況は何うであるか、最近先月末の同國所有正金は我が貨幣で三十六億圓、而して同額の金高を外國へ預金又は貸付けてゐる。國內に失業者は全く無いのみならず、一時は百萬人の外國人を雇つて、總ての産業恢復に努めて、而して年々續いた輸入超過國が、一轉して輸出超過國となつたのであります。

更に獨逸を見ましても、あれだけ戦争に敗れて、アルサス・ローレンを失ひ、あの老大な償金を擔つてゐながら、戦後に於ける状況は何うであるか、あれ丈の賠償金を負ひつゝ、然も鐵の原産地たるルール地方を失つた獨逸が、其後産業發展の爲めに國民皆非常な努力を拂ひ、既に現在では亞米利加に次ぐ所の世界第二位の輸出國となつてゐる。實に今日の國際經濟戰に於て獨逸は堂々亞米利加、英吉利を壓倒するだけに産業が進展してゐるのであります。

更に内容はよく分りませぬが露西亞の状況に見ても、スターリンの所謂五ヶ年計畫の經過も大なる參考資料であります。つひ先達で、露西亞大使と晚餐を共にして、夜半まで露西亞の經濟政策に就いて話を聞いたのであります。既に成功した一例を見ても昨年中に露西亞で新しい開墾地の開拓が百四十萬町歩、農村開發の爲めに設けられた發電所が七十ヶ所、そして將來の大目的は露西亞現在の生産能力二百四十億留を五ヶ年以内に倍額に

しよう。これが所謂スターリンの五ヶ年計畫であります。新聞でも御覽の通り、最近亞米利加は小麥の暴落に遭ひ、小麥相場は市俄古の市場で八十二三仙である。然も露西亞は其の市場に向つて進出し始めた爲め更に異常の衝動を來し、穀物市場に於ける恐慌状態を捲き起したといふ事實は皆様の御承知の通りであります。更に伊太利に於ける状況はどうであるか。ムツソリーニの經濟計畫は着々大なる進展を遂げ、夫れに伴つて輸入超過額は年々著しく減少しつゝあるのであります。國を擧げて生産に努力した結果に他ならぬのであります。

隣接支那も變態的ではあります。國際貸借關係よりすれば遙かに日本に優れて居ります。即ち貿易のバランス二億圓以上の輸入超過であるに拘らず、一厘の外債も起してゐない。その超過の上に一億圓内外の銀を購入してゐる。然らば何を以てこの輸入超過や銀代金を支拂つてゐるか。多年兵亂に悩むあの支那が、外債も募らずにその對外勘定を決済してゆく力は、全く移民の働きでありまして、我國にない特別の財源があるのであり、隨つて完全に自給自足を爲して居つて日本よりは遙かに優れた地位に在るのであります。

三

斯く眼を開いて汎く世界の國々に就いて觀ますと、齊しく世界的不景氣とは申しながら其間に非常な懸隔があります。又全く世界的不景氣の圏内に入つて居らぬ處もあります。日本今日の不景氣が一に、世界的不景氣に基因するといふ觀察は、それは誤りでなければ、遁辭をそこに求めたものと思ふのであります。今日の經濟國難に對しては、世界的不景氣は只一部分であつて、幾多の遠因近因が重なり合つた結果であることを認識せねばなら

ぬ。斯う云ふ意味に考へて根本の禍をなしてゐるものは、從來日本の政治が跛行的に發達を遂げてゐることである、今日の所謂生産過剰とか云ふ如きことの言はれるのも、變態的、一時的現象で、根本的に國家の經濟の全局から觀れば我が經濟組織は變則的であり跛行的であるのである。そして夫れが今日の禍ひを來してゐる遠き原因であります。

先づ貿易關係から觀て最近最も不況の時代に於きましても尙ほ二億五千萬の輸入超過を來して居る。現に本年の如く爲替相場も平價に復し、凡て物價も安い、而も極端に買控えの時すら、我國の輸入超過は二億三千万乃至四五千萬は降らないと豫測されて居ります。若し日本が眞に生産過剰であるならば、何として斯様な輸入超過があらうか。生産に不足がなければ、輸入超過は無い筈であります。長い年間の貿易統計を通じて觀ると、歐羅巴戰爭の三四年を除いては日本は殆んど連續せる輸入超過國であります。そして夫れが如何なるものを買つてゐるか云へば、大部分は國民の要求してゐる生活必需品であります。この輸入を防がなければ、どうしても國際經濟に打ち勝つて國民經濟を根本的に建直して行くことが出来ないのは言ふまでも無いことであります。

仍で諸外國の貿易關係を觀ますと、亞米利加、獨逸、英吉利、佛蘭西にせよ、何れも輸出超過國であつて、我國の如く輸入超過國ではありません。英吉利は貿易上では輸入國でありますが、一面あれだけ豊富な金を海外にも投資をし、國外領土、所謂植民地の大きなものを擁してゐるので、收入關係より見て現實には輸出超過國同様となつてゐるのであります。

即ち是等の國々は戦後相競ふて極力その生産機能を擴張し生産量を増大せしめ、自給自足より出發して盛んに輸出貿易の進展を計畫してゐるのであります。日本は之に反して、經濟政策の缺陷から年々の輸入國で、雙方の間には非常な懸隔があります。

亞米利加の不景氣の最大原因は第一國內消費の減退、第二輸出の減少、これが亞米利加今日の不景氣を來たしてゐる原因であります。即ち吾々始め諸外國の人間が米國の品物を買はない處に一つの大原因があります。言ひ換へれば亞米利加の景氣の好い時は日本、印度、支那等、即ち未成國が向ふの品物を借金しても多く輸入した時であり、利害は或は全く反對するかに考へられる。唯輸出貿易から觀て生絲の如きは亞米利加の景氣が好ければ値段も高くよく賣れる事がありますが、それは例外であり、謂はゞ局限された特別品の問題であります。

少し話が横道に逸れた感がありますが、兎に角、日本として今日傳へられてゐる生産過剰といふ事を嚴密に調べて見ますと、生絲などは生産過剰の最も大きな一つであります。他に國際的に見て何の生産過剰がありませんか。生絲は生産過剰なればこそ、日本の貿易尻を背負つて居て呉れるのであります。他にセメントも過剰、紙も餘つてゐると言ふが、これは餘つて居ても到底國際貿易品になり得ない物であります。幾らセメントが安いと言つても少量の外は輸出は出来ない。紙も五割方制限してをります。そして新聞用紙は相當生産餘力があります。が、上等のペーパーはまだ出来ない、高級品は矢張り年々相當の輸入をしてゐる、餘つてゐると言つてもそんな状態であります。

それならば何が餘つて、その爲めに何が國際貿易を支持してゐるか云へば何にもないのである。即ち生産過剰の爲め各種の業者が苦痛を告げてゐるのは、要するに國內の消費が俄かに著しく少くなつたこと……購買力の激減した爲めであります。今日日本の消費量は約百二十億圓であり、其内輸入に依るもの二十億と見ても百億は我が國民が生産して、自ら消費するのでありますから、その消費力の減退は、海外への輸出に轉換せざる限り、直ちに生産の減退となり、現時に即して、此の急激なる消費の減退が今日の不景氣を來してゐる最大原因である事は改めて論ずる迄もありません。

例へて申せば今年出來た米は朝鮮、臺灣を加へ一億石でその爲めに十圓下つても十億圓……農家が半分消費するとしても五億圓の暴落であります。それだけ農民の手に入る金が減じてゐるのであります。生絲の減産額を假りに十億圓と致しますと、昨年に比べ今日は三分の一に……とは言はないが、少くとも半額程度の打撃は蒙つてゐるから、製絲家、農家の手取が五億圓少くなつてゐるのであります。

そこへ持つて往つて、政府は緊縮々々で人件費は削らないが、事業費——主として労働者に渡る金を約五億圓削つたのである、然うすると農家の収入減と、政府の使ふ金とで、目の子算をしても、こゝに十五億圓の購買力が減つてゐるのであります。其上此の影響を受けた一般商工業者の生産減を加へれば、恐らく二十五億乃至三十億圓の購買力が減退されたのであり、そして夫れが僅か半年か一年の間に押付けられたのであります。

そこで金輸出解禁の結果が物價暴落に如何なる因果關係を持つかと言ふと、御承知の如く對米爲替は解禁當時

四十三弗、之を四十九弗半の解禁相場と比照せば一割四分の下落となる。單純に總ての物價を内外共通的に見れば其下落は一割四分に止つて宜しい譯であり、又輸入品のみから見れば其の理窟であります。現政府も恐らくその考で金の解禁が一般物價に及ぼす影響はその邊に止まると見たのでありませう。然るに實際を観ると中々そんな事では止らぬ、日本銀行の指數でも二割五分と言つてをり、更に實質的量と指數値段を掛け合せて綜合的に觀ますと三割内外の下落だらうと思ひます。

物價が一年の間に三割、更に株券有價證券の如きに至つてはより以上の暴落で、甚しきは半額、四分の一にも値下して居ります、最も堅實にして變動の遅緩なる地價すら半値以下と唱へられる狀況であります。若しこれを一割四分の爲替の差と考へて居つた相場だけが經濟界に及ぼす影響とすれば、大變な誤算であり、却て其副作用の方が大きな衝動を喚起したのである、其上苦し紛れの暴動をさへ懸念せなければならぬのも、抑も何の爲めであり、また如何にして善處し能ふのでありませうか。

四

仍で、私共は今日の不景氣の原因は金解禁、その上に先刻も申し上げた緊縮、更に節約、世界の不景氣等々相重つたものと信じます。……消費節約も合理的なものは私共も大賛成であり、又然うなければならぬのであります、これは専ら倫理的道德論に出發すべきものであつて、環境も程度も合理的でなければならぬ。如何なる場合をも考へないでの不合理な節約の強制は、三度喰ふ飯を二度喰つて働けといふ意味に當り、今日の狀況よりす

れば、國民を驅つて徒らに萎縮退嬰に導き國運の進展を無意義に阻止した様に感ぜられる。金の解禁を貿易上から觀て何ら準備なしに行ひ、さうして政府は、多くの労働者に渡り可き五億圓の事業費を緊縮し、更にその上物を買ふなどいふ強い宣傳をしたのであります。然も時を閱して米、生絲の暴落あり、これでは今日の深刻な不景氣を捲起するのが當然であると思ひます。この層々相重る、主として内部的事情に發生する不景氣を以て、直ちに世界的不景氣の影響であるといふことは斷じて正當なる解釋とは認められない。一部の原因には相違ないが、全部の理由ではない。若し政府が左様な辯解をなすなら、それは自己の政策の過ちを不可抗力の如く他者になすりつける考へに他ならぬと思ふのであります。

然らば何うすれば宜いかといふと、當面の問題は先づ下より建直すのでなければ、今日の不景氣は直らぬ。語を換へれば勞農階級の金廻りを良くし、物の賣行を活かす外ないと思ふのであります。假りに十億の金が餘計に農家の手に入り、さうして五億圓の金が凡ゆる土木建築事業等に從事する労働者の手に入ると假定致しますと、この労働者は決して金を貯へてゐるものではなく、直ぐ小賣商人より日用品を買ふ、小賣人は更に問屋から仕入れ、問屋は製造家の製産を促す。斯様にして十億と五億の金が廣く一般民衆の手に入りますと、始めて品物が動き、金が動き、總ての階級を通じて循環作用を起し活氣がつくのであります。仕事が起こり金が動き、金融が動く、これが即ち不景氣の挽回であります。要するに不景氣とは何であるか、仕事が多く、品物が安く、金が動かない事である。然らば不景氣の挽回は、それを逆に往かせる途を講ずる外、他に工夫は無いのであります。即ち

多數國民に仕事と金を廻すのが唯一の不景氣療法であります。

それ故、私共が樹てました對案は先進各國に比すれば餘程後れて居るだけ、其れだけ、一時も早く産業方針を樹て、第一に輸入防遏を目標とする農工各方面の生産事業を急速に起さなければならぬと致して居るのであります、先刻も申し上げた通り、大體日本で國民の生活に必要とする輸入品を約二十億と見れば、その中で何うしても我國で出来ない物は十億圓である。残りの十億圓の品物は日本で出来る。夫れであるのに此の十億圓の品物を態々外國から輸入してゐる事は、日本に多數の失業者を持ち其の悲鳴を聞きつゝ、外國の労働者に十億の金を支拂つてゐることになるのであります。これを一轉して、内地に生産すれば右から左と年々十億圓だけは直ちに日本の労働者を養ふことになりす。問題は此の十億圓の品物が果して日本で出来るか否かにある：私共は相當研究の結果、それは容易に出来るとの確信を得たのであります。又その生産増大に要する資金の調査も致しましたが、概算六億圓内外で出来る豫算を得ました。さうすると五ヶ年計畫を第一期として六億の支出をすれば、國民經濟上一年十億の利益がある、假りに六億として一年で元金を回収する。生産事業のことは貴下方が玄人であるから申し上げる必要は無いが、例へて申せば、時計の原價は幾等懸るか、金とか銀とか、包む物を別にすれば原價は五錢か十錢に過ぎぬ、言はゞ眞の原料は單に鐵の一片に過ぎない、その餘はこれをスプリングとか齒車等に作る、即ち總てが加工労働賃銀であります。自動車の原價も護謨と鐵が主な原價で、どんなに高いのでも百五十圓。一千圓の自動車として八百五十圓が労働賃銀であります。國內に何十萬若しくは百萬に近い労働失業者を

抱へつゝ、外國の勞働者に年々十億圓の金を支拂はなければならぬ理由が何處にありますか。さうして輸入超過に悩んでゐる理由が何處にありますか。これでも經濟政策があるのでありますか。

斯う問ふて見ますと、その缺陷は要するに今日迄の政治が經濟を離れた政治で、國の政治に、國際經濟に對處する方針が樹つてゐない結果に他ならないのであります。併し此の缺陷は今日に起つたのでは無い、歴代内閣の政治の衝に當つたものが、全部連帶責任を負はなければならぬのであります。現内閣の如きも、現に行詰りつゝある此の國民生活の苦難、經濟界の慘狀、貿易の萎縮等に對して大に反省考慮して貰ひたいのである。日本の急務は當面的にも根本的にも速に經濟國策を確定して國民に其の嚮ふ所を知らしめ、國を擧げて總動員を行ひ勇往邁進するの外、當面を打開し所謂經濟國難を救ける道がないのである。爲政者の第一責任は具體的政策を提げ、斯くの如き方針で斯くの如き施設を爲せば我國の生産能力、國際貸借の關係、國富増進の計數如何を綜合して國民生活の安定を圖る爲め、具體的に案を練つて行くに在る。

五

日本は御承知の通り、屢々經濟的に行き詰つてゐる、併しながら偶然にも日清、日露兩戰役、世界大戰といふ様に、十年毎に戰爭に出會つて不思議にも局面を打開して居ります。然るに今度出會つてゐる十年目の此の戦ひは軍艦や大砲の戦ひではない、算盤の經濟戰に現に向ひつゝあるのであります。そして若しもこの戰爭に負けたなれば、鐵砲の戰爭に負けた以上に更に慘憺たるものでありはしないかと思ふのであります。この席に軍事關係

の方もお見えになつてをりますが、私の考では獨逸が負けたのは兵力が弱かつた爲めとは思はない、兵隊は強かつたが經濟の包圍攻撃によつて白旗を掲げたのが獨逸の敗因だらうと思ひます。

今日、日本は世界の經濟戰に直面してゐる狀況であるが、何處に勝味があるか、來年になつても輸入超過の減る見込は無い。

丁度昨今、新聞雜誌が喧しく言つてゐる金の輸出再禁止、平價切下問題等は、大分輿論になりつゝあるのであります。今日世界の經濟學者の間には重金主義排斥、或は物々交換等々色々議論もありますが、理論は別として金本位は現實の問題であります。

何うしても金を餘計に持つてゐる國は強い、金は經濟戰に於ける彈丸で、もし此の金が無ければ彈丸が無くなつたのと同じであります。經濟戰には金が唯一の彈丸である事は、お互ひに感じてゐる事でありませぬ。然るに今所有する八億の金が僅の間に出で了つたならば、日本は何ういふ狀況になります。現に平價切下、再禁止問題の聲がありますが、假りに今年の貿易でも二億何千萬圓の輸入超過である。これが更に若し三億、四億になつた時は、何うなりませうか、周章狼狽、尻に火のついた様に騒ぐのが日本人の常であります。それ迄は平氣な顔をしてゐるのが今日迄屢々見る實況であります。

來年の貿易關係、再來年の貿易關係で若し二億、五億、六億の金が出るとすれば、八億五千萬圓の金ではやがて支拂ひ不能に陥つて了ふ。さうなれば再禁止や平價切下を論じてゐる餘地はありません。どこにその運命に陥

らないで行く保證が出来ようか。凡そ戦ひをする時に一人も無くなる迄戦ふ戦術は無い、日本銀行に一枚の五圓金貨しか無くなるまで放つて置けますか、再輸出禁止、平價切下を論ずるのは當然であります。八億五千萬圓の金が一二年の内に半分になることが、今より豫想されたら何うする、紙幣は不換紙幣になつて了ふ。嘗て獨逸の馬克、露西亞の留の如きは、正金一圓に對して五千萬圓の紙幣相場を出したでは無かつたか、全くの紙屑であります。今日滿洲に於ける奉天票の如きもそれであり、百圓に對して三千圓五千圓と唱へて居ります。更に若し國民の頭に一時にても兌換の不安を持つとすれば自衛上直ぐ紙幣を金にする、其の傾向が生ずる虞れもある、佛蘭西の農民は爲替暴落の際、盛んに金を持つて來て壺中に入れて藏つた話もあります、又外國に預金して切下げ後直ちに回収したことも耳にして居る。近頃日本で金輸禁止や平價切下の問題を議する者は、動もすれば何やら非國民の如くに評する者もあるが、夫れは決して正當でないと思ひます。私の寡聞を以てしても歐羅巴に於ては内閣が十回以上もこの問題の爲め代りました程、議論は堂々と交換されたのであります。國民の財産、一國の經濟に重大な影響を及ぼす問題でありますから、隨つて國民が此の問題に就いて何うしたら一番よからう、自分の意見としては斯うあらねばならぬことを議會であらうと、新聞であらうと、雑誌であらうと、輿論に訴へることは當然であると思ふ。

申し上げ度いことも多々ありますが、是から一つ皆さんの御説を伺ふことにして、私のお話はこの邊に止めて置きます。

現下の財界に就いて (速記)

經濟界の現勢を論じて其の根本對策に及ぶ

本日は慮らずもお招きを受けまして、何か御参考になることをお話しせよと云ふ御命令でございます、別に決めた問題と云ふものもないのでございます。殊に經濟問題に對しては、私共が申上げるよりは、實際の戦線に立たれて居るあなたの方が能く御承知のことであつて、私共が政黨關係から觀察したことが果してどれだけの參考になるか存じませぬ。唯我々が或は違つた觀察をして居りますか、正鵠を失して居るやうなことがありはせぬか、其の御批評とお教へを請ふ爲め寧ろ私は伺つたのであります。

現在の不景氣——經濟界の狀況は改めて私が申上げる迄もない、能く諸君御承知の狀況であります、唯表面に現れたる經濟界の事象は別に致しまして、我々が政黨の立場から稍立入つた政治的に觀察を致した點から見ますと、更に想像に及ばぬやうな點が幾多あるのでございます。其の想像に及ばぬ極端なる狀況の結果が果して何

處に行くであらう。先達て政友會では經濟調査隊と云ふのを組織いたしましたして、各地に涉りそれ〴〵視察を致したのでありますが、其の中で此の都市に於ける狀況など其の一端を申上げて見ると、例へば東京市に於ける所謂家主——大家さん——此の連中を集めた會合の話を承つて見ますと、山手方面の月給生活者の多く住んで居る所では大體七、八割位家賃が入つて居りますが、所謂下町方面では六ヶ月間を通じて家賃が半分位しか入つて居らぬ所もある。更に酒屋、米屋、此の連中を集めて先月の拂ひが、何本書附を出して何程の収入があつたかと聞いて見ますと、賣掛金の半分入つた所は餘程出來の良い店である、甚だしい所では、二年間の賣掛金が滞つた上に、尙ほ最近に供給した品物まで金が入らぬと云ふことが實際の狀況であります。

是れは社會に隠れたる世相の一端でありますが、更に經濟界の方から見ますると此の小賣商人が金の集まらぬ結果は何處へ行くかと云ふと、問屋へ金を拂はぬ。問屋は手形の期日が來てもそれを拂ふことが出來ぬ。隨つて銀行の決濟などは無論出來ぬ。製造會社に對する支拂も當然延期勝ちになる。更に最近に於ける米の暴落と云ふ點から考へましても、御承知の通り地方農村の借入金金は總計六十億圓と稱へられて居り、主として土地を擔保に金を借りて居ります、米が十五圓以下に下つた時には、元金は素より金利さへも拂ふことの出來ない狀況に立ち至る。製造家の賣掛金にしても、或は株券を擔保に取つて居る所の銀行にしても、貸金の頭が切れて回収が出來ないであらう。總て擔保の價格が非常に下落して居るから、貸した金は回収が出來ないのに預つた金は拂はなければならぬ、一體銀行の立場はどうなるであらう。只今申上げる通り廣い一般的世帯を通じ、更に經濟界

の中樞を握つて居る銀行の内容でも、一言にして之を盡せば、知らず識らずに社會の裏面に涉つてモラトリアムが布かれて居るかの如き觀察さへして居る者すらあるのであります。而して其の結果はどう云ふ事になるか、借りた金は返へさんでも宜い、平氣で支拂を拒んで居ると云ふ氣風觀念、それが國民道德の上に及ぼす影響を考へる時、如何に夫れが重大な問題でありませう。

而して左様に現れたる深刻なる不景氣が何時直るであらうか、如何なる時期に如何なる方法で此の不景氣が挽回するであらうか。政府の當局者の意見を聽いて見ましても極めて抽象的な一時的な意見はあります、經濟學者、新聞雜誌の所説等に依つて見ましても、唯不景氣の狀態、失業の現狀は述べてありますが、明確なる對策を提げて斯様にせねばならぬ、斯くの如くにして此の不景氣は挽回すると云ふ我々が首肯するやうな具體案は、まだ私共の耳に留つて居らぬ。此の不景氣が現狀の儘でどうかなるだらうと見物して行く外ないとすれば甚だ心許ない譯である。そして此の不景氣は見方に依つては未だ玄關の入口にある不景氣であつて、此の先益々深刻になることを何人も簡明に否定し得ない。何となればどうして是れを建直すかと云ふ成案もなく、病氣に罹つた國民が安心して信賴する醫者も處方もないからである。

我々が見た所では現狀其儘でも國民の生活は可なり酷い、更にそれが深刻になつたならば、或は不祥事が起りはせぬか、暴動も起りはせぬか、更に進んでは社會革命などが起るやうな惧れはないか、と云ふやうな噂を屢々耳に致すのであります。併しながら考へて見ると、暴動が起り若しくは忌むべき社會革命が起ると致した所で此

の不景氣其者はどうなるか。唯それは議論や言ひ争ひでは間に合はぬから、止むを得ず力に依つて政策の轉換を促す一種の現象に過ぎない。それと致しましても唯それだけでは何にもならぬ。其處に何等かの確乎たる對策なしには此の不景氣を挽回することは出来ない。其處で我々は今日の狀態が結局何處に行くか、日本の國民經濟は如何なる道程を経て何處に落着くべきものであらうか。是れが實に目下の重大問題で、吾々は國難打開の途を建てる爲めに憂慮し研究して居るのであります。

二

先には井上大藏大臣が此の協會にお出でになつて、今日の不景氣は世界的不景氣の影響である、日本としても定に已むを得ない、我慢して海外の景氣恢復を待つ外仕方がないと云ふ意味のお話があり、その引例として、濠洲其他の外國の狀況を述べられたやうに承つて居ります。併しながら私共は少し考を違へて居ります。成程、世界の不景氣が今日の日本の不景氣を來した一原因には相違ありません、併しながらそれを全部の原因と認めることは決して妥當でないと信じます。

廣い世界を見渡せば、御承知の通り佛蘭西は對金通貨を五分の一に切下げて産業政策に邁進した結果、忽ち輸入超過國を轉じて輸出超過國に化した。戦後の復興の爲には一時は百萬の外國人を雇つて來て其の成功を急いだのが今日の結果ではないか。失業者どころではない、却て労働者が不足してゐる。そして八月末の報告に依ると原因は色々あるが兎に角三十六億圓の正金を有して居り其上尙それと殆ど同額の預金を在外投資、又は預金とし

て持つて居る狀況である。更に世界を見渡して一番不幸な目に遭つた獨逸、戦争にあれだけの慘敗をして、アルサス・ローレンと云ふ土地を失ひ、天文學者の言ふやうな何千億マークと云ふ償金を負つた獨逸の狀況は今日どうでありませう。此の不幸を極めた獨逸は將に隆々として其の生産能力を恢復し、其の經濟力を振興して亞米利加に次いだ第二の輸出超過國となつてしまつた。更に伊太利の狀況を見てどう云ふ感じがする、ムツソリーニの過去五、六年間の産業計畫は着々として其の成績を收めて居る、昨年の數字を二年前に較べると輸入超過の額は殆んど半減して居る。露西亞を見ても御承知のスターリンの産業五箇年計畫、實に雄大な國策を建て、居る。

私は自分の參考として先達て露西亞の有力者と一夕會合して、夜半まで露西亞の計畫の内容目的等の話を聞いたのであります。露西亞の現在の生産能力は二四〇億ルーブル、而して五箇年後に其の生産能力を倍加した四八〇億ルーブルに増加せむとするのが、五箇年計畫の最後の目標であると言つて居ります。更に一杯酒を飲んだ後の話では興に乗じて斯様な事まで言ふて居る、「亞米利加が世界の富を支配すると云ふ事は許されぬものである、その亞米利加の富を壊して之を世界に分配させる國は露西亞を除いてはない、人口の數と謂ひ領土の大きさといひ、天然資源の豊富なる點といひ、地理的、國防的に傍から侵されない點といひ、露西亞を除いて亞米利加を征服するものなし、露西亞の國是は經濟力に依つて國を建てるのである、決して兵力に依つて立たうとするものではない、獨逸の負けたのは何であるか、決して兵の弱いのではない、經濟の包圍攻撃に遭つたのが即ち獨逸の敗因を爲したのである」と。其の希望も計畫の要領も唯座談の一端ではありましたがけれども、其の眞意が大體どの

邊に在るかは、現に彼が實行して居る所に照して明かに判つた。露西亞の五箇年計畫を以て唯單なる理想論として評し去る人が能くありますけれども私共が調査した所では必しもさうでない。露西亞は昨年中に新しく開墾した農地だけでも一四〇萬町歩、農業用に新設した發電所が約七〇箇所ある。其外に最も大規模な水力發電所迄着手して將に竣工せむとして居る状況である。國民の所得を集中し更に總動員を行ひ全力を擧げて對外經濟戰に臨みつゝある。其の結果は昨今新聞でも御覽の通り六、七十艘の船を備入れて小麦のダンピングをし、シカゴの市場にまで恐慌を起させる程、其の農業政策のみでも伸展して居るのであります。

斯様な次第でありまして、世界中不景氣と言ふ譯でもありません、随つて日本の不景氣の原因を除外例のない世界の不景氣に織り込んで易々片附けることは出来ないと思ふ。のみならず吾々から考へると、世界が不景氣であればある程、日本は大に奮闘して對策を講じ活きる工風をせなければならぬのである。

更に昨今兎もすれば、日本の不況は已に底が入つた、又フーパーも亞米利加に於て、同國の不景氣は先きが見えたと言ふた言葉を唯一の頼みとして、さうして良い後には悪くなる、悪い後には必らず良くなるのが自然の理だ、などと運命論者の豫言のやうな簡單な理論を以て今日の經濟界の成行を説き去らむとして居る者もあります。併しながら前來申上げる通り、世界、殊に亞米利加の景氣挽回と云つても、何時どうして挽回するのか。逆さに言へば今日よりもつと不景氣になるかも知れぬ。日本は日本としての運命を自ら切り開くべき必要があるのに、それを爲さずに全く他力本願や或は運命の循環に委せてどうするのか。日本が直面して居る所の經濟國難、

此の深刻なる不景氣、此の生活に苦しんで居る國民の状態を看過して唯手を拱いて成行きに委せるやうなことであつたならば、是れが果して責任ある政治家の爲すべきことであるか、國民特に爲政者は爰に最も慎重なる考慮を拂はなければならぬことだらうと思ふのであります。

三

不景氣の原因は私共の觀察では二つの理由に片付けて見たいと思ふ。先づ第一の所謂當面の不景氣、それは何に因つて來たか、對策を講ずる前に先づ以て其の病源を糺すと、其の一は不準備なる金の解禁であります。ポアンカレーが佛蘭西で五分の一に平價を切下げて金の解禁をする前の周到なる準備、又英吉利が如何に同様の事に苦心したかを考へても皆齊しく國債貸借、貿易の均衡を保つ爲め慎重なる用意を整へてゐる。所が日本は全く何の準備も用意もされてなかつた、率然として單なる行懸りから解禁を斷行したので、誠に以て輕率至極であつたと思ふのであります。

御承知の通り解禁前後に於ける對米爲替は四三弗でありましたが、それが四九弗五〇仙に戻つた。さつと一割四分の狂ひでありますから、計數的には日本の物價が其の狂ひだけ、即ち一割四分内外の下落に止る筈であり、又左様に考察した者もありましたらう。幾何學の先生でもあればさう云ふ推算も出ますが、實際の結果はどうであつたか。御承知の通り二割五分、三割、三割五分と云ふやうな物價の暴落が起つた。之は現實の事實である。株券の如きに至つては、半分にも三分の一にもなつたものがある。度々底を打つたと云ふけれども私共はさうは

見ない、底が抜けて居るので打ちやうがないと思ふ。扱て何んで斯様な状況に陥つたのかと云ふと、金解禁其のものも一部の原因ではあります、爲に發生した副作用の方がより大きな動機であつたと思ふ。然るに其の副作用と影響とを政治的にも經濟的にも豫察することが出来なかつた、否、なし得なかつたのです。單なる數學の答案の様に此の複雑な世の中の變化を推測してはならない。爲替相場が一割四分下れば其の率だけの物價の下落で済む、低物價政策は夫れが目的であり、又それで經濟界が建直るんだと信じて解禁を斷行したのなら、其の誤策と、今日現れた此の人心の不安とを顧みて果して何の感想があるか。

其上に御承知の緊縮政策の實行である。緊縮政策とは實績的に見て何であつたか、政府の行政費や人件費に對しては殆ど何等の節減もせない、官吏の俸給を一割下げやうとしたが是れも内部の反對に遭つて中止したやうな實情で、唯事業費に對してのみ五億圓節約を斷行した。そして此の五億圓の節約が如何なる影響を經濟界に及ぼしたかと云ふと、抑も此の事業費なるものは廣い意味に於て皆勞働賃銀であります。土木工事に要するセメントも、木材も、鐵材も其の資料が内地の生産である限り結局は悉く勞働賃銀である。それ故に語を換へて申せば、下層階級に五億圓の金が廻るのを中止した譯である。時も時、物價の低落時代で、生絲の一三〇〇圓が半値以下六〇〇圓臺となり貿易關係は別としても養蠶家製絲家丈で四億圓内外の減收になる。殊に最近の米の暴落に見ても、朝鮮、臺灣を併せて一億石近い米が一〇圓下つたとすれば十億圓の農家の收入減、之に政府が事業費として専ら勞働階級に支拂ふ五億圓を加へると、此の影響を受けて一般の收入減は恐らく三〇億圓以上となり、それが

直ちに國內の購買力を減じた譯である。日本の國民一年の生活費を一二〇億圓と假定いたしますと、丁度二割五分の購買力を俄かに失つた次第で、物の賣れぬのも當然であり、又其の物の値段が正當なる理由以外に暴落するのも蓋し自然の結果であります。

更に注意すべきは消費節約の強調である。金解禁と其の副作用の爲め既に急激な物價の下落を來したる其上に、更に國民に向つて物を買ふなど宣傳強要したのであります。合理的な節約には吾々も悉く賛成です。子供の時から一貫した家庭の教訓として儉約をせねばならぬ、節約をせねばならぬと云ふことは能く承知して居りますが、問題は政治的にどう取扱ふべきかにある。少數の富豪の贅澤生活、若くは時代に浮かされた輕佻浮薄な銀ぶら級に向つて、無駄を省き、浪費を戒しむるは當然であるが、これは極めて少數な局部的事實であつて、大部分は其日々の生活に苦しんで居る。其の大部分の國民に向つて三度の食事を二度に縮める程の消費節約を強要したのであります。其處に先刻申上げた一部の理由である世界的不景氣がまぜこぜに織込まれたのでありますから斯様な我國としては未曾有の不景氣を招いたのは寧ろ當然過ぎるほど當然の結果と見られるのであります。

四

併し乍ら當面した此の急激な不景氣の原因、更に之を招來した理由は暫く別として、他面に於て吾々は根本的に、より深く其の原因を觀察せなければならぬ。この問題に就いて吾々は斯様に考察して居ります。それは一言にして盡せば日本の生産不足と貿易關係の缺陷であります。私は先づ日本の生産が不足であると斷じます。昨今

時々生産は過剰であると云ふ様な議論が出ますが、それは一時的變態的であつて総合的に見て日本は生産が不足なればこそ年々輸入超過となつて居るのである。此の不況時代、國民が總て物を買控へて居る場合すら、今年の貿易はまだ數字ははつきり致しませぬが、吾々の豫想では彼此れ二億三千圓内外の輸入超過であると思ひます。

元來日本は明治以來歐羅巴の大戦中の三、四箇年を除いては連續せる輸入超過國であります。歐洲大戰に依つて日本は直接間接に四五十億圓の利益を致したと思ひますが、扱て其の大收得をした我國現在の經濟状態は何うなつて居ませう。此の金の外に地震の爲め六億圓、更に民間の會社が五億圓内外の外債を起して正金を受取つたにも拘らず、一時二十三億圓まで持つて居つた正貨は今日八億五千萬圓に減じてしまつた。そして夫れは全く貿易關係の缺陷である事が一目して解るのであります。即ち年々多き時は七億圓、少くも二億乃至二億五千萬圓の輸入超過を續けて居ると云ふことは最も明確に其の理由を物語つて居るのであります、要するに國の生産が足りない、足りない爲めに自分が賣る品物よりも外國から買ふ物が多い、金の流失も其の爲である——今日セメントの如き、紙の如き、其他種々の品物に對して生産過剰の聲が起つて居りますが、それは先刻申上げた國內に於ける急激な購買力の減少に依つて俄かに品物が賣れなくなつた爲に外ならぬのであり、然もそれは内地目當の商品であるから如何に安くとも外國には賣れない、その過剰は一時的變態的に促されたのである——日本の國家全體から見ると依然として差引生産不足で、その爲め年々輸入超過となるのである。さうして其の決濟尻は正金を以て支拂はねばならぬ立場になつて居るのであります。

其處で當面しつゝある不景氣の對策、又根本的に國民經濟の缺陷たる輸入超過、此の二つの問題を解決する事が最も急務であり、且つ絶對必要なことは論を俟たない。國民生活の不安も國際貸借の缺陷も此の問題を片附ける政策が樹ち、根本的には實行さへ出来れば宜いのであり又樹てねばならぬのである。言ふ迄もなく日本の生産を増して輸入を防ぐやうにする、そして更に一面に於て輸出を増進することが絶對必要の條件である。吾々の豫想に依ると二十二億圓の輸入品中我國には殆んど産出しない棉と羊毛と油、此の三品の合計が彼は八億か九億圓ありますが、これを除いた約十二、三億圓の物は國內で容易に造ることが出来るのであります。それを作らずして外國から買つて居る、之が私の言ふ生産不足であり、國際貸借、貿易の缺陷であります。

其處で當面の此の不景氣に對し、又根本的の病源に對して、どういふ對策があるかと云ふ問題に這入るのであります。私は政友會の政務調査に従事致して居りますので、爰に其の調査の結果を併せて聊か説明を試みたいと思ひます。當面對策と致しましては、今政府がやつて居ることを改めるのです。今日の不景氣を來した原因は段々述べました通り、事業に對する緊縮政策といひ、極端なる消費節約の強要といひ、生産を無視する非募債主義といひ、皆悪い、是れを直すのであります。

五

今一つ此の政府の遣つたことで見通し得ないのは金の問題であります。近頃所謂金の再禁止、若くは平價切下げを唱へる人士が段々増して來てゐる、そしてそれは現狀に即する頓服劑として一番觀面な、直に效果の現はれ

る方策であると昨今盛に論議されて居るのでありますが、吾々は此の問題に對しては斯様に考察して居ります。貿易の状態が此の不況で購入控へ勝ちの時代でも、本年は矢張り二億三四千萬圓の輸入超過であらう、そして此の十一月から來年六月迄の輸入期、特に棉花の仕入期を控へて正貨の出入を概算しますと、此の八ヶ月間に二億五千萬乃至三億圓の流失を見るのではないかと思ふ。御承知の通り貿易は常に上期は輸入超過、下期は輸出超過なのであります。即ち現在は輸出期であり、金の受入期であるのに、正貨は續々流出いたして居る、まことに變態であるが之は國民中に兌換の不安觀念が起つて、夫れに基く爲替の思惑や海外投資も含まれてゐるのではないかと考へられる。しかし其の關係は別とし、單に貿易上から觀ても、近き將來、我が貿易がどうして好轉するであらうか、輸出入が均衡を得て更に進んでは輸出超過になる様な見込が果して何處に立てられようか。今日の狀勢より觀測しては到底見込が立ち得ないのであります。今日輸入して居る物を吟味しますと、多くは生活必需品であるから幾ら緊縮節約しても左程減じようとは思はれない。更に用心深く悲觀して考へれば、今日六〇〇圓の生絲が更に下らぬとは何人が保證出來ようか、横濱に停滯せる二〇萬圓の生絲、此の重荷を頭に乘せつゝ動いて居る生絲の相場は何うなる、米國の不景氣が近く好轉するといふ確實性があるか、考へ方に依つて今後も一層惡化の狀態が永續するかも知れぬ、この生絲が不幸にも更に四〇〇圓臺にでも暴落する場合はと假想して見ますと來年の輸入超過は或は四億圓乃至五億圓にならぬとも言へない。ところが日本が有つて居る所の金貨が現在何程あるか、此の二週間以内に正金銀行の輸出いたしましただけでも二七五〇萬圓で、猶も續けて居る、残る所

の金は僅かに八億二、三千万圓、之に對して貿易尻の不足を一番少い標準に置いて、一年に二億五千万圓支拂はねばならぬ。すると此の二三年の中に全く金が出盡して了ふと云ふことは何人にも直ぐ解る筈である。

貨幣論者の理論と致しては、世界が餘りに重金主義に傾き過ぎて居る、金などは要らぬ、物々交換とか或は信用を基礎として行けば良いと云ふやうな學說が一部に行はれて居ますけれども、如何せん、今日は金が世界中の貨幣の本位になつて居る。而して世界の經濟戰に於て金は爭奪の目標であり戰爭の彈丸であるのです。それ故に各國は今此の彈丸の奪りつこをして居る、貿易戰とか、經濟戰とかいふのは、現實には畢竟金の爭奪戰に外ならぬのであります。若し我が有つて居る金が今の貿易狀勢で推移すれば不幸にして二、三年の後には皆出て行つてしまふ。さうなれば再禁止も平價切下の議論も自然消滅です、議論する餘地がない。決して左様な運命には必ず導かないと誰か確信を持ち得る者があるか、何か確乎たる對策があるか。吾々が準備なき解禁を誤りたる政策と論斷するのは此點であります。私が後に申上げる經濟五箇年計畫なるものは即ち之に對する對策であります。

能く私共は質問を受ける、政友會は金輸出を再禁止する意見か、又は平價切下を必要とするのかと。吾々は此の問に對しては決してさうでない、左様な意見を持つて居らぬと明答して居ります。吾々もどうかして今日の金本位を維持したいと思へばこそ、之に善處すべく生産政策を建てるのに研究苦心を致して居るのであり、又其の計畫も建て、居るのでございます。併しながら單に金の問題だけを離して現狀の儘で其の成行を推測すれば、只今申上げた通り二、三年後には皆なくなつてしまふ虞れが十分あるのです。決してそんなことはない、それは斯

う云ふ譯で斯う云ふ方法があるからだ、吾々を安心させる明確な議論は殆んど何處にもない様であります。

或説に此頃金の逃避が多いと云ふ、蓋し萬一の不換紙幣の實現を惧れての話でもありません。若し不換紙幣の状態になれば嘗て戦争中に起つた獨逸のマーク、一圓の金に對して十萬マーク、百萬マークと云ふが如き相場が立つたやうに紙幣は反古になつてしまふ、露西亞に於けるルーブルまた其の通り、數年來滿洲に於ける奉天票の如きも矢張り其の類であります。兌換制度を失つた時には貨幣價值は全く紙屑に過ぎない場合もある。此の世界各國に於ける貨幣變動の歴史を見た日本國民の頭に今日の現状が何と感ずるか。毎日々々金がなくなつて行く、だから紙幣を金に換へて蓄へるか、外國へ預けるのが安心と云ふ考から出發した實行が即ち資本の逃避である。此の場合、其の金を外國へ持つて行くことは立派に法律で許されて居るのである、金の解禁がそれである。だから國民が若し不安の念を持つてば、其處に思ひが至るのは當然な話であります。然るに今日は金の再禁止若しくは平價切下論を唱へることを何やら非國民的の説とし、そして國民も此の問題に言葉を觸れることを腫物にでも觸る様に感じて居るのは何ういふ譯でせうか。金の再禁止といひ若しくは平價の切下げと謂ひ、國民經濟の全般に互に實に重大な利害關係のある事で、現に私共の寡聞を以てしても金の問題に就いてのみで歐羅巴では十數回も内閣が更迭したといふ國があるのです、それは廣く國民の間に可否の意見が分れて論議された結果である。解禁すべし、再禁止すべし、平價切下げすべしといふ問題で、堂々として輿論が議せられ、政治的に國論を沸騰させてゐる。何故か、日本では此の問題がもつと廣く強く論究されず、又論究する事を憚るの風があり、或はそれを抑制

しやうとするのでせうか。理由は毫もないのであります。堂々と争つて人心の趨く處を善導しなければならぬ。

斯様な次第で少くとも金に關する限り今申上げるやうな状況であり、然も此の八億五千萬圓の金が次第に出て行く、五圓金貨が一枚日本銀行の金庫に残る迄も安閑として居つてよいものか、假令戦ひに負けても最後の一兵まで籠城すると云ふ戦法はありませぬ、金が六億圓に減じ五億圓になつた場合に、國民はどんな感じを持つてせう、もう持ち切れぬ、どうかせねばならぬ、其時迄は比較的安閑たる人々でも愈々尻へ火が附いたら狼狽するに相違ない。私は虞る、又左様なことが起らないことを切望いたしますけれども、此儘で行けば何れの時か周章狼狽、國民を擧げて慌て廻るやうなことがありはせぬかと、今より甚だ憂慮してゐる次第であります。それで政黨の立場や何かに拘泥せず官民一致協力、そんな事にならぬ様是非善處したいと希ふものであります。

六

問題は只今申述べた金の流出を防ぎ、兌換制度を維持し、當面の不景氣を如何に直すか、根本的に國民經濟の建直しをどうするか、世界の火の出るやうな現時の經濟戰中に在つて日本を優勝安全の地位に置くべき對策如何と云ふことになるのであります。

私共の眼から今日の此の不安、この所謂經濟國難を招來した元來の原因を見ますと、我國の從來の政治が大部分其の責任を負ふべきであると思ふ、從來の日本の政治は經濟と離れて居つた、國民生活とか國際貸借とかと言ふ様な方面に政治の力が重く加へられてなかつた。酷く言へば國民經濟に、國民生活に即せざる政治であつた。

言ふ迄もなく國民經濟に即せざる政治は、それは一種の遊戯である、國民が理想とする政治であり得ぬ。所が不幸にして今日までの日本の政治は經濟と懸離れてゐた感がある。夫故に今迄經濟國策の根本方針、それに基いた經綸施設がなかつた事は私は今日の日本の經濟國難を導いて來た最大原因であると斷するのであります。そして其の責任は誰が取るかと言へば私は歴代の政治家が取らなければならぬと思ふ。民政黨なり政友會なり或は中間内閣なり、時代々々に色々名前前は變つて居るが明治以來、法制、文化、國防、教育の方面に對しては大に力が加へられ其の向きの諸制度は比較的整ひましたが、經濟に對しては政治は別物であるかの如く國民の間にも多くは左様に考へられて居た形である。それではいけない、凡そ國として今日國際的に獨立し行かうと云ふのには、どうしても國民經濟の充實、他國より何等脅威を受けずに行ける組織と運用を必要とするのである。

私共の年齢者の體験から見しても、明治以來所謂經濟國難、準國難の場合に度々遭遇いたしました。が偶然とはいへ、ざつと十年に一遍づゝ、不思議にも戰爭の爲め行き詰れる難局を打開した。日清戰爭といひ、日露戰爭といひ、世界戰爭といひ、考へれば左様なる事實となつてゐるではありませんか。今度の戰爭、即ち世界の經濟戰爭も歐洲の大戦から見ても亦十年内外になる。そして吾々は今現に戦線に立つて居る。憂ふる所は今日迄の大砲と軍艦の戰爭でなく、此度は算盤と金の長期持久戰である、さうして其の戦局の狀態は何うも安心出来ない、攻勢的でなくて、一步宛退却いたして居る證據は、即ち日本銀行の庫から運び出される所の金の函數に依つて日々現實に現はされて居るのであります。

七

其處で問題は對策である、政友會に於きましても實に深甚の考慮を拂ひ、本年の政務調査は經濟政策に専念する事とし十分なる研究を致して立案しました對策、即ち曩に發表いたしました經濟五箇年計畫がそれでございませう。五箇年計畫の最後の目標は、此の五箇年間に何うかして十億圓の輸入を防止する生産業を内地に起し、此の期間内に少くとも金の流出を打止める迄に貿易狀態を好轉させることを絶對的條件としたのであります。更に詳しく申せば此の計畫は國內自然の増産以外に現に専ら輸入して居る物品十億圓の生産を増す、さうして今日の二億五千萬圓の輸入超過を一轉して五億圓内外の輸出超過國にしたいと云ふのが理想であり目標でございます。一言にして五箇年の間に十億圓の特別生産を増すと云ふことは、何やら空想のやうに世間で思はれる方もありますが、私共は實際に即して寧ろそれは餘程遠慮した消極的な數字であると考へて居ります。

先づ極く大體に互り其の内容を申上げて見ますと、今日輸入いたして居ります二十二億圓の中で、容易に日本で出來ぬものは何程あるか。棉の六億圓、羊毛及毛織物の類に關する一億六、七千萬圓、油の一億圓、護謨が三千萬圓内外、是等の數品を除けば残りは悉く國內で製造することが出來るのであります、それをこれから作らうといふのです。食物に致しましても本年の産米は自給自足を致した上に餘剩米が出るやうな豊作に遭ひましたけれども、米以外尙ほ食料として日本が輸入して居る農産物は約三億圓内外あります。——大豆と大豆粕だけでも一億五千萬圓、麥は三千萬圓の麥粉を輸出して居りますが、半面に於て六千五百萬圓の小麥を輸入して居る。砂

糖も三千万圓の輸出を致して居るが同時に六千五百万圓の輸入をして居ります。朝鮮から米を日本に七百万石内外送つて居るけれども半面に於て粟を三百万石滿洲から輸入いたして居るのであります。卵は近來非常に生産を増して輸入を防いで居りますが、其の代り鶏其他の飼料として一千萬圓内外の農産物が輸入される。——斯様な状況で農産物を捉へて見ましても三億圓内外輸入を仰いで居る。是が國內で出来ないのか、出来る、唯それをやらぬだけの話である。其の外、鐵にしても銑鐵の輸入が六、七十萬噸もありませうか、更に鋼にして百萬噸、機械類でも此の不景氣の最中に一億圓以上の輸入である、自動車に致しましても、肥料にしても、染料に見ても、化學製品、アルミニウム、金屬類等々、數へて見るとなか／＼多い。それが國內で皆出来る。絶対に出来ないものは全く天産として氣候が許さぬものだけで、それ以外には殆ど出来ないものはない。簡単に數へても二十二億圓の輸入額中に十二億圓も出来るものがあります。此の十二億圓の國民生活若しくは文化の進展に必要なものを、然も國內で出来るのに拘らず、現在は是を皆外國から買つて居るのであります。

それから此の十二億圓と云ふものを素質的に見て、それが果して何であるかと言ひますと、實は悉く勞働賃銀の結晶と云つて差支ないのであります。例へば農産物に致せ、鐵や石炭に致しても其の原料即ち種子其のものや、埋藏中の原物は殆んど無價値見たいなものである。唯之を培養採取するとか、或は採掘し運送し加工し製造することに依つて始めてそれに價ひが生ずるのである。故に廣義に解釋いたして、此の十二億圓の輸入は悉く勞銀であると申すのが至當である。内地に是れだけ多數の失業者を持ち就職難を叫びながら、他方に十二億圓もの勞銀

を——然も最も給料の高い亞米利加なり英吉利なりに——拂つて居ると云ふやうな左様な經濟政策が、廣い天下に日本を除いて何處に在るかとは私は言ひたくなる。

尤も反面に於ては斯様な議論があります、それは自由貿易論者と保護政策の反對論者であります。貴様は左様なことを言ふけれども、滿洲の大豆を買へば一石一〇圓、日本で作れば一五圓かゝる、機械もその通り、日本で作れば一萬圓、外國のにすれば八千圓で済むのに、わざ／＼高いのを買ふ、そんな不經濟なことが出来るか、斯う云ふ議論があります。若し此の筆法を以て日本の國際經濟、國民經濟の全體を導いたならば、値段さへ安ければ何でも皆外國から買へと言ふ事になります、單に大豆や機械のみではない、假令内に何百萬の失業者が出ても構はぬ、廉いからそれを買ふ迄ぢやないかと云ふ議論になります。併しながら外國人だからといつて品物をたゞは呉れぬ、何ものかを拂はなければならぬ、金を拂ふか、品物を持つて行つて交換するのでありますが、さて日本から輸出する品がどれだけありますか。只一つ生絲を除いた外は原料を輸入して加工する綿布、綿絲、この他に是れと纏つた目ぼしい貿易品は少い。さうすると、結局のところ品物はなし、拂ふ金はなしで、安いから唯外國のものを買つたら宜からうと云ふ議論は、現實の問題としては更に意義をなさぬと思ふのであります。

八

私共は此の未成熟な、まだ餘地のある日本の産業を視て、一日も速に列國なみの位置に進める必要があり、夫れには自國で出来る品物丈は先づ如何にしても、假令如何なる保護政策をやつても、國家が尖端に立つて是等輸

入の品物を日本で生産するのが最大急務であり、今日の經濟界に對する應急的且つ根本對策と思ふのであります。此事の可能なる輸入品類が約十二億圓と申しましたが、若し假りに其の半額の六億圓を日本で作ると致しましても、それだけ品物を製造し生産する爲め六億圓の勞働賃銀が日本に落ちます。——前述の理由に依り總ての商品の價格は勞銀の變形であるから——六億圓は今日の生活費から云つて二百圓の年收とすれば三百萬人の人間に職を與へることになる。此の三百萬人の勞働者が各々職を得て六億圓を收得する事になれば、例則として此の勞働者は決して其儘金を握つてゐない、所得に従つて夫れから夫れと日用品を買ふ、買ふものは小賣商人の所へ集る、小賣商人は仕入れに製造家へ行く、農産物も賣れる、是れが轉々循環して、物も賣れて動き、金も忙しく廻ると云ふことになるのである。不景氣とは何であるかと云へば、物が賣れぬ、賣れぬが爲め投資となる、工場は閉める、金廻りが悪い、人間には仕事がなくなる、私共はこれが不景氣の定義と考へて居ります。若し此の定義が正しいなら不景氣挽回とは即ちその反對の實現であらねばならぬ。經濟國難病の根本原因は榮養不足で、夫れに劇藥を盛つて急性胃カタルを起した、それが今日の日本の容態である。其日々々の發作に對して姑息な療治をしたとて回復するものでない、對策とは榮養補充たる生産政策を根本義とし、劇藥の下劑を中止して體量の増加を圖り、今起つて居る人心の神經衰弱を取敢へず治療する外、別に妙法はないと考へる。

私は此の十二億圓の輸入に對して悉く新しく物を造れと云ふ意味ではない、其の中には政府の施設即ち政策で出来る事が幾多あります。一例を申上げれば、今日亞米利加から八千萬圓乃至一億圓の材木を買つて居る、是れ

がバンクーバーから横濱に持つて來るに百石百二十圓の運賃が掛る、然るに秋田の山林から杉の角材を東京に運ぶのに矢張り百二十圓も掛る、鐵道の運賃がなか／＼高い、それが國有鐵道である。鐵道省が専ら自己の收入を圖る爲めに國民經濟の全局的利害を無視する様な例は多々ある、自分が大山林を持ちつゝあるに拘らず、八千萬圓も一億圓もの材木を遠方の亞米利加から買はなければならぬと云ふ矛盾撞着な國家政策が何處にあります。鹽の問題に致しても、今日は山東から持つて來る、滿洲から持つて來る、僅かの差で臺灣でも天日鹽が十分出來るが、それを買はぬ、然もそれが政府の專賣である。我が領土内に殆んど生産費の違はぬ鹽が出るのに、僅か百斤の上で五錢か十錢の差の爲め、是を領土内の臺灣に需めずして支那に需めると云ふやうな政策をやつてゐる。

私は最近に英吉利の貿易統計を見て深く感じたのであります、英吉利の昨年の輸出貿易額は八十四億圓、其中で英吉利の土地から產出した主なる輸出品は僅かに石炭の一項目に於て五億五千萬圓あるだけです、あと七十八億五千萬圓は殆んど原料を外國から輸入して、それを加工して輸出して居る。棉花と謂ひ綿布と謂ひ最近えらい暴落を致して居りますが、それでも昨年の英吉利の綿布の輸出高は十二億圓に達して居ります、さうして半面に於て六億圓の棉花を輸入して居る、六億圓の棉花を輸入して十二億の綿布を輸出して居ると云ふことは、英吉利國民全體が綿布の着物をたゞ着て其上に六億圓の利益を取つて居る譯である、加工工業の利益であります。日本は六億圓の輸入を致して四億五千萬圓の輸出を致して居る、此の勘定からすると一億五千萬圓で國民全體の綿布の着物を賄ふて居るやうに見えますが、實は三億五千萬圓位着て居る、差の二億圓は即ち加工工業の利益であ

ります。日本の國に原料資源がない爲め日本は工業に不適當などと悲觀するのは大なる誤りであります。只今申上げた英吉利の七十八億圓と云ふ輸出は殆んど原料を外國に仰いで大工業國をなして居るのであります。

更に試に國際戰に於ける彼我の實力を對照して見ますと、紡績の一例に見ても日本が遙かに優勢である證據は世界の各市場に於ける實績に徴して最も明確であります。一昨年の英吉利の紡績の錘數六千二百萬錘、日本は六百五十萬錘、一割にしか當らぬ。此の六千二百萬錘の紡績會社の配當は、一昨年は全部を通計して百分の一・一三、昨年は全部更に低下したと聞いて居ります。日本の同業者とは大變な相違です。あの勞働組合の組織、勞働賃金等の關係から英吉利の産業が近時次第に衰退して、今日では既に英吉利人自身すら産業的には二等國になつたと嘆いて其の恢復を絶叫して居る。最近行はれつゝある同國の勞資協調の大會議、殊に今現に我國への途中に在る經濟視察團の如き全く我が日本の紡績業の發展に脅されて遣つて來つゝあるのであります。我が紡績業は其の實際の成績から見まして、風土、氣温、技能、機械設備等何の點に見ても今や世界の何れの國にも負けない程度まで進んで居る。進めばこそ今日四億五千萬圓の綿布を、遠くは南米、阿弗利加、バルカン半島まで輸出し、さうしてあの勞銀の安い印度の紡績業ですら衝動を受け、御承知の關稅改革を來した次第である。要するに我が工業實力は大體に於て最早世界の何れにも大して劣らない程度まで其の技能が漸次進み且つ確められつゝあると云ふ證據であります、此の事實に徴しても我々は何處に工業國として悲觀する要がありません。御列席の内には御承知の方もあらうが、廣島縣で生産する萬年筆の如き、此の不景氣な時でも二百萬圓以上輸出をするさうです。

更に支那に行くゴム底足袋、是れが二千萬圓、三千萬圓の輸出に進まうとして居る、ゴムは一斤も出來ませぬ、棉も一斤も出來ぬ日本が、此の綿布とゴムの足袋を作り大に支那に輸出して居るのであります。

九

私は信ずる、凡そ日本人の智能、その働き、これは我々の誇りであり資本である、經濟國策さへ宜しきを得れば、日本は實に理想的工業國として世界の市場に臨んで決して人後に落ちるものではない。

常に八ヶ間敷云はれて居る人口過剩の問題も、私は産業を以て對處する外ないと思ふ。植民しろと云つてもなかなか多數の植民など行く處がない。サンガー夫人に相談したからと云つて、さう人を無闇に減らすことは出來るものではない。つまり問題の解決は盛に産業を起し、國民を擧げて眞つ黒になつて働くより外別に方法はあり得ない。如何なる人が出て此國の政治を行ふにしても、國民を是迄に理解せしめ、互に協力活動するのみである。其の意義に於て一日も速かに生産政策を確立し、それを實行することが、常に現在の局面を打開するのみならず、根本策として極めて重大必要な事は最早多言を要する迄もない。政友會の五箇年計畫、十億圓の生産増加、而して二億五千萬圓の輸入超過を變じて五億圓の輸出超過にする、此の目標の達成を爲めには過渡時代適當なる保護助長も宜しい、關稅の改正も已むを得ない、其他如何なる手段でも宜しい、經濟國難に際しての臨機的處置であり、根本的には國民經濟の建直し策として他に方法なしと確信して居るのであります。

歐羅巴の大戦中我國は如何なる經濟世相でありましたか。あの戦争の最中には、物は皆賣れた、貿易は輸出超

過、金は殖えた、仕事は多い、其時には失業者なんて聲は一つもなかつた、就職難と云ふ話も聞かなかつた、學校を出た書生は羽が生えたやうに飛んで行つた。あの時が吾々の覺えた日本の全盛時代、假りにあの時代の半分まで今日の狀況を建直して行くことが出来ましたならば、今日の不景氣の風も餘程和らぐであらう、就職難、失業の聲も減切り減りませう。それで結局日本の經濟をどの時代のやうにしたいかと云へば、國債貸借及貿易生産關係に於て、あの當時の狀況たらしむることが蓋し理想でありませう。語を換へれば輸出超過、金の流入、生産の進展等を意味するのです。

しかし更に考へますと、吾々の主張する對策に就き斯う云ふ御質問が各位にあると思ふ、「貴様の計畫も目標も恐らく日本人として何人も異論を言ふものはないだらう、當然過ぎるほど當然だ、是非やらせねばならぬ、所がそれには幾らの金が必要か、さうして其の財源はどうするか」、此のお尋ねがある筈です。吾々は勿論是等の各問題に對してそれ〴〵數字を當つて見たのであります。私共が要求する金は五箇年間に六億圓、一年に一億二千萬圓であります、今其の概要を申し上げます、製造工業に對しましては、一般的工業と加工業を合せ約六億圓の資本を要し、之に對して六分乃至七分の補給利子を與へる豫算であります。農業方面に對しては、開墾補助、耕地整理、用排水工事、産業道路等主なるものであります。結局五箇年間に六億圓を支出すれば大體計畫は遂行出来る見込であります。而してそれに關聯して、先刻一例を申上げた所の鐵道運賃政策の改正を實行し石炭、鑛石、木材の如き輸入を防遏し基礎産業を伸展する爲に必要なものに對しては、其の運賃を半値位に下げる考案であ

ります。鐵道が少々缺損をするよりは、國家經濟の全局から見て、巨額の輸入を防遏することが、より大なる利益と認めて左様方針を樹てたのです。

一〇

其處で此の六億圓をどうして作るかと云ふ問題でありますが此の六億圓の内一億圓即ち一ヶ年二千萬圓は臨時特別奢侈税を新たに設けて取る。吾々の考へでは消費節約を強むるよりは、収入の多い、そして負擔力のある、然も贅澤な暮しをして居る向から別に税金を取る方が、時代に適した政策と思ふのであります。二千萬圓の特別奢侈税を五箇年間課して生産助長に向けることに國民は必ず同意するであらう。是れが一億圓、残りが五億圓であります。此の五億圓の財源は先づ第一が行政整理及國防費の經濟化が目標であります。行政整理と申しても、從來は天引主義であつた、そして一、二年の内に直ぐ後戻りするやうな、そんな意味ではない。行政機構の改革即ち行政の手續を簡單にする、隨つて當然生すべき節約を指すのである。我々の調査に依りますと、中央、地方の諸官廳に涉つて現制度では認可許可を要する事項が何萬とある、——電信柱一本建てるのにも百判が二十幾つも要り、其間六ヶ月も掛つた例すら有るとの話がある。——役人の手から此の認可の繁雜な事務を取つてしまつたなら、役人は半分に減らして宜いと思ふ。そして人民は繁文縟禮の煩はしさを免れる。今一つは官吏の俸給問題を考慮せねばなりません。今日の國民の十分の八、九は俸給生活者ではない、農民だけでも半數を超える、其農民の収入は最近一年間に半分に減つてしまつた。若し彼等が月給取なら其の月給は俄に半減されたことになる

が、何處に彼等は此の不平を懸へるでせう、天を仰いで泣言を言つても仕方がない、國民の大多數が其の収入を半減された場合に、安定した信望と俸給を受けつゝある階級だけが、毫も其の憂ひを共にせぬと云ふやうなことは、抑も社會的に見て必ずしも公平とは思はない、行政整理と行政費の節減は此の二つの點から考へて相當の金高を捻出することが出来るだらうと思ふ、更に官業の整理に依つても相當大きな資金を得られると思ふ。例へば電話一つを民業に移しても彼は五億圓位の金は出來ます。

能く世間で「政友會は産業五箇年計畫を建て其の財源は總て公債に求める」と云ふやうな事を申しませんが、我々は決して左様な考案は持つて居らぬ。計畫に要する資金は今申上げた通り、二、三の方法で容易に整へられるのであります、或は金融の都合上から一時之を短期の公債に依る場合があるとしても、夫れは根本の借金政策ではなく、一時の融通便法に過ぎないのである。随つてそれが金融市場に重大な影響を及ぼす筈もなし、預金部の金を一時融通することにしても足りるのである。故に此の財源に對しては私共は深く心配いたして居りませぬ。反對黨の宣傳として屢々政友會の放漫政策とか、公債政策とか、根據なき議論を聞きますから特に此の計畫の内容を略述いたした次第です。尙積極政策に對しての攻撃もあるが、それなら從來政友會がやつた鐵道や道路のどこに大した無駄なものがあるか、文化事業、産業施設、其他悉く時代の要求に副ふてやつた政治である。積極政策を行つたればこそ今日の日本が出來たのではないかと云ふことも出来るのであります。併し世評は極めて大事でありますから今後の政黨は主義政策をはつきり國民の前に明示し其の判斷を乞ふべきであり、又政策の實行に

關しても、其の制度運用の途を最も明確にし、そして國民が安心して信賴する様にする責任があると思ひます。此の意義に於て只今申上げた五箇年計畫、夫れに要する六億圓の資金運用の爲め時に産業資金制度と云ふ特別機關を設け正確に所定の計畫を遂行し決して他に逸失しない用意を致したのであります。御承知の通り大藏大臣が内閣中で最も權力があるのは財源を握つて居る故で、豫算分捕りなど言ふ評語すらあり、それから豫算が決ると他省の役人が大藏省の役人と呼んで謝禮の宴會を開く事さへあると言ふ、随分妙な話だが、是れは長い間の習慣だと聞いて居ます。

之を要するに現下の國情に善處する途は、根本的には前に述べた主旨に基く五箇年經濟政策を樹てる、而して財源は専ら行政費の節約、官業の整理等に依る、而して其の運用支途は特別制度を設けて極めて明確にして一般會計と混同するを避ける、若し夫れ當面の時局に對しては曩に其の病原を明かに致して置きましたから、賢明なる諸君は改めて私が結論せずとも既に自ら成案は得られたと思ひますが、見當違ひの緊縮政策を改めて生産的の事業を起し、随つて非募債主義を排する事、失業者の活用即ち勞銀の普及を圖り國內購買力の喚起に努むる事等、一言に盡せば現在政府の手に行はれてゐる政策の總轉換であります。是れが政友會が先般發表いたしました五箇年計畫及當面不景氣對策の概要でございます。

色々お説もございませう、どうぞ能くお汲取りの上御研究下さつて、私共の案が果して當を得てゐるや否や、賢明なる御判斷と御批評を願ひたいのであります、長時間御清聽を煩はして誠に有難うございました。

經濟國策としての根本的不況對策

我が國民生活の現状は人心の不安と云ひ、永年の財界不況と云ひ、思想の動搖と云ひ、非常重大なる危機に當面してゐることは誰しも否定し得ぬ所であるが、歸する所は國民經濟の根柢よりの脅威に外ならない。實に我が現時の國家經濟は不振、萎靡を極め、陰慘なる悲鳴は都會と云はず、農村と云はず、渦の湧く如く捲き起りつゝある。

然らば何故にかゝる状態に立ち到つたのであるか。一部論者はこれに對し現在の不況は世界的現象であつて如何とも爲すべき術なく、唯海外の形勢の恢復を待つべきのみと論斷するが、之は甚しき誤謬と云はねばならぬ。勿論余輩と雖も、國際經濟の一環として我國が海外の情勢に影響を受くるの著しき事を否認するものではない。併しながら各國等しく不況に在るとするも、その性質實情、その原因は必ずしも同一ではない。例へば歐米にあつては、それは戦後に於ける産業復興及經營に競つて努力した結果、工業製品及農産物の過大なる生産過剰を現出したる爲めであり、云はゞ輸出國としての停頓であるに反し、我國は明治初年より現在に至る迄、僅の期間を

除き大部分輸入超過であり、輸入品の壓迫、輸入超過の累年の蓄積が現在の不況の最大原因をなすものである。それ故兩者の原因は全く背反するものである。

然るに此の明白なる事實を識別せずして、單なる「世界不況時代」の一語に依つて我が深刻なる經濟的不振を輕々に評し去るは、淺薄も甚だしき議論であり、我が國民經濟の現境に自覺せざる迂者の見解とも云ふべきものである。

余輩を以て見るに、現在の不況の遠因は我國の生産不足に基く輸入超過、世界大戰による好況に際しての浮華なる好況の反動、大震災による打撃、その復興整理の中途に於ける金融恐慌等に求むべく、近時に於てそれを一層極端に押し進めたるものは現政府によつて行はれたる無準備、無對策の金解禁と、云ふ所の消極政策及金融資本中心主義の財政政策であると思考する。我が國民經濟は如上の理由によつて云はゞ整理建直しを必要とするあばら屋と化してゐたのであるが、これに對し世界不況の嵐を一層強度に誘入せんと企てたものこそ、現内閣によつて行はれたる舊平價規準の金解禁である。随つて結果は崎嶇たる坂路に差懸れる荷車を背後より突き落したるに似た慘狀を呈するに至つたのである。

金輸出禁止は變態であるとは云へ、多年持ち續け一切をあげてこれに適應してきた状態であるから、これに對し解禁を行ふためには十分慎重なる考慮が必要である。況して永年の宿痾に患める病體たるに於てをやである。若しあの際強めて金解禁を行ふべき重大な理由ありとすれば、それに對して産業上幾多の對策を講すべきであ

る。それには或は爲替相場の時價を規準とする金解禁、産業合理化による整理等があるべき筈である。然るに現内閣は生産の萎縮を作ふ消費節約を提唱するを以て事足りりとなし、無謀な金解禁を行ひ、一層不況を深刻ならしめ、重大なる社會問題としての失業群の洪水を惹起したのではないか。

二

元來不景氣は生産と消費の萎縮又は不均衡より發生する現象である。消費の増進は必然に生産を増加せしめ、生産の増加は自然生産原價を低下せしめ逆に消費を更に高めるものである。然るに世界的不況に對處すべく行へる金解禁に際して、生産不振の方策を執れるは、國民經濟の不況を倍加する以外、何等有益の効果を齎すものではないと信ずる。

更に一國經濟の基調は飽逸生産の擴充發展に求むべきであり、それによつて初めて國家經濟の隆昌を期し得べきであるのに、現内閣の政策は常に金融資本を中心とし、その利益のため公債價格の維持、外債借替等を圖り、生産業及商業の擁護を無視する點が少くない。その結果は産業の萎靡であり、國民經濟の破壊である。況して景氣の恢復は望むべくもない。勿論余輩と雖も正しき冗費節約の必要なるは知悉するものであるが、生産を萎縮せしむる如き緊縮節約は偽購以外の何ものでもないと信ずる。例へばかの非募債主義であるが、國民をして亡國現象なりとして敵視せしめた六十億の公債と雖も、生産的必要に出でたるものであれば、公債自身に何の忌むべきことがあらうか。否寧ろ資源開發、産業振興のために資本を收集することは絶対に必要であり、その爲には公債

をおいて他に方法を見出し得ないと思ふのである。現在世界一の富強國として誇る米國の開發は實に外債によつて着手せられた結果である。之を要するに現在の不況の原因は主として上述の三點に存するものと言はなければならぬ。

三

然らばこれが對策は如何にすべきかと云ふに、先般世に贈つた小著『經濟國策の提唱』の主眼點をなす所の新經濟國策の樹立に根本的の方策を求むる外ないと思ふ。生産の振興なしには、景氣恢復は不可能であり、國民經濟の根本的建直しをなさずして景氣恢復は望むべくもない。要は生産の前進のため、農工その他一般産業を始め電力、鐵道、港灣、關稅、金融、稅制、學術等の諸部門に互る有機的、科學的なる計畫を樹立し、積極的に活動するにある。

その第一條件は先づ輸入を防遏し輸出を増進するにある。そのためには國民生活上必要と認めらるゝ重要産業に對し保護獎勵を與へる必要がある。

或は關稅政策により、或は金融及運輸上等に特殊の方法を講ずる事により、或は適當の年限を定めて直接保護又は補償金を下附する事によつてこれを行ふのである。例へば我が輸入品目中多額を占むる食料、肥料、鐵、機械、油、木材、化學製品の如き、何れも新經濟國策の運用に依つて内地生産を増加し、將來はこれを海外に購ふことなく低廉に國內の需要に應じ、進んで國際的に輸出し得るに至るものは適當なる保護を與ふべきである。

勿論これによつて一時的には當該種目の價格を高め、或は國民の負擔を増すことは免れないが、それは單に經過時代の數年間に過ぎぬのであつて、現在日本の多額の輸入超過による巨額の正貨流失、或は外債の年々の増加による損失に比すべくもない。更に内地産業が常に外國製品による壓迫を受くるを考へるならば、假令一見保護政策の爲め國民負擔が増加する如き觀を呈するではあらうが、これによつて輸入を防遏し得る以上、國家經濟上毫も損失する所はない。更にそれ自體外國に正貨を支拂ふ代りに、國內産業保護のために支出されるのであるから、實質的には何等國民負擔を増さず、國民全體として見れば單に右のものを左に動かすに過ぎない。これに依つて國內産業を勃興發展せしめ、將來自給自足をなし得るのみならず、更に海外に輸出し得るに至るならば、結局は却つて國民負擔の輕減の眞因となり得るであらう。それ故に世の貿易自由主義者の反對は現在の我國の狀況には當て嵌らない議論であり、世界の大勢を見るも、歐米各國が競つて關稅その他の各種手段によつて自國産業の保護に努力しつゝある中であつて、獨り我國のみ自由放任をなし得るものではない。宜しく産業保護のための方策を樹立すべきであると考へる。

かくして生産を興起し得るならば現下の重大問題たる失業問題をも同時に解決し得る。即ちそれによつて自然に過剩勞力が吸収せらるゝこと歐洲大戰當時に於ける好況時代の實例を見れば直ちに明かである。更に失業者をして其所得を得しむる事が出来るならば、必然にその消費購買力の増進により、更に生産を刺戟するに至るであらう。隨つて現在の如き不況は忽ち消滅するに至ること火を見るより明かである。失業問題が都會農村を通じて

深刻化しつゝある現在に於て、徒らに緊縮消極策によつて退嬰姑息に安んじ拱手傍觀するならば、事態の趨く所如何なる波瀾を生ずるやもはかり知れぬのである。それ故此際積極的對策を焦眉の必要とする。それには或は生産公債を募集して、以て産業の隆興を招來し過剩勞力を吸収する。輸出増進策としての保護政策もその一途である。或は尙ほ二百萬町歩を殘すと稱せられる開墾可能耕地を政府の力により活用し、或は内地に於て生産可能な約十億圓の商品を生産すべく保護獎勵をなすならば、優に五十萬百萬の失業者を效果的に動員し得る。併しながらこれは政府の對策如何に専ら存するものであり、これを實行し得るがためには上述の如き積極的生產經濟中心の政策を措いて他にないのである。

四

以上に於て明かなる如く、不景氣對策と云ひ、我が國民經濟の振興策と云ひ、積極的に産業發展を圖る以外に何等對策はあり得ない。併しながら我國刻下の陰慘深刻なる不景氣及失業問題に對しては緊切應急なる手段を考慮しなければならぬ。上述の經濟國策は根本的に我が國民經濟を建直さんとするものであるが、その效果を實現するに至るには若干の年月を必要とし、政策實行の財源調達の方法も考慮しなければならぬ。隨つて若し萬一經濟的又は社會的事情よりして、一、二ヶ年後をも待つ能はざる如き事態に迫らるゝ事あらば如何すべきであらうか。例へば我國の正貨は尙現在八億を有するのであるが、輸入超過及公社債の元利支拂等の爲め毎年二億を減少するに於ては今後四ヶ年を保ち得るに過ぎない。況して鋭敏なる財界にあつては忽ちにして意外なる急迫事態を

惹起する虞れなしとせぬに於てをやである。かゝる状態にありながら現内閣の如く無爲無策に放任せば、財界は益々險悪化し、如何なる問題を發生するとも限らぬ。更に地方に於て農村の極度の窮迫は或は納税不能を傳へ、或は教員俸給の半減、小學校青年訓練所の問題等を惹き起しつゝある上、百萬に近しと推算せらるゝ失業者があり、何れも國家財政の破綻と共に憂慮すべき傾向を示してゐる。それ故に緊急安當なる用意と方法とを講究するは目下の緊急事であると思ふ。余輩はその一案として濠洲、加奈陀の如く金輸出の再禁止についても一應考慮すべきであると思ふ。平價切下を前提とする金輸出再禁止が、急迫せる現狀に對して最も確實有效なる一手段であるとの説は、有力なる實業家或は經濟學者により相當強く主張されてゐる。又事態斯くなれる現在、財界一般にそれを除いて他の如何なる救済手段もあり能はぬとの考は可成り普遍化されてゐる様である。勿論これは影響する所頗る大であり、慎重考慮を必要とする問題であり、出來得べくんば常態のまゝ進むべきであると信じ、余輩に於てもこの點種々考究中ではあるが――。

併しながら今日の正貨が今後四ヶ年或はそれ以下の生命をしか持ち得ぬとするならば、その中途にして金輸出再禁止をなすを餘儀なくせしめらるゝ事態に陥る懼れなしとせぬ。遂に一圓の正貨をも残さぬに至る迄現狀に放任するは、横臥餓死を待つに等しいからである。宜しく腹に力のある内に明日のパンを求むべく努めなければならぬ。然らば若し金の輸出を再禁止し、爲替相場を四十五弗乃至四十弗に低落するに任せるならば如何と云ふに、輸入物價はその割合に於て騰貴し、内地商品も或る程度迄騰貴する故、生産は相當有利に助長さるゝのであ

る。随つて經濟界は或る程度の活氣を呈する。試みに歐洲の實例を見るも佛國の如きは國民は約六、七億圓の正貨を外國銀行に預金し爲替相場の激變を免がれ、以て平價を切下げて回収せりと聞くが、現在佛國は歐洲に於ける唯一の好況國として重視されてゐるのである。勿論金の再禁止は矢張變態であり、經濟界に直ちに急激なる衝動を與へること故、一概に是非を論斷し難いが、緊急手段として考究すべき價値あるは外國の例を見るも明かであるから慎重考慮しつゝあるは前言の如くである。余輩は事態を益々悪化せしむるに忍び難い故、百方努力して手段を考究しこれに當るべきで、徒らに消極態度を持すべき時ではないと信ずる。

五

以上縷々對策について概言したが、要するに現在の不況は依つて來る所深く、十分根本的な建直しを必要とする。然も現在迄政府は國民經濟に有機的に關聯せる一定の經濟政策を確立してゐない有様である。こゝに於て余輩の提唱する「政治の經濟化」の必要は一層重要なものがあると信ずる。國策は一産業、一階級の利益の爲に美辭を以て樹立すべきではない。宜しく一國全般の隆昌のために眞剣に考究するべきである。そのためには根本的に、生産を中心とした國策が確立されねばならないと思ふのである。(談話筆記)

産業立國策に關する一二例

電力、物價等に就いて

如何にして産業の振興を圖るべきか、素よりその方策は二三にして止らないが、最も低廉にして潤澤なる動力の供給を以て、その根幹とすることは敢て呶々の言を俟たない。而して我國の石炭及石油の埋藏量は遺憾ながら限りがあり、加ふるにその生産費は將來勞働賃銀と共に騰貴すべき必然的運命を有するから、豫めこれが消費節約の途を講じなければならぬ不自由を先づ本論の前提として、次に動力の源泉たる豊富な水力電氣の統一に就いて述べよう。

今や我國の電力事業は、經濟的に且つ永久無限に使用し得べき全國の水力總量約八千萬馬力と稱せられる豊富な水力を利用して顯著なる發達を遂げ、すでに開發せる水力電氣設備は營業及自家用を併せて百六十萬キロの多きに上り、火力設備も亦八十萬キロに達し、電氣事業會社の總資本は實に二十四億を算するに至つた。然るに是等事業は各自の單獨の利害關係に基いて創設せられたものである。故に、相互間に殆ど送電の連絡統一を缺き

各々孤立の状態にあるを免れない。されば河川の經濟的利用は徒らに其の効果を減殺せられ、設備の規格は統一を缺き、有無共通の利便を失ひ、その特徴の發揮を阻止されつゝある現狀である。

惟ふに現營事業の電力が、概して不廉な爲め産業の振興に對して、未だ十分に貢獻し得ぬ所以は畢竟するに第一、前述の如く事業の連絡統一を缺く爲めその利用方法の不完全なること。第二、企業に對し最高技術の集中及大規模なる建設機關の組織を缺けること。第三、資金の利息及配當の高率なことに理由すと云はざるを得ない故に、國家經濟の見地よりすれば、先づ本土に於ける主要な發電設備、送電幹線並に補助機關を相互に連絡統一を圖り、その利用率を増進するを以て、刻下の急務となすべきである。

これが統一方法としては第一、關係營業會社の共同出資を以て一大監理會社を創設せしめ、建設、規格、連絡等を管理してその經營を共通せしめ、第二、政府をして監理會社に参加せしめ、建設、經營及水利使用、土地收用等に關する手續等を統一簡易ならしめ、第三、起業資金に要する社債に政府の保證を以て低利の金融を圖り、之に對し適當なる利益制限の方法を定め、所謂官民合同の監理組織と爲すを以て最も適當であると信ずる。

右案に依り電力統一を圖る外、他の一策として之を國營に移すも亦一方法である。今假りに買收國營に移すものと假定し、全部を合して水力平均一キロ千圓、火力一キロ平均二百圓、補償總額十三億八千萬圓と算定し、之に對し六分利附公債を以て時價に換算し、利廻り八分に相當する額面を以て交付するときは(時價九千圓と假定)

公債總額十八億四千萬圓となる。而して毎年度の公債額面に對する六分の利子並に固定資本の償却、維持費及經常費總支出約一億四千萬圓となるを以て、この計算を基礎とし、販賣電力一ヶ年六千一百時間とすれば、一キロワット時單價一錢九厘五毛に當り之を現在の市價に比すれば、實に三割前後の低減をみる事が出来る。

以上は單に民營事業買收のみの推算である故に、建設費は多少高價についてはあるが、將來國營に依り建設するものは、買收價額に比して遙かに低下すべき理由が多々あるから前後を平均するときは敢て不利ではない。然も國營に移つた以後は、固より低利の資金に依つて設備の改良普及を促し一層産業振興に資することが出来ると云ふ理由は、之を鐵道國營の實績に徴しても明かなる所である。

云ふまでもなく我國は産業の資源豊富ならず、原料を海外に需め、加工的工業を以て立國の基本となさなければならぬ必要のある時、天惠の水力を完全に活用して、永久低廉なる動力を供給することは極めて緊切なることである。

尙本問題は農村の振興、並に社會政策上重大な意義を有するものであり、殊に今日に於ては電力は已に國民生活上一般的な必需品となつてゐる事實に鑑みても、一日も速かにその統一と低廉を期するの途を講ずべきである。現に電力國營並に統一問題は歐米列國に於ても審議或は實行せられてゐる。我國に在つても最早これ以上、區々たる審議などに日時を空費すべきではない。直ちにその實行に入るべきであると信ずる。

次に經濟立國策の根本の一として生産、消費の兩經濟を對立して講究せなければならぬ。生産の増大を圖ると同時に、國民をして合理的經濟生活を営ましめることが國民經濟上極めて必要なことである。而して消費經濟の原則は、衣食住に互りその様式習慣を經濟的に且つ合理的に改善し、科學設備を普及し、以て根本更新を圖るにあるが、素より一朝にして成果を望むことは出来ない。即ち先づ容易に實行し得べき方法を選択して、民衆的共通經濟の途を圖り、漸を逐ふて大成を期すべきである。物價の低下は最も重大問題であるから之に對し二三意見を述べて見よう。

物價中もつとも普遍的且つ根本的なものは、生産及商業資金に對する金利の問題である。即ち生産と分配とに要する資金に對し、一割の利子を支拂ふときは、その利子は物價に加はり消費者の負擔となるは云ふまでもない事で、利率の減するに比準し物價は低下すべき理である。生産者より問屋に販賣し、問屋が小賣商に、それが又一般需要者に分賣する間、終始一貫して物價に附纏ふて離れないのは金利である。假りに全生産と分配とを通じて五百億圓を要するとし、金利の差額を百分の三と假定すれば十五億圓であるが、即ちこの金額だけ物價を低下させることが出来るのである。

物價の低下は、大量生産に依る生産費の低下に基因するを原則とする。現に工場鑛山等の生産制限により價格を維持する如き、要するに金融關係に基くものが多い。畢竟するに生産の増大は一に資本金の充實に俟たなければ

ばならぬ。されば大量生産を容易ならしむる爲めにもあくまで金利の低下と金融の潤澤敏活を期することが喫緊事であるのだ。

次に、衣食住に要する日用品中我國の獨力にて調節の能否を査別して見ようではないか。

主要食糧たる米麥の類は悉く生産不足であつて輸入に依つて補充の止むなき状態である。更に衣料たる棉花、羊毛、鐵、石油、肥料、諸機械器具はもとより、砂糖、木材、肉類、鶏卵等に至るまで輸入によつて補足されつつある悲しむべき現状である。唯重要生産として國內の需要を充當して餘りあるは生絲であるが、國內需要三億七千萬圓に對し輸出は七億圓であつて、その價格の低下は國家經濟の利益に副はず、寧ろその高價を望むべきであるが、これを左右し得べき強大なる資本的迫力を悲しいかな現在の日本は有してゐない。

然らば我が獨力を以て生産品の價格を調節し得べき品物は何か、即ち生魚、茶果、薪炭、家具の如き國內の消費のみに局限せる特殊必需品に限られてゐることを誠に残念がらねばならない状態である。

物價決定の重大なる要素たる労働資金は、その労働の需要如何にも由つて決定するが又一般物價及生活状態にも従ふものであるから、現實に單獨的低下を期する事は出来ない。即ち我國の主要物價は現状の如き生産消費關係に在つては殆ど調節し得べき何物をも有しない有様である。それ故に産業經濟國策を高唱し、主旨として農業

は勿論一般産業の振興により國內の生産増大を圖つて物價を低下せしめ、輸出を増進し、以て我が國民生活及國家經濟の基礎を安定健實ならしめんとする所以であつて、又之を外にして物價の調節及低下を圖る途はないと信ずる。

他に云ふならば、植林事業の充實に依つて五十年後の山林荒廢の趨勢を防ぎ、漁業の對國內的意識を廣く世界に向け、同時に機械も全部大幅に獎勵改善して販路を世界の市場に求めしむべく政府は一々補償の途を講ずる等それ〴〵適當の方策を樹つるにあらずんば、國民の經濟的生命の前途を豫想してひそかに暗然たらざるを得ない次第である。(談話筆記)

不況時財政の根本的方針

(昭和六年二月、稿本)

解題

山本翁は毎次の帝國議會又は政界の重要問題に接する毎に、必ず同志と會同して互に意見を交換するを常とせられたのであるが、其の際には豫め自分の腹案を作つて練り上げて置くだけの用意を疎かにしなかつた。翁自身には演壇に立つを好まれません、花やかな役割は成るべく他に譲るといふ美德の持主であつたが、しかし、如何なる場合でも政界の重鎮としての準備は常に整へて居られたのである。

此の事實は政友會の幹事長時代から一種の習慣と思はるゝ程になつてゐたので、議會の重要討論に會した際は、いつも翁の腹案より成る稿本が事前に準備されて居つて、その都度翁自ら之を同志に贈るか、又は同志の方から之を翁に求めることが殆ど恒例となつてゐた。それは翁自身何等功名を望んだ爲めではなくて、極めて純真なる國家愛の發露からであり、國政に對する忠實性と、興味とが絶えず翁を刺戟してゐたのである。

こゝに掲ぐる一篇は昭和六年二月濱口内閣時代、總豫算の審議終了當時に起草せられたものであつて前述の腹案中代表的の一篇である（但しその腹案は大抵同志の手に渡るか、又は問題の片づく毎に翁自ら之を破棄してしまつたので、たま／＼パンフレットとなつて保存されてゐるものゝ外は遺憾ながら現在何程も残つてゐない）。仍つて特に之を本書に収録したのである。

不況時財政の根本的方針

昭和六年度豫算案を檢討して

去月來、衆議院は昭和六年度豫算案を中心として各議員對政府間種々の質議應答を重ね、今や之に對する總括的結論を與ふべき時機に到達したのでありますが、さて現内閣の財政計畫に對し最も重要な根本的觀點はそもそも何でありませうか。吾々は現政府の施設、提示せられたる總豫算案の各部分を檢討して價值判斷を與ふるに先立ち、現在我が國民は如何なる政策を必要とするか、何を政府に要求し、國家及國民の爲に如何の方針を急務とするか、而して此の根本問題より考察して現内閣の財政計畫が果して如何なる働きを好むであらうか。吾々は何よりも先づ第一に此の眼目點について、特に冷靜なる考察を加へなければならぬのであります。

我國今日の實情は、茲に改めて説明する迄もなく、目前昭々たる事實が極めて雄辯に萬事を物語りつゝある。即ち財界の不況、深刻なる不景氣——是れは現に首相代理及藏相も之を認めてゐるのであります——都市商工業

の打撃、農村山村漁村等の困憊、失業群の激増、貿易の不振、正貨の流出等、何れの方面を見ても實に悲風慘雨の光景を呈しつゝある。土地株式は勿論、我國の重要生産品たる米及繭其他あらゆる物價の急激なる低落、事業萎縮、地方銀行の休業、所謂民間モラトリウムの出現等、其の慘憺たる實情は言語に盡し能はぬのであつて、その顯著なる一例は政府それ自身の歳入が激減してゐることに徴して何人も疑ふ餘地は無いのであります。

然らば此の明々白々たる事實を前にして政府に如何なる對策があるか。政府の財政計畫の全般を見渡して此の經濟的難局を打開し、此の國民生活を安定するに足る如何なる政策が表現されてゐるか。別言せば現に悲況に沈淪しつゝある國民の要求に對應すべき如何の施設が描き出されてゐるか。國家の經濟的非常時に直面して之を乗り切るべき如何なる方針が開示されて居りますか。

斯く申せば政府は直ちに答へるでありませう。政府は既に中小業者救済の爲め二千五百萬圓の低資を融通した、又農山漁村振興の爲め七千萬圓の融資を決定してゐる、別に一般會計及鐵道會計等を通じて三千五百萬圓の失業救済費を出すことになつてゐる、九百萬圓の減税も豫算に計上してある、そして國民經濟復興の爲め所謂産業合理化、國產愛用を奨励してゐると。——之が今日の國民經濟に對して首相代理及大藏大臣がその施政演説に表現されたる計畫の全部である——併しながら斯くの如き一時的なる姑息の計畫や、虚聲に似たる宣傳を以てして、此の殺人的とも言はるゝ難局が果して眞實に打開され得るでせうか。假りに政府の計畫を鵜呑みにし全部無條件的に賛成したとして、我國の經濟界が直ちに立ち直るでせうか。本年、明年乃至明後年にでもなれば、財界

の光景が面目を一新するだけの効果を期待し居られませうか。それには何等の裏書が無い。何人も然りとは保証し能はぬのである。吾々が左様に信じ能はぬのみならず、政府それ自身にも確實なる見極めはついてゐない。其の證據には現に本年度豫算に一億二千萬圓の歳入減を見積られてゐるではないか——吾々の推定では其の歳入減は到底一億二千萬圓位の程度に止まらないで一億五千萬圓乃至二億圓にも上りはせぬかと思ふのであるが、兎に角政府の計算に随つたとしても、此の通りである——更に明後年度から明後年度は何うかと問へば、是れ亦決して歳入の増加を豫想し能はぬことは政府の提示せる數字が示してゐるのみならず、實際はより一層減少の傾向に在る。當局は頻りに樂觀論を唱へてゐるが、眞實には政府それ自身と雖も我國の經濟界が容易に立直るとは認めてゐないのである。自分で自分の樂觀論を打破つてゐるのである。斯くの如くにして何うして此の難局を突破し得られるか。其處に財政計畫上の根本的缺陷が横はつてゐるのであります。

二

言ふ迄もなく總豫算案は、單に政府限りの収入の辻褄を合はすだけが其の全目的では無い。それは國家及國民生活の實情に即して最も效果的なる計畫の見取圖であらねばならない。殊に現時の如き經濟界の非常時に際しては、一層有意義なる具體的方策に就いて、大に國民經濟に働きかけなくてはならない。然らずんば何等國家の政策としての價值を持たないのである。然るに政府の計畫を見れば殆んど何にも見當らない。例へば農林、商工、拓植等最も國家の産業經濟に密接なる關係を有する各省の豫算を通覽して何程の新施設が発見されるか。第一何

程の金額が此の重要な方面に投ぜられるやうになつてゐるか。今日は國民の全部が塗炭の苦しみを嘗めつゝある受難時代である。普通の場合ではない。恰も大戦争に遭遇せるが如き重大時機である。然るに政府の豫算は平然として何等變りなき順調時代の如く取扱はれてゐる、昭和の御世に於て舊幕時代の財政計畫を見るが如き姿である。たゞ大袈裟に宣傳さるゝものを見れば上述の如き預金部の融資位のものである。單に農村の實情からいつても昭和三年の總生産額が三十二億圓、それが昨年は二十三億圓に激減してゐる、其上に四十億圓の負債を背負つてゐる、之に對して七千萬圓程度の融通が何の役に立つか。又國民の全生産額からいふと是れ亦昭和三年度に於て百二十億圓、それが政府の發表に據るも一昨年六月から昨年十二月迄に二割七分五厘の物價低落を示してゐるのであるから、今日假りに少しも生産制限を行つてゐないとしても、全體に於て三十億圓以上の値下りである。即ちそれだけ國民の所得が減少し、隨つて購買力が低下してゐるのである。之に對して二千萬や二千五百萬圓の低資を融通したればとて、實際に於てどれ程中小商工業者の苦境を緩和し能ふか。又九百萬圓乃至二千萬圓程度の減税を行つたからとて何うなるか。所謂大海の一粟、二階から目薬の類ではないか。

又政府が頻りに高調しつゝある經濟上の手段、即ち所謂産業合理化、國產獎勵は何うなつてゐるか。例へば企業組織の改善、科學的新設備に依る製作品の改良、能率の増進、多量生産、コストの引下げ、二重投資の統制、金融、交通、運輸、販路、開拓等の各方面に於て、政府として行ふべき施政が如何に取運ばれてゐるか。民間に於ては自衛上から種々の工夫改良を加へられつゝあるにしても、政府當然の任務として、國民經濟に働きかくべ

き政策上の施設が何處に在る。遺憾ながら何物も見當らないのではないか。所謂國產愛用も無論結構である、大賛成である。だが先づ國產の充實發展を圖らずして何物を愛用し能ふか、愛用せんとするも愛用すべき品物が無い、已むを得ず外國から輸入してゐる。然るに其の輸入防遏上の施設を講ずることなくして頻りに國產を愛用せよといふのは恰も「無いものを買へ」といふに異ならぬではないか、店に商品なくして賣出の宣傳を行ふ類ではないか。

又政府は頻りに此の不景氣切掛け策として低物價策を高唱し、之を以て輸出を増進し國民經濟を建直すべしといつてゐる。それも假りに宜しいとする、宜しいとした所で政府自身が實際に行つてゐることは何うであるか、一方では産業合理化だ、産業統制だと唱へ乍ら、他方では大正七八年頃の物價騰貴時代に新設又は擴張せられたる既設事業會社を擁護する爲め、却つてトラスト的手段を勸奨してゐる有様では無いか。限産協定、販賣協定等に依る價格の維持——それは他の意味に於て消費者の負擔に依る物價釣上策となるのである——、これは大に考へなければならぬ重大問題ではありませんか。

吾々は決して政府に向つて反對せんが爲の反對を爲すものでもなければ、敢て無理難題を政府に持ち懸けやうとするのも無い、吾々の衷心より望む所は如何にして此の難局を匡救し國民を安心せしむべきかといふ一點であります。然るに政府の計畫を見、且つ其の説明を聞けば聞く程、此の切迫しつゝある非常時に對して餘りにも無理解、或は無關心としか受取れない。其の豫算案は既に委員會に於ける質問應答に依つて何人の眼にも瞭然た

る通り、一に非募債主義の破綻、二に歳入見積りの過大、三に事業繰延に由る失業者の増加と將來に於ける國民負擔の増大、四に萎縮に次ぐに萎縮を以てする退嬰的計畫以外の何ものでもない。若し此の儘に押し行くとせば此の豫算を丸呑にすと假定しても、實行不能又は國民に對する苛斂誅求を豫告すると異ならない。然らざれば昨年來既に政府自ら先例を示せる如く豫算の變更、或は再修正等、今から目に見えるやうである。政府が如何に詭辯又は強辯を弄するとも事實は何よりも正確なる證明者である。其の主義に於ても方針に於ても全く支離滅裂であつて、唯豫算の帳づらを合はせる爲に數字を陳列してゐるに過ぎない。假りに又豫算其のもの、價値は別箇の問題としても、それが國民經濟に對して如何なる働きを有するかと問へば、前述の如く無效果の一語に盡きる。少くとも姑息且不徹底の非難を免れない。これでは國民が大に失望するのみならず、國民代表の責務を負へる議會として此のまゝに看過することは實に相濟まぬのであります。

三

然るに政府の言ふ所に隨へば、我國の經濟的難局、そして政府それ自身に於ける主義方針の變更、即ち其の明白なる政策的破綻を以て悉く豫想し能はざる世界的不況の結果であるといふ。所謂世界的不況が果して何人にも豫想し能はざる事實であつたか何うか、それは暫らく不問に附するとしてからが、今日の經濟的苦難は一にも二にも三にも世界的不況といふが如き他働的原因のみに其の責任を歸すべきものであらうか。吾々は其處に現政府が非常なる認識の錯誤を犯してゐると考へる。内外經濟界の實情を正視せずして寧ろ氣の毒なる錯覺に陥つてゐ

るものと思はれないのである。殊にその顯著なる事實は最初の出發點に於て無準備の金解禁を行つたこと、而して其の金解禁を施行する爲め或は消費節約、或は非募債主義等の自繩自縛的消極政策をとりたる結果、直接間接に深刻なる副作用を國民經濟に惹起し、政府それ自ら其の主義方針をすら持續する能はざる苦境に追ひ込まれたのである。それでも政府は一種の面目又は政權慾に囚へられて強ひて剛情を張らうとするから種々の無理が出てゐる。牽強附會の詭辯を口にするやうにもなる。其の計畫は姑息不徹底にして支離滅裂なることも、實は最初の出發點に大なる認識の錯誤があつたからに外ならないのである。

元來現内閣成立以來、其の是非善惡は別問題として兎も角政策らしき政策といへば唯だ金解禁の一事を行つただけである。然るに其の金解禁政策が如何なる影響、如何なる副作用を齎したかとへば事實の告ぐる所最早や多くの議論を要しない。現政府の辯護者は此の唯一の政策を成功と認めしめやうとして熱心に努力もし宣傳もしてゐるが、論より證據、我が國民の何人が金解禁に依つて利益を得たであらうか。極めて僅少ななる金融資本家の一部を除き總ての生産者、總ての商業家、土地株式等の所有者、労働者等のあらゆる階級を通じて何人がその生活を幸福にし得たと感謝してゐるか。成る程俸給に衣食する人——就中大正七八年の物價騰貴時代に給料を倍加せられたる人々——は貨幣價値の高まつたことを利益とするであらうが、それは國民全體から見れば極めて少數であり、然もその反面には經濟界の激動、不景氣の襲來に壓迫せられて、絶えず其の地位を脅かされつゝある。人員の淘汰、減給、失業、就職難、到る處に悲劇が續出しつゝある。政府は金解禁の結果、對外爲替の變動に由

り我國の物價は單に一割二歩だけの影響を惹起せるに過ぎずと豫想したのであらうが、それは唯だ机上の數字に基ける直接的影響たるに止まり、その間接的副作用を全然無視しての理窟であり、迷想である。經濟界の機構は極めて複雑にして且其の動きの如何に敏感なるかは日銀の日歩が僅に一厘の高低を示しても、忽ち市場に波紋を起す事實に依つて何人も推知し得る筈である。殊に貿易の逆潮、國際貸借の關係に深き考慮をも拂はず、國力に基く自然的なる爲替の調節をも待たずして一時の人爲的政策に依り突如解禁を斷行したのである。其の結果として物價は單に一割二分程度に止まらずして二割七分も暴落した。其上政府の豫想を裏切りて三億圓以上の正貨が流出せるのみならず、別に三億圓餘の在外正貨も何時の間にか消滅し若くは激減してゐるのである。少くとも内外を合して約四億乃至五億圓内外の正貨が昨年一月以後一ケ年間に減少したといふ事實、これは政府の苦しき辯明を其のまゝ受け容れるとしても、日本の國家經濟より見て輕々に看過し得ないのであります。正貨の擁護、國際貸借の改善を基礎的要件として發想せられたる金解禁が、却つて逆作用を起して反對の現象を持ち來たしたのである。斯くても此の政策は果して成功と認め得るか否かは敢て識者を待たずして知るべきであります。

四

或は辯じていふ、若し我國が尙金解禁を行はずして昨年の世界的不況に遭逢せりとせば、對外爲替の低落不安定に禍ひされて更に現在以上の大打撃を被つたであらうと。此種の見解は政府當局が頻りに口にしてゐるのであるが、是れ亦一種の錯覺的觀察に外らないのである。其の實例は敢て遠きに求むるまでもなく、現に銀の暴落に際會しつゝある支那は何うであるか。昨年一月には一オンス二十一片臺に在りし銀が今は十三片臺を割りて約四割の低落を示し、往年八十片を呼びし時代に比すれば全く隔世の感がある。然るに斯くの如き極端なる變動、極端なる不安定の實情に直面して銀貨國たる支那の經濟界が、現に如何なる状態を呈しつゝありやと問へば、支那の對外貿易は近來異常の活氣を帯びつゝある。例へば我對支輸出の主目とも見らるゝ綿絲、綿布すら、近來支那より我國に逆輸入されてゐるのである。又我國の生絲が昨春來非常に低落してゐるにも拘らず、支那の生絲は銀安の關係を利用して着々米國への輸出を増加する趨勢を示してゐる。我が貿易品の二大主目、斷じて他國の追隨と侵入とを許さずと信じつゝある生絲及綿絲布ですら既に此の通りの影響を受ける程支那の貿易は好轉し、隨つてそれだけ支那の國民經濟は、其の國際的立場に於て頗る有利に開展してゐるのである。然も銀の暴落が何程支那の一般物價に及ぼしたかといへば、同國の中心市場たる上海に於てさへ約二割の騰貴を示すに止まり、直接的國際商品は別として、一般的には殆んどさしたる變動を現はしてゐないのである。此の活ける實例に照らして正しき理解を運ぶならば、假令我國が昨年金解禁を行はなかつたとしても、將た又米國其他の不況に依り多少爲替の低落を招いたとしても、敢て憂ふるに足らない、否、却つて我が輸出貿易の振興を促進すると共に輸入防遏の效果を持ち來たしたであらうことを推定し得る十二分の理由があるのである。少くとも不用意の金解禁に依つて人爲的に爲替を釣り上げたよりは、今暫らく内外の趨勢を傍觀して自然の作用、自然の調節、自然的安定を待つてゐる方が假令多少爲替の變動を免れずとしても、實際には海外各國の急激なる經濟的變化の波動を受けること寧

る遙に輕微であり、又彈力性をも保有することが出來たに相違ないのであります。

顧るに廣き世界に於て舊平價解禁を行へる國は主要列國中唯だ日英米の三國だけである。米國は世界に於ける正貨の半額近くを所有する程の大成金國であり、英國も亦世界第一の海外投資國である。故に此の二國が舊平價解禁を行へることは極めて當然であるが、我國は果して何うか。其の富、其の資源、其の對外投資等より見て英米と比較し得べき何ものがあるか。殊に正貨及貿易關係に於て寧ろ大に戒心すべき状態に在ることは改めて多言を費すまでも無い。然るに國民經濟の實情に深き考慮を拂ひもせず、無條件的解禁を施行せるが如きは即ち認識の錯誤の現はれにあらすして何であらうか。若し單に國家の面目論に囚はれて輕々しく之を斷行したものとせばそれこそ由々しき謬見である。既に世人の熟知する通り佛國は舊平價を五分の一に切り下げて解禁したのであるが、之を行ふ爲めには二ヶ年間の準備を重ね爲替の安定を待つと云ふ慎重なる用意を怠らなかつたのである。決して我國の如く政府の一存に依り、人爲的に然も急激に之を行つたのでは無い。故に平價切下げを行ひたる同國の經濟界は解禁後極めて圓滑に推移したのみか、其の所有正貨は四十億圓に増加し、殆んど失業者を見ずと言はるゝ程現在のところ各國に羨望視されてゐる。之に反して舊平價解禁を行ひたる英國は世界一の大債權國大投資國でありながら秋風落莫の状態を脱し能はずして切りに國歩の艱難を叫ばれつゝある。そして同國の有力者間には舊平價解禁の非を悔いて其の切下論を唱ふる聲が各方面から起つてゐるのである。舊平價解禁は恰も財界の不景氣に拍車をかけたると同様である、然るに佛國が之を五分の一に切り下げたることは同國の輸出品に對して多

大のプレミアムを附したると同一の効果を奏しつゝありと主張せられてゐるのである。吾々はこゝで直ちに金輸出の再禁止、若くは平價切下論を即時斷行せよとは言はない——言つても現内閣の力では到底不可能だから——しかし金解禁を以て一大功績の如く誤認し、之を行はざれば國民經濟に對して今日以上の惡影響を及ぼすものゝ如く宣傳し受賣りするものあるに至つては、餘りにも甚だしき錯覺に惑はされてゐるといふことを知らなければならぬ。否、事實の告ぐる所は全然政府の豫想に反する結果を示し、國民經濟を立直すどころか、却つて國民經濟に對して急激なる破壊作用を惹起したのである。斯くの如く現内閣の政策は其の出發點に於て大なる誤りを犯せる爲め、自ら迷路に踏み込みて國民の痛苦と要求とを正當に理解し能はざるが如き窮地に陥つたのであります。

五

勿論、吾々と雖も歐米各國の不況及銀の暴落に由る我が經濟界への打撃を全然頭ごなしに否定するのでは無い。否、吾々は前々から世界的不況時代の趨勢に備ふるの必要を認めればこそ、時機を誤れる不用意の金解禁に反對したのである。政府は此點につき亦頻りに世界的不況の急性的なるを強調し、恰も天災地變の如く論じつつあれども、それは寧ろ政府自身の不明を告白するに異ならないのであります。假りに百歩を譲つて政府の言ふが如く世界的不況を以て不可抗力的激變なりとし、そして我國の不景氣が金解禁とは何等の關係なく全然他動的原因に基くものとしやう。それにしても我國それ自身に必要な獨自の政策を持たず、何等難局打開の對策を講ぜず

して済むものであらうか。徒らに拱手傍觀して他國の景氣恢復を待望すればとて、果して我が國民は現在の窮苦を救はれ得るであらうか。なるほど米國の景氣が好轉したならば生絲の需要は増加しやう、隨つて其の價格も多少昇るであらう、併しながら米國の景氣が近々の中に恢復すとの證據は何處に在るか、恢復しなかつたら何とする。又假りに恢復したとしても、一方には低廉なる支那絲の競争があり、其上に我國には絲價補償に依る二十萬兩の滯貨が市場を壓してゐる。これを何うすればいゝのか。且又米國の繁榮に依り生絲の市價が騰貴する場合に我國の輸入品たる棉花、小麥、其他の商品も、同じく騰貴することを豫想せなければならぬ。此の場合に於て多年の輸入國たる日本は國民經濟の全局より見て損得果して何れの影響を被ることが多いか。更に米及野菜等の如き國內消費品が歐米の景氣恢復と何程の因果關係を有するかを一考せよ。問題は決して他國の景氣不景氣のみに依つて解決せず、又解決すべきものでも無い。本質的には我國それ自身の政策と努力とに依つて國民の運命を打開せなければならぬのである。

語を新たにしていふならば、世界的不況状態が近き將來に好轉したればとて、何人が救ひの手を日本の國民經濟に垂れるか、何れの國が我が國民生活の安定と向上とを約束し保障するか。現時國際的經濟戰の劇烈なる時代——所謂資本的侵略主義の旺盛なる時代——に方りて、言を他國の不況乃至好況に藉りて何等自主的政策を持ち合はざるが如き國民は、神の力を以てしても恐らくは之を救済するの途を見出し能はぬのである。

そもく世界的不況なる語は歐米より輸入せる外國語の翻譯である。米國又は獨逸、或は加奈陀、アルゼンチン等の如き輸出國に於て發唱せられたる悲鳴である——英國は輸入國なれども貿易以外の收入多き大投資國であつて金の上では輸出國同様である——然るに輸入國たる我國が是等の輸出國と同様、世界的不況の悲鳴に雷同するが如きは餘りにも淺薄なる皮相の見解である。輸出國なるが故に生産過剩、物價暴落の打撃を受けて不景氣を深刻にし購買力が減退したのである。しかし輸入國に在つては其の立場も影響も違ふのである。之を混同して論ずるは矢張り自己の政策的破綻を掩ふ爲めではないか。

それのみならず所謂世界的不況が、若しも我が國民經濟を壓迫し不景氣を持來せる絶對的原因であるとするならば、現政府が近き將來に財界の好轉を期待しつゝあることも一場の錯覺か、又は事實に眼を閉づる空想的幻覺以外の何ものでも無いのである。世界的不況の原因に就いては第一に機械其他科學的設備の進歩に由る各國の生産増加、第二に勞銀高、第三に金の偏在、第四に各國の自衛的關稅競争等、列國識者の言ふ所、既に大體の事情が判明してゐるのであるが、今日は等各般の事情を見渡して世界何れの國が完全に如上の原因を取除くことに成功し能ふか。米國政府は頻りに棉花、小麥等農産物の保護及調節策に力を注いでゐるが、フーヴァー大統領の手腕を以てして未だ一も所期の效を收め得たものは無いのである。更に其の勞銀高、正貨問題及關稅競争等に於ても容易に徹底的改善を豫期することは出来ない。少くとも我國と密接の關係ある英米の如きは、單に勞銀高の一點より見ても當年の好景氣に復することなか／＼至難なる状態に在る。然らば他國の景氣恢復を唯一の頼みとするが如き沒我的政策に何の信用を置けるか。假りに政府の言の如く世界的不況が我國の經濟界を暗黒化せるもの

とせば、既に不景氣の底を突けりと稱する政府の宣傳は嘘となる。嘘にあらずんば幻覺である。故に吾々は斯くの如き他力本願主義の政策に依りて此の深刻なる難局を打開し得べしとは到底想像し能はぬのみならず、我が國運民命を他國の財界に寄托するが如き無責任なる態度こそ、寧ろ大なる危険と感ぜざるを得ないのである。要するに國難解決の鍵は外にあらずして内に在る。國民自身の手在る。ところが現内閣の方策、其の財政計畫にはそれが全く見當らない、現政府の主張及提案の全部を承認したとしても、何等國民生活の安定を期し得る根本的經濟政策を見出し得ないのである。

六

然らば我國の經濟政策を如何にすべきであらうか。それは現に爲政の重責を負ひつゝある内閣當路に於て、夙に考究策定せらるべきが當然の任務であるが、しかし吾々と雖も決して單なる批評、單なる非難を加へることを以て能事足れりとするものではない。朝野互に政見を交換して最善を盡す、そして能ふ限りは朝野一致の力を以て此の難局に對處する、それだけの用意は吾々に於ても十分に持つてゐるのであります。

其處で我國現時の經濟政策として、何が根本の要件であり、將た最大の急務かといへば、簡單には國民の所得を増加するといふ一事に結論づけられる。國民の所得に増加したならば總ての問題は解決する。都會及農山漁村の慘憺たる不景氣も、商工業者の苦境も、失業及就職難も、正貨問題も、政府の歳入状態も自然に好轉して來る。國難の打開、國民經濟の建直し、國民生活の安定、語は異なれども結局の目的は國民所得の増進に依つて實

現される。これは現政府當局に於ても全然異論の無い點であるが、不幸にして未だ之を實際化すべき具體案が見つかからない。「名案あれば教へて呉れ」とまで言ふてゐるが、併し吾々は決して其の方策が見つからぬ筈は無いと信ずる。見つからぬのでは無くて、寧ろ見つけやうとしないのだと思ふ。其の證據には世界的大戰の爲め散々破壊せられたる獨逸、殊にロシアの如きでさへ、現に建設的經濟政策を實行してゐるではないか。又伊太利、或はトルコの如きも、着々國民經濟の更生と充實とに必要な計畫を立て、之を進行させてゐるではないか。

それで國民の所得を如何に増進するかといへば、通俗的の言葉では、第一に海外より金を取つて來ること、第二には海外に支拂ふ金を少くすること、第三は國內に於ける金の運行を圓滑にすること、これは原則である。しかし現在の實情より觀て第一の方法は急速には行かない、世界各國の競争が極めて劇烈なからである。随つて應急的對策としては先づ、第二、第三の方法が急務となるのである。

我國は明治の開國以來、極めて稀有の例外を除き連年輸入超過を續けてゐる、此の輸入超過の爲め絶えず國民經濟が壓迫を受け、國際貸借及正貨問題に不斷の陰翳が伴ひつゝある。それは何人も十二分に知り抜いてゐる事實であつて、最近數年來の輸入額は昭和元年が二十四億、同二年が二十二億、同三年が十九億、同四年が又二十一億——これは朝鮮及臺灣を含んで居りませぬ——而して昨年は非常に激減して内地及鮮臺を合計せる輸入總額が十六億八千萬圓、即ち約十七億圓となつてゐる。大體に於て平均二十億圓内外と見積つて差支へ無いのであるが、此の中棉花、羊毛等我國に生産せざる原料及準原料品を別として、輸入品の一半は既に我國に於て立派に生

産可能なる國際商品であり、極めて内輪に計算しても七億圓に相當する輸入品が、今日は我國に於て産出製造し得るのであります。然るに何故に依然として之が供給を外國に仰ぎつゝあるかと問へば、此間種々の理由もあるが、概括的には矢張り國內生産の不足に由るのである。何故に不足かといへば是れ亦畢竟政府及國民の努力が足りない、殊に政府の方針及施設に缺くる所あるが爲めに外ならぬのである。或は外國民の爲め壓せられる、或は税制、金融、運輸、販賣等の施設に不備の點がある、或は法規、教育等の點にも缺陷がある、何れにしても國家の政策が輸入の防遏に有效なる働きを行つてゐないといふ事に歸着するのであつて、單なる國産愛用の掛け聲などでは何うにもならないのである。

それ故に若し我國に於て有意義なる經濟政策が確立し、此の方面に效果的運用を見るに至つたとせば、少くとも從來輸入品の代償として諸外國に支拂へる七億圓の金額が我が國民の手に落ちる、即ちそれだけは現實に國民の所得を増加するのであります。然もそれは全部國際的商品なるが故に進んでは海外に輸出し得ることも出来るのであります。七億圓の金額は殆んど政府の現在の租稅收入の總額にも匹敵する程の數字である。現内閣が極めて重きを置く農山村及中小工業への融資總額を一億圓と見積つても、それに増すこと正に七倍である。加之、前者は一時的にして且返済の義務あるに對し、これは永久的にして然も國民の全所得となるのである。そしてそれが國內に循環作用を起すに至らば國民の購買力を増加する、金融も圓滑となる、隨つて商業も活氣を呈し各種産業が隆興するのである。

又轉じて之を失業問題の解決上より考へるも、政府の計畫では單に三千五百萬圓の公債を發行して僅に八萬人の失業者を働かすに止まるのであるが、それは一年限りのものであつて恒久的で無い。然るに此の七億圓の輸入防遏策を實行したならば、政府と同一の計算に據るとして實に二十倍、即ち百六十萬人の失業者を永久的に活用し得るのである。そして世に喧しき知識階級の失業者及未就職者も同時に活用し能ふのである。言ふ迄もなく總ての商品価格は其の大部分が勞銀の變形である。故に毎年七億圓の金額を輸入品に支拂ふことは、即ち外國の勞務者に對して年々七億圓を提供するに異ならない。自國に數十萬乃至百萬にも上る失業群を抱へつゝ外國に對して勞銀を支拂ふ、此の一點よりいふも國民經濟の擴充に切念する限り、何を措きても先づ輸入防遏に全力を注がねばならない筈である。

吾々は刻下の實情に鑑みて失業問題を特に重大と考へるのでありますが、政府は失業を「救濟」と稱して毫も「活用」の計畫を立てゝゐない。「救濟」と「活用」とは思想的にも實際的にも多大の差異があるのであつて、根本的に政策の建て方が違つて來る。而して今日我が國民の要求する所、又失業者の熱心に希望する所は斷じて「救濟」では無い、「活用」である。慈善的惠與を求めにあらすして大に働きたいのである。即ち相當の業務を求めるのである（老幼不具癡疾等の如きは救濟の必要あれども、それは宜しく救護法に由るべきである）。然るに政府は有爲且健全なる國民の活用を計らずして動もすれば人格を輕侮するが如き救濟を口にする。だから知識階級の失業に冷淡であり、被救濟者は十一萬人に過ぎずといふが如き無理解なる見解に陥るのである。僅に

八萬人程度の失業救済、然も一年限りの施設を以てして何が出来るか。本年は假りにそれで済ますとして明年は何うする。若し此の經濟的不況が連續すれば明後年には失業者が更に幾倍するかも知れないことを何人が否定し能ふか。單に専門學校以上の卒業者のみにても一年に三萬人、若し中等學校を加ふれば二十數萬人、更に小學校卒業後直に職を求むるものを合すれば、六七十萬人にも上るのである。それが今日にても就職難を訴へつゝある實情に照らし、區々たる一時的救済事業に何の効果があるか。これ實に重大なる國家問題、思想問題竝に社會問題として考慮を緊要とするのである。然も其の對策は先づ以て輸入防遏策に依る活用に外ならないと信ずる。

七

更に此の政策の重要性は、國際貸借の改善、常に輸入超過の爲め正貨の流出減少に惱まされつゝある日本として、七億圓の對外支拂から救はれるとしたならば、その結果は何うであるか。明治以來の外資輸入國は茲に一轉して初めて堅實なる債權國たる地位にも立ち得るのである。之に反して現在の如く年々貿易の逆潮を續ける、而して昨年の如き不景氣時代に在つても外債其他の支拂以外、尙一億六千萬圓の正貨が輸入超過の爲め支拂はれねばならないといふ状態に在つては、如何に緊縮を説き消費節約を宣傳しても、今後數年ならずして現在保有する八億二千萬圓の金準備に憂慮すべき影響を惹起せずとは何人が保障し能ふか。専門學者の議論は暫く措き今日世界各國の最も苦心しつゝあるは如何にして正貨を充實増加するかに在る。正貨の缺乏する國家は事實に於て戰敗國と同一運命を宣告される、これ實に國家としての死活問題であり、國民生活に於ける最後の據點を失ふもので

ある。濱口内閣が此の國家的死活問題に留意せる點は吾々も深く之を諒とするものであるが、其の唯一の手段と信じたる金解禁及消費節約政策は不幸にして大なる失敗に終り、全然反對の結果を示したのである。然も其の失敗の依つて來る所は國民所得の増加、國民經濟の充實を先きとせずして専ら形式上の金解禁を急務とせる錯覺の罪に外ならない。吾々の主張する輸入防遏策に於て貿易の均衡、國際貸借の改善を圖りだにせば、我國の經濟界は自然に建直される、金解禁を行はずとも自然に對外爲替は向上し安定するのである。故に吾々は財界振興策として、國民經濟更生策として、産業發展策として、失業問題の根本的解決策として、正貨問題の永久的對策として、その他あらゆる意味に於て、我國の經濟政策を輸入防遏、而して輸出増進の計畫に集中し、國民と共に全力を擧げて其の實現を急ぐの緊切なるを痛感せざるを得ないのであります。

素より此の政策を實行する爲めには各方面に互り種々の施設を講ぜなければならぬ。例へば關稅其他の税法を適當に改正することも必要であり、金融、交通、運輸上に改善を加ふることも無論緊要である。又産業の統制を圖り、進んで植民政策の修正及再改造を行ふとも缺くべからざる要件である。同時に教育制度及外交方針等においても革新の實を擧ぐべく、又此の政策を實現する爲めには相當の財源を必要とするを以て行政及財政の根本的整理を斷行すると共に、軍備の經濟化、官業及官有財産の整理に打着せなければならぬ。約言するに政府及國民の努力を産業國家の建設及擴充に集中する、そして飽く迄も積極的に國民經濟の發展を圖り國民の所得を増加する。今日の國難を打開し國家及國民生活を多幸にする方策は此の一途以外、斷じて發見し能はずと吾々は確信

するのであります。

世上或は吾々の政策を誤解して現に生産過剰の爲め苦惱しつゝある矢先き、更に生産を増加することの不利益ならざるかを疑ふものあれども、吾々の主張する所は主として輸入品の生産奨励である、現在外國に供給を求めつゝあるものを國內に製造することに何の不利がありませんか。今日既に有り餘れるものを此上作るといふが如き愚者が何處に在るか。現に生産過剰を訴へつゝあるものに對しては別に産業統制策を講ずる。又米及蠶絲の如き特殊生産品に就いては是れ亦言ふ迄もなく特殊政策を立てねばならない。吾々は是等の問題に對しても既に具體的成案を別の機會に發表してゐるのであつて一時凌ぎの消極的姑息策は吾人の與せざる所であります。

八

以上は現時の日本が最も緊切とする經濟政策の概要を略述したのであるが、翻つて世界各國の形勢を觀察するに、今日は或意味に於て第二の世界的大戰時代である。それは即ち經濟上に於ける最も深刻、最も痛烈なる自衛戰であると同時に、進取的爭覇戰の白熱的高潮時代たることを意味するのであります。而して此の第二次の世界的大戰に對して列國は抑々如何なる準備と作戰とを講じつゝあるか。それは即ち攻勢的防禦策以外の何ものでも無い。いはゆる攻勢的防禦策とは經濟上に於ける自給自足策である。ヨリ平易にいへば輸出増進、輸入防遏を基調とする産業發展政策である。これ吾々の主張と全然一致してゐるのであつて、本來は何れの國家と雖も、此の方策を離れて國際的爭覇戰に對應すべき戰術は絶無といつても過言では無い。世の識者は、或は吾々の主張を以

て寧ろ平凡他奇無しといふかも知れない、併しながら眞理は常に平凡なるものであります。平凡ではあるが、世界總ての政府が之を實行すとは限らない。之を實行するものは榮え、實行を怠るものは敗者の地位に立つ。我國の現状は果して何れの立場に置かれてゐるでせうか。

一例を挙げれば列國は今や競つて強度の關稅政策を執りつゝあるに對し、我國は現に如何なる状態に在るか。單に最近の事實に徴するも米國、印度、濠洲、而して支那等、何れも我國と貿易上極めて緊密なる關係を有する國である。更に佛國、伊太利、西班牙等の何れを見ても關稅の大改正を行はざる國は無い。昨年中に關稅改正を行へる國々は實に二十餘ヶ國に上り、中には數回に亙りて改正又改正を行へる國もある。若し夫れ此間に於て何等世界の形勢に頓着せざるものゝ如く泰然として之を傍觀するものありとせば、それは唯我日本帝國の政府あるのみでは無い。列國が多量の犠牲を厭はず銳意關稅政策を遂行しつゝあるは概ね攻勢的防禦の爲めである。積極的産業立國主義を行ふ爲めである。然るに我が日本が泰然自若之を傍觀しつゝあるは何等國民經濟の痛苦を感じざるが故なりや。否々、其の慘憺たる光景、其の苛烈なる窮狀は現に經濟國難の叫びとなりて四方に反響してゐるのである。それでも政府は尙當初の錯覺より目醒めずして無理に無理を通さうとする、姑息不徹底なる一時的計畫に依り當面を繕らうとする。而して國民に向つては氣休めの樂觀論を放送してゐるのであるが、それは世を欺き、人を惑はすの咎めを免れないのである。政府が景氣轉換の唯一好例として屢引用する處は紡績機業の近況であるが、其の紡績業と雖も實は今尙三割近くの操短を行つてゐるのである。又機業地の好轉説の如きも單

に割安品を目標とする小部分に過ぎずして大勢の復興とは言はれない。我國の紡績業は世界各國中最も進歩せる新式設備を有するが故に原棉の低落及勞銀の比較的低廉なる關係上、稍々好調を呈するに至つたのであつて、其處には何等政府の政策に負ふ所は無いのである。又一部機業の稍々立ち直れることも、綿絲及生絲の低落と過度の生産制限に原因する小反動に外ならずして根本より景氣が恢復したのではありませぬ。

現政府の樂觀論は斯くの如く事實に裏切られたが、其の結果として國民は如何なる體驗を與へられたりや。益々不景氣の深化しつゝあることである。益々失業者の増加しつゝあることである。益々不動産、其他諸物價の低落しつゝあることである。そして勢ひの窮する所公課の滯納、預金の減少、休業及睡眠銀行の續出、民間モラトリウムの蔓延しつゝあることである。若し斯くの如くして益々國民生活を暗鬱ならしむるに於ては其の前途は果して何うなる。政府それ自身に於ても昨年は八千萬圓、本年は一億二千萬圓の歳入減に苦しめられてゐるのみならず、明年以後も依然同様の状態を持續する、昭和十二年に至らざれば剩餘金も出ないといふ。然もそれは多くの事業を繰延べた結果であり、第二の海軍補充費も必要となるのである。斯くして萎縮又萎縮、消極又消極の末が何うなる、此の日本帝國を何處へ持ち行く考へか。

吾々の憂ふる所は常に中央政府の財政のみでは無い。より切實なる問題は地方財政の逼迫である。現に二十億圓の負債を有し十六億圓の歳出を賄はねばならぬ地方財政の實情は決して輕々に看過するを許さない。公課滯納の影響を受けて役場及小學教員の俸給支拂等にすら困じつゝある町村が、一寸數へた所で既に一千以上にも及ぶ憂慮を禁ぜないのであります。

それ故に吾々は、何としても國家及國民の經濟の現状を無關心に看過しては居られない。火は既に軒を焼き廂に移つてゐるではないか。最早や一刻も悠々閑々としては居られない。吾々は此の國民經濟を建直すべき根本政策——吾々の主張する積極的産業發展策——を即時即日にも實行する急務を痛感する。空しく來年を待つてゐることは國民生活の實情が承認しない、世界の大勢からも猶豫を與へられない。少くとも八億圓の正貨の大部分を保有する間に此の政策を立てねばなるまい。若し現状のままに放任して萬一にも七億を割り六億を割り、加速度的に減少するといふが如き頽勢に逢着したならば、それこそ大變なことにならぬとは限らぬ。常に政府の政策的破綻に止まらずして國家の財政を危くする、否、國民經濟を死地に投ずる虞れあるを知らねばならない。吾々は之が爲に昨年九月産業五箇年計畫を公表したが、今日では五ヶ年でも既に緩漫と感ずる程であつて、能ふべくんば四ヶ年にも三ヶ年にも短縮し一日も早く其の効果の擧るを期せねばならない。

之を以て吾々は何等國難打開の方策を見出し能はざる此の豫算案に對して盲目的協賛を與ふる能はず、故に一旦之を政府に返附し、改めて國民經濟に適應する有効適切なる財政計畫を提出し來らんことを要求せなければならぬのであります。

再び政務調査會長に
就任するに方りて

(昭和六年三月二十九日、政友會議員總會に於ける演説)

解題

昭和六年三月二十九日、政友會議員總會に於て我が山本翁は再び政務調査會長に就任することゝなつた。當時犬養總裁は翁の精透該博なる經綸に深く傾倒し、國家の重大時局に方りて翁に期待するところ至大であり、國策の樹立と國政の改善竝に政黨本來の眞價及使命を達成するが爲めには、翁を措きて其人なきを痛感し、強ゐて翁に懇囑して再び此の任務に就き、其の識見と手腕とを縦横に發揮せんことを要請した結果である。犬養氏と故翁との關係は寔に管鮑のその如く、文字通り肝膽相照の間柄であつた。故に故翁も犬養總裁の眞意を察して快く之を承諾せられたのである。

本篇は即ち其の當時に於ける翁が再就任の挨拶であるが、内容は單なる形式的辭令にあらずして堂々の氣魄を披瀝せる得意の雄辯である。

再び政務調査會長に就任するに方りて

國策調査の根本的觀點と其の重要方針

一

「政策本位の活動」を主義とせらるゝ我黨總裁の指名に依りまして、微力なる私が本年再び政務調査會長の重任を申付けられました事は、實は頗る意外とする所であります。

私一個の希望と致しましては、昨年既に一たび微力を致した次第でありますから、今回は多士儕々たる我黨諸君中練達堪能の士を推し、其の新知識に依つて大に清新の空氣を政界に送つて戴きたいと考へて居つたのであります。併し既に御指名を受けました以上、假令私が其の員に加はると致しましても、實際は専ら同僚諸君の深厚なる御同情と、熱誠なる御援助に依りまして最善の効果を期待する次第であります。

さて翻つて世界各國の現勢を概観すれば、既に諸君御承知の通り、政治的にも經濟的にも今尙暗澹たる状態に置かれてゐるのであります。就中深刻なる經濟的打撃は英米を始め濠洲や南米諸國を襲ひて、何時快晴となるか

更に推斷し能はざる状態であります。現内閣の人々は所謂世界的不況の一語を以て總ての責任を回避すると同時に、今にも海外より好景氣の再來するもの、如く頻りに宣傳して居りますが、眞實には所謂世界的不況にも各國共通の原因と特殊の原因とがあり、随つて其の兩面の障礙が取除かれざる限り、近き將來に景氣の回復は望まれないのであります。此間佛國や瑞西の如きは齊しく世界的不況時代に際會しながらも比較的好調を示して居り、近くは支那の如きも輸出産業は著しく活氣づいて居りまして、それには何れも特殊的原因があるのであります。即ち佛國及瑞西では其の金解禁を行ふに當り十二分の正貨を蓄積すると共に、物價の變動を確實に防止する方法を講ずる等、用意周到なる準備を整へてゐた爲であり、又支那の方は銀の暴落せるため、恰も平價を半分に切下げたると同一の作用を生じ、貿易上有利の地位に立つに至つたのであります。然るに我國に於ては各國共通の影響を受けてゐる上に、無準備の金解禁を行つた爲め、我國それ自身に特殊の不況の原因を激成し、二重の禍を醸したのであります。其の責任の大部分が現政府に在ることは、佛國や瑞西の成功と對照して最早や掩ふべからざる事實であります。

二

世界的不況の共通原因と、如何にして此の形勢を挽回すべきかの問題に關しては、各國の識者に依り熱心に攻究されて居りますが、未だ適當なる手段は見付からない。或は各國の關稅を撤廢せよとか、正貨爭奪戰を抛棄せよとか、種々の理想論を唱ふるものもありますけれど、之を現實化せん爲めには、全世界一致の國際的取極めを

行はねば効果を奏しない。然も其の事の至難なるは海軍々縮などの比では無いのであつて、他國に先んじ自國の不況を招くが如き國家は何處にも無いのであります。のみならず實際的には各國益々保護政策を強行し競ふて經濟産業上の自給自足策に努力して居るのでありますから、此際單なる理想論や、根據なき景氣循環論を唱へて一日の安を貪るが如きは、寧ろ世を誤り人を惑はすの甚しきものと言はねばなりません。本來は何れの國家と雖も國民それ自らの政策、即ち自主自立的國策を樹て、此の難局を打開する外、有效なる手段は無いのであります。別言せば國家夫れ自身に緊切なる特殊政策を確立して、自國の運命を切り開かざる限り、斷じて更生の途は絶無であり、之を怠るものは經濟上の亡國たらねばならぬ運命を豫告されてゐるのであります。

然るに顧みて我國の實情を見れば何うか。例へば第五十九議會に現はれたる政府の計畫を總觀して、此の國難を打開するに足るべき如何なる對策を見出し得たでせうか。其處にはたゞ豫算の帳尻を合はすだけの財政があり、雀の涙の如き減稅があり、三億圓の事業費を打切りて僅かに二千五百萬圓を小出しにせる一年度限りの失業救済があり、二階から目薬を注ぐが如き預金部資金の一時的融通があり、若くはトラスト獎勵の變形とも見らるる産業統制法の類を見受けるだけではありませぬか。貴族院が其の院議を以て政府の措置其の當を得ずと斷じ、更に農村振興、水産國策等の樹立を要求せることは極めて當然の事であり、然も現内閣は之に對して一言一句の抗議乃至辯解をも爲し能はざる程、其の施設は貧弱を極め、其の計畫は姑息を極めてゐるのであります。之を一言にして盡すならば第五十九議會は現内閣の無爲無策を暴露せる試験場であり、自ら標榜せる政策の破綻と公約

蹂躪の悲劇を演出せる展覽會に外ならないのであります。そのみならず議會終了後僅々四日にして早くも我黨諸君が指摘せられた通り、歳入見積過大の事實を陰蔽し能はざるに至り、遂に其の穴埋を震災善後公債に求めると云ふ財政々策上の崩壊と、不信無責任極まる失態を國民の眼前に持ち來してゐるのであります。斯様に政府の方策が自滅的であり、其の施設が貧弱であればある程、我黨の責任は一層重大性を帯び、國民の負托は現内閣の不信に反比例して、今後は漸次我黨に集中さるべきであります。随つて我が政務調査會の任務も亦従前に比し倍舊の緊張努力を要することゝ存じます。

三

御承知の通り我黨の政策は夙に其の大本の決定せるものがあり、殊に刻下の國難に對應するため、昨年九月を以て臨時大會を開き、全會一致の御賛成を得て新經濟政策の樹立を見るに至つたのであります。當時應急對策として最も緊要と認められたる建設の方策は、

- 一、不景氣打開策として各般の積極的施設
- 二、産業五箇年計畫の遂行及臨時産業資金制度の創設
- 三、行財政、官業及官有財産の整理
- 四、國民負擔の軽減（五千萬圓を下らざる減税）
- 五、失業問題の根本的解決策

六、米及蠶絲問題對策

七、植民地を含む産業の統制及低金利策並に運賃引下げ
等でありまして、是等は何れも今後の方策として明確に支持さるべきものであり、而して更に調査検討の完備を期せねばならぬ基本的題目であります。

世上現内閣の無策に失望すると同時に、我黨の成案如何を問ふものもありますが、それ等の人々は昨年九月既に中外に公表せる前述の具體的政策を忘却してゐるか、又は我黨自らの宣傳不十分に基くのでありまして、苟も公正なる理解と判斷力の所有者である限り、帝國現時の難局に對して、我黨が如何なる政策を主張し、且之を實現すべく如何なる用意を有するかは十二分に會得さるべきと信じます。

それで今回吾々が政務調査の任務を擔當するに際しても、一定の方針は既に確定されて居るのであります。即ち昨年決定せる政策を基調として其の綱目を整へ、實行上の準備を精細に進める。同時に既定の政策を據點とし且之に關聯して廣く各方面に互り更に必要な調査を遂げ、政策の徹底を期する。それが今後私共に於て特に努力すべき要點であると思ふ。

換言せば世界各國の現勢並に我が國民經濟の實情は前に述べました如く何等本質的には好轉せず、寧ろ益々其の不況を深刻にし、或は慢性的固疾化の状態を持ち續けんとする状態に在るを以て、我黨の政策はいよゝ緊切なる急務を痛感せらるゝのであります。故に吾々は既定の政策に立脚してヨリ深くヨリ周到なる攻究を重ね、一

日も速に之が實現に向つて精進せなければならぬ。而して其の核心を何れに置くべきかと云へば、それは改め
て縷説する迄もなく、國民經濟の更生であり、國民所得の増加を圖ることでありませう。我黨既定の新經濟國策、
産業五箇年計畫に依る輸入防遏、輸出増進策も、不景氣打開策も、失業問題の解決策も、國民負擔の輕減策も悉
く國民經濟の更生、國民所得の増加を實現する事に依つて其の目的を達成し得られるのであつて、今日最も有意
義なる建設の方針は是れ以外に存在し能はぬのであります。

四

勿論上述の目的を達成する爲めには、廣く國民と共に非常の覺悟と勇氣とを以て、あらゆる障礙を排除し、幾
多の難關を突破せなければならぬ。内治外交の全面に涉り一大革新を必要とし、就中財政上に於ても一大整理
を斷行して國民經濟の資源を涵養すると同時に、生産事業の振興充實を圖らねばならぬのであります。それ故
に我が政務調査會に於きましては、既定政策の各事項に就き更に精密の調査を行ふと共に、尙ほ進んで次の各事
項を攻究し其の具體案を練り上げたいと思ひます。

- 一、輸入防遏、輸出増進を目的とする既定産業五箇年計畫の實施細目及方法
- 二、生産の合理的低下及消費經濟施設の改善
- 三、國民所得の増進と大衆生活の安定
- 四、外交の經濟化（原料供給、販路擴張、移民、對外投資統制等）及國家權益の擁護

五、米穀及蠶絲國策の樹立

六、國民の實生活に即する教育制度及施設の根本的改善

七、國勢一新を基調とする制度、法規及政治機構の全般的改革

八、國稅及地方稅の輕減

九、社會政策の完成

右は單に要目を列擧せるに止まり、茲に詳細を語る違はないが、總て我黨既定の政策に依準して國民生活の安
定を圖るため不可欠の要件と信じます。

報ずる所に依れば現内閣に於ても今や所謂三大整理の看板を掲げて新に調査會を設立するとの事でありませう。
既往二年近くの歳月を無策に経過しながら急に此種の計畫を發想せるが如き、畢竟議會の攻撃を避けんとする責
任逃れの窮策と解せられるのであります。假りに其の動機を別とし、若し誠實に行財政及稅制の整理に打着す
るとせば、吾々に於ても其の趣旨目的の公正なる限り敢て贊助に吝ならざるものであります。併しながら現内閣
の行ふ所は既に一般に周知せらるゝ如く其の標榜と實行とは毫も一致せず、徒らに誇大の宣傳を放ちて然も總て
の公約を裏切れる欺瞞的事實の續出しつゝあるに徴し、今回の計畫も亦容易に信を置くに足らないのであつて、
其の結果たるや推して知るべきものがあります。加之、現内閣は常に財政と國民經濟とを混同するか又は眼中唯
だ政府の財政あるのみにて、國民經濟無しと斷ずるも過言にあらざるが如き迷誤に陥りつゝある。單に豫算の辻

棲を合はすことを以て能事足れりとし、所謂緊縮といひ節約と稱し或は行政の經濟化と唱へて、然も實際に行ふ所は大部分事業の繰延にあらすんば不合理なる天引主義に墮し、此間何等見るべき對策を持ち合はさず、是れ即ち政府限りの財政あるを知るのみにて、國民經濟の消長に關心を持たざる歴然たる證據といはねばなりません。

五

歐洲各國は大戦後何れも行政機構の大改造を斷行し、其の制度法規の改廢せられたる點に於て劃期的實績を示したのみならず、今日に於ても時代の趨勢と國民の要求とに適應するため、憲法の改正すら屢々行はれてゐる程であります。最近英國政府が國費節減のため朝野同數の特別委員を擧げ調査會設置の事を決せる如き、又其の一例に外ならないのでありますが、我國に在つては明治以來多年の因襲に拘泥して、恰も改革意識を麻痺せるが如き觀を呈し、此間或は各省割據の弊を助長し、殊に繁文縟禮の甚しきに至つては世界に類なき状態であります。故に眞實に行政及財政税制等の整理を行はんとせば、創始一新の決意を以て根本的に國家機關の再組織を鋭斷する底の覺悟がなければならぬ。之が爲には制度、法規の全般に互りて徹底的改革を加へる、現行無數の認可許可主義の繩墨を一掃的に改廢する、無論地方自治權を擴張して能ふ限り中央政府の事務を簡易にする。曾ては教育も普及せず交通機關にも乏しき時代に於て必要とせられたる諸般の制度と機關とを可及的に撤去し、或は清算する。それであれば容易に整理の効果を奏せぬのであります。それは外交にも、國防にも、教育にも、司法にも、警察制度にも、植民政策にも、金融にも、運輸交通事業にも悉く必要であり、更に時代は社會政策の完備、

國家保險制の採用を促してゐるのであります。是れ我黨が前に申述べました通り、廣く是等の各方面に互り改善の方策を樹てつゝある所以でありまして、其の目的とする所は制度改新に由る國民經濟の更生が主眼であり、他語には國費を節減して産業發展の資源たらしむるに在る。それは我黨限りのスローガンでは無く、最も嚴肅なる意義に於て、此の方針、此の政策に由るにあらずんば到底苛烈なる時難を匡救し、國民の切實なる要求に適應し能はぬからであります。

六

若し夫れ我黨の新經濟政策及應急的不景氣當面策が如何なる内容を有するかは昨年既に其の具體案を公表したのでありますから、茲には繰り返しませぬが、要するに産業立國主義を基調として積極的生産振興策を遂行し、以て輸入防遏、輸出増進を圖ると共に百萬に上る失業者を活用し、且つ我國多年の悩みたる國際貸借を改善し正貨問題を解決する。産業五箇年計畫は之を實現する爲の施行案であり、今後更に調査を進めんとする各要目も、皆此の基本的政策を達成する爲の準備に外ならぬのであります。世上或は我黨の主張を誤解して現に生産過剰に苦しみつゝある今日に際し積極的産業發展策を執るを不適當と見る如き論者ありと雖も、斯かるは實に無理解の甚だしきものであり、何人か生産過剰に悩める商品を更に増産すべしといふが如き愚者がありませう。我黨の必要とする所は何よりも先づ輸入品を防遏するに在る。現在我國に不足し海外より購ひつゝある商品の自給を最優先務とするのである。然も其の輸入額は此の不景氣時代に於てすら十五億圓に上りつゝあるが、此中原料品を除

き少くとも七億圓以上の商品は我が内地に於て既に製産可能なるものである。故に之が製産を奨勵助長するに於ては百數十萬の失業者は活用されるのみならず、海外に持出さるゝ七億圓以上の金額は國內に流通回轉して購買力を旺盛にし國民所得を増加するは火を觀るより明かであります。之に依つて我國は貿易上の輸出國となり、經濟上極めて鞏固なる地位を確立することが出来るのであります。今日國難打開の鍵は何人と雖も此の方策を措きて他に發見し能はぬのであります。

七

近來世間の一部には現政府のインフレーション政策と樂觀的宣傳とに誤られて既に不景氣は底を突けりとし、今にも景氣の立ち直るが如く考へてゐる人々があり、或は紡績機業の一時的好調、或は金利の低落や、一部株式の稍持ち直せる現象を見て早くも其の前兆と囃し立てゝ居りますが、是等は何れも事實の真相を見誤れる錯覺に過ぎないのであつて、現に失業の脅威は從來の安全地帯たる教育界までも襲ひ、三萬人の小學教員を犠牲に供しつゝある有様で、實際には形勢益々悪化且擴大してゐるのであります。好調を傳へられたる紡績業の如きも尙三割の操短を行つて居るのみならず、銀安に乗じて支那絲の輸入も漸次増しつゝある。又金利の低落は事業不振の反映に外ならぬのであつて、極めて變態的な現象であり、一部株式の回復も曩きに過度の暴落を告げたる結果少しく引き還せる迄である。總じて經濟界には常に若干の波が打つて居るのでありますから、一揚一抑、時には水平線を超へることもありますが、大勢上より云へば未だ景氣好轉の曙光を認め能はぬのであります。政府の

頻りに高唱せる産業合理化が實現せるにもあらず、歐米の不況が盛り返せるにもあらず、米や生絲が市價を回復せるにもあらず、たゞ當業者の生産制限や販賣協定等に依りて、物貨の低落を阻止するに汲々として是れ努め、之が爲には貴き資本と生産機能を睡眠状態に置きつゝ辛うじて當面を支へてゐるに過ぎない。然も此の状態の永續に慣れて病的同化作用を起し退嬰的心理に低迷する傾向あるは、我國の經濟界をして慢性的結核患者たらしむるものであつて、是れこそ更に大に憂慮せなければならぬ事實であります。

八

それ故に吾々は今に於て速かに國民經濟の根本的建直し策を實行して、現在の貧血状態を治療し榮養を盛にすることの急務を高調するのであります。之が爲には國家及國民の自衛手段として或る程度の保護政策も必要であり、已むを得ざる場合は公債に由る輸血の方法も、國民全體の生命には代へられぬのである。我國の學者論客中には今も尙前世紀の自由貿易主義を金科玉條視するものあるを見受けますが、此種の人々こそ實は時代錯誤の舊思想に囚はれてゐるのであります。現代は世人が之を好むと好まざるとを問はず、實に保護貿易主義の全盛時代であります。自由主義の祖國たる英國ですら、既に其の舊衣をかなぐり棄てゝ保護主義に改宗しつゝあるのであります。又我國一部の論者は今尙依然として「通貨膨脹即ち物價騰貴」てふ舊原理を堅く信じて居りますが、現代は強烈なる正貨爭奪戰の時代であつて、往時の重金主義に新たなる權威を復活せしめつゝある。現に米佛二國は世界に於ける正貨の大半を所持して居るが、對內的に之を統制して其の影響を物價に及ぼさしめず、却つて

益々正貨の保持と増加に努力してゐるのであります。

是等は只一二の實例を述べたに過ぎませぬが、此間獨り悠然として各國の關稅政策を無關心に看過してゐるのは、廣き世界に於てたゞ日本あるのみです。既に三億の在外正貨を失ひ、二億五千萬圓の内地正貨を流出してすら、尙泰然として何等驚くの色なきが如き政府の存在も、亦たゞ日本一國だけの現象ではありませんか。然も内には職を求めて之を得ざる失業者が到る處に群を作し、働き盛りの青壯年が天を仰いで就職難を歎じてゐるのである。そして他方には其の資本と生産機關を眠らしめ、海外より巨額の生活品を購入しつゝあるのである。斯くの如き奇異矛盾を極むる國家が二十世紀の世界を見渡して何處に在りませうか。又斯くの如き奇異矛盾を冷眼視しつゝある政府の存在を承認し傍觀しつゝある國民が何處に發見せられませうか。

茲に至つて我黨の使命は實に至重至大であり、眞純なる政策の樹立と展開とを信條とする吾々の任務も、亦隨つて嚴肅であらねばならない。何となれば國難打開の重責を擔當して能く國民の負托に堪へ得るものは、今や我黨を措きて絶無なるが故であります。

以上の趣旨方針に依りまして吾々は今後の調査を進めたいと考へますが、總ては同僚諸君の豊富なる智見を借り最善を期せねばならぬのであります。何卒各位の熱誠なる御教示を切望致します。

産業五箇年計畫を主 題とする報告及演説

(五篇)

(昭和六年四月より同七年二月に至る)

解題

茲に収録する所は左の五篇である。

- 一、五箇年計畫を中心とする十大政綱（昭和六年四月廿二日政務調査總會に於ける決議報告）
- 二、時局を概観しつゝ産業五箇年計畫を説く（昭和六年七月號雜誌『政友』所載）
- 三、産業五箇年計畫案一覽表（昭和六年七月作製、政務調査會發表）
- 四、犬養内閣の成立と今後の政策（昭和六年十二月二十一日政務調査總會に於ける演説）
- 五、産業五箇年計畫の意義と目的（昭和七年二月號雜誌『政友』所載）

右五篇の中、初めの三篇は若槻内閣時代のもので、後の二篇は犬養内閣成立以後のものたる事に注意を要す。

犬養總裁の懇請と政友會の興望を負ひて、昭和六年三月第二次政務調査會長を引受けたる我が山本翁は、前年九月自己の立案せる産業五箇年計畫其他の重要政策を政友會の黨議として決定せる政治的責任を重視し、其後も内外各方面に互り之が調査検討を進めて居られた。それは單なる興味からでもなければ功名心や研究慾の發作でもなかつた。我が日本の經濟國難を打開し、帝國の存在を強化するが爲めに

は一刻も速に該計畫を遂行する外なしとの堅き信念に由るのである。

之を以て當時の翁は全く眞劍であり、懸命であつた。これが爲めに或は健康を害されはせぬかと案ぜらるゝ程攻究に攻究を重ね、客の訪ふあれば、談必ず産業五箇年計畫に及ぶといつた有様であつた。随つて昭和五年の秋頃から同七年にかけての新聞や雜誌には五箇年計畫に關する翁の談論が屢々掲載された。それは確に政界に大なるセンセーションを起し、朝野の注目を惹ける重要話題であつた。

随つて五箇年計畫を主題とする翁の演説や、談話筆記は大小長短多數に上るのであるが、今其の中から主として政務調査會を始め、直接政友會關係の席上に發表せるものを茲に抽出して採録した。

勿論、産業五箇年計畫に關する翁の所論は此の五篇に盡されてゐるのではなく、溯つていへば既に前年九月の『新經濟政策決定の趣旨』に提唱されて居り、次で同年十月の電氣協會に於ける講演にも説明され、更に『經濟國難應急策』には相當詳しく論述されてゐる（何れも本書中に収録しあり）。又次篇の『十大政綱解説』中にも含まれてゐるのであつて、故翁に取つては單に一時的の思ひつきや、政略的に發想されたものではなく、眞實に國難匡救、國運復興の爲め、これが達成に心血を注がれたのである。

然るに世上動もすれば當時の計畫を目して實現不可能なる空想案とし、或は好んで大風呂敷を持ち出せるかの如く冷評せるものがあり、殊に反對黨の論者は自由貿易主義や、金解禁を支持する立場などか

ら、翁の積極的産業政策を非難したが、是等の批評に對しては、翁自ら機會ある毎に之を論駁し、極めて勇敢に、併しながら極めて眞摯なる態度を以て、自己の所信を徹底せしむべく闘はれたのである。惜むらくは大養内閣が中途に倒れた爲め、折角の素志を遂ぐるに至らず、滿腹の經綸を抱きながら其後病痾に襲はれ意の如く活動し能はざる不運を見るに至つたことである。若し當年翁の計畫が實行に移されてゐたとせば、現在の我國民は如何に心強く列國に對處し得たであらうか。今にして故翁の主張を想起し何人か翁の産業國策を誤れりといひ得るか、翁の計畫を以て空想とし大風呂敷などと評せる人々は現に三十億圓にも上る豫算案や、四十八億圓の事變費を見て如何に感ずるであらうか。又一方では八億や十億圓位の増産計畫では少いといつた論者もあつたが、若し翁の計畫が實現されて居れば、政府の直接の事業以外、之に促されて間接的に興起せる増産額は其の二倍にも三倍にも上つたであらうことを何と解する。更に又金解禁を金科玉條視せる人々は、再禁止後に於ける實情に照らして翁の主張の當否如何を何と考へるか、自由主義者や生産過剩論者は列國の趨勢と我國現下の要求に鑑みて、如何に各自の短見を辯護し能ふか。若し彼等にして再び故翁の論策を讀むならば、其の先見に驚歎すると同時に、省みて自己の不明を愧ぢ冷汗の流るゝを禁じ能はぬであらう。

産業五箇年計畫を中心とする十大政綱

(政友會政務調査會に於ける決議報告)

我が國民經濟の現勢は、政府當局累次の樂觀説を裏切り、實質的には未だ何等好轉せず、寧ろ益々深刻なる不況状態の擴大化と、慢性的結核化を示しつつある。然るに現内閣はこの重大時機に直面しつつ、國民生活の安定に關しては、毫も有効適切なる計畫を講ぜず、外交は退嬰不振を極め、第五十九議會は遺憾なくその無策無定見を暴露し、公約蹂躪、政策破滅に終始し、更に地方自治の根柢を動搖せしめ、國民の信任既に空しと云ふも過言ではない。

我黨の主張政綱は夙にその大本の決定せるあり、殊に當面の緊急對策としては産業五箇年計畫、減税その他各般の重要な具體案を策定公表した。これを以て我黨今後の調査方針としては既定の政綱に準じ、更に時勢の變轉に善處するため、政策の合理的徹底化に必要な諸般の準備を完成するにある。就中主要なる調査項目は

- 一、輸入防遏、輸出増進を目的とする既定産業五箇年計畫の實施細目及方法
- 二、國民所得の増進と大衆生活の安定
- 三、生産費の合理的低下及消費經濟施設の改善

- 四、米穀、蠶絲並に水産國策の樹立及農村經濟の調査
- 五、國稅及地方稅の輕減
- 六、失業對策及社會政策
- 七、國防の經濟化
- 八、國家權益の擁護及外交の經濟化（原料供給、販路擴張、移民、對外投資統制等）
- 九、教育制度、施設の根本的改善及思想問題
- 十、國政一新を基調とする制度、法規及行政機構の全般的改革

我黨の政策は全然現内閣の彌縫的退嬰主義と本質を異にし、その目的とする所は國政一新を基調とする國民經濟の更生である。これが爲めには制度、法規の全般的改革を行ひ、内治、外交、教育、産業の全方面を通じて一大改革を施し、無用を節して有用に活かし、以て國民負擔の輕減と所得増進の施設を實現するのである。

顧るに我國は世界大戰後の改造に取殘され、内は明治初期の舊套を脱せず、外は強烈なる國際經濟戰に立ち遅れ、未だ自立的對策を有せず、輒近列國は競ふて經濟自衛策に心血を注ぎつゝあるに拘らず、現に深刻なる國難に際會し失業者の群出を視ながら、尙平然として生産可能な生活用品を巨額の輸入に仰ぐが如き實狀にある。凡そ世界廣しと雖も各國の關稅政策を無關心に看過し、又一年以内に三億圓の在外正貨と二億圓餘の内地正貨を失ひ、尙何等對策の樹立を急がざるが如き國民は、日本を描いて他にその例を見ない。

我黨の建設的産業立國策は上述世界の趨勢に適應するがためであり、五箇年計畫はその應急策に外ならない。勿論現在國內に於て生産過剩なるものを更に増進するが如き非常識の計畫ではない。その主眼點は輸入防遏の可能なるもの、輸出増進の見込あるものを對象とし生産計畫を樹立するにある。而してこれを實現するに於ては我が國民經濟は頓に活況を呈し、百萬人以上の失業業者も、有爲の産業軍として立派に活用され得る。同時に正貨問題及國際貸借上の壓迫が取除かれ、斯くして初めて經濟國難を打開し能ふのである。

現當局は世界不況を唯一の口實とし、經濟政策破滅の責任を掩ふに汲々たるも、自立的國策を把持せずして國難を突破し得る理なく、坐して他國の加護を待つが如き他力傍觀主義は、無爲無策の告白である。要するに我黨の建設政策以外、現下の難局を打開し國勢進展、國民生活更生の方策は絶無たるを確信する。

時局を概觀しつゝ、産業五箇年計畫を説く

一、直視するに忍びざる國民の生活苦難

現下、我が國民の多數は、深刻なる不景氣に虐まれて、或は失業し、或は失業せざるまでも收入激減して收支

償はず、その日の糊口にも差支ふる多數國民の慘烈なる生活苦難の爲め、隣保互助の美風も保たれず、一族相扶くるの良俗も毀たれ、生きんが爲めに盗むもの、貧ゆゑ自殺するもの、或は一家心中するものなど、慘劇は日々各地に演ぜられ、眞に直視するに忍びない。一日一刻も捨ておけない現前の修羅界を映出し、苟も心あるものは、最早や其の因つて來るところを問ひ、或はその責任問題などを論じてゐる場合でない。直に進んで此の國民の生活苦難を如何に救ふべきかを考究すると同時に、如何にして今後の國運民命を開拓すべきかを決定せなければならぬ。

そこで我々は此の國家内外の形勢に鑑みて専ら所要の政策を究め、局面を打開して直ちに國民生活を安定し、國運の隆昌に向つて邁進せんと欲するのであつて、之は一に救國濟民の熱意に發するのであり、何等政權爭奪といふが如きケチな私心に累せらるゝのではない。随つて我輩は他黨の事などを言ひたくないのであるが、自己の所信を述ぶる對照として、少しく現在國運の窘迫、民命の痛苦に對する現政府の方針を検討しておく必要を感じる。

二、不景氣の原因と現内閣の失政

不景氣の原因は既に論じ盡されて、今日では現政府や其の與黨の人々と雖も否み能はざる定論である。世界的不況の影響、銀相場の下落なども今日我國の不景氣の一因には相違ないが、この外に我國の不景氣には重大なる

特種原因がある。それは無準備なる金解禁と、その誤れる緊縮政策であつて、最早今日に於ては之を否定する程の勇氣の持主はあるまい。最近の新聞で見ると、米國大統領フーバーは、米國の不景氣に就いての國內的原因中に、生産事業の萎縮と一般人の消費の減退を擧げてゐるが、民政黨内閣は専ら生産事業の緊縮と消費の節約に努めたのであるから、今日我國の不景氣は民政黨内閣の政策によつて拍車されたことは争へないところである。それでもフーバーは上述の觀察に基き、其の對策として二十年計畫を發表し、更に戦時賠償金支拂の延期等を提議したが、今日若槻内閣は何をしてゐるか云ふと、依然たる消極であり、緊縮である。たゞ新政策として國産受用と、産業合理化などを唱へたが、生活必需品すら生産不足の爲め、現に多額の輸入を餘儀なくされてゐる日本は、その生産増加を圖らずして、何處に受用すべき品物を持ち合はせてゐるか。産業合理化にしても原則論としては其の不合理を主張するものゝあるべき筈はないが、現内閣の産業合理化や、統制なるものは、其の實、不合理なる物價引上を促し、トラストの續出に過ぎない結果となつてゐるのである。井上藏相が『世界の景氣は好轉しつつあり、我國の不景氣も底をついた、國民は今少し辛抱せよ』といつてから既に十箇月、しかも世界の景氣は一向好轉しないではないか。最近フーバーの創案も『一時の應急策であつて根本的でない、その間實質的に我國の不景氣は加速度に深刻になつてゐる。此上の忍苦強要は多數國民を死地に導くものと云つても過言ではある

45。

三、無意義なる官僚的小細工の三整理

論より證據である。今日現政府が爲さんとし、乃至は爲すが如く宣傳してゐる所のものは何であるか。所謂、行、財、税の三整理である。しかし乍ら是等の企ては、その事自體が直ちに國民の利福を増進し、その生活を安定向上せしむるものではない。假りにその成果が擧つて將來多少國費を減する一助となるとしても、彼等が今日之を行はんとする眞目的が六年度豫算の歳入缺陷補填——所謂赤字埋め——の爲であり、七年度豫算編成難の爲めの財源漁りである以上、國民の生活苦は毫も救はれない。單に救はれないのみならず、無理な財源捻出の結果は必ず將來國民の負擔増加となり、國運の進展をも妨ぐるを免れない。

忌憚なく言へば現内閣はたゞ政權擁護の窮策に汲々として、國民の痛苦も顧みず、國運の將來をも考へない遣り方である。殊に其の爲さんとするところを見れば、何れも因襲に立脚する官僚的小細工で、俗に言ふ重箱の隅を楊子でホジクルの流義である。かゝる遣り口はいよ／＼國家財政の弾力性を失はせ、國民生活を窮境に陥れしむることに役立つに過ぎない。如何にも眼の着け所が低く狭く、手の下し方が盛まつて窮屈である。それで今日の國家國民の難局を打開匡救しようと言ふが如きは、常識あるものゝ嗤笑を免れない。

四、試みに行政整理に就いて曰はん

現政府の行政整理の目標は、前に記せるが如く歳入減收の補填即ち政費の節約にあるも、我々の主張する行政整理は前者と異り、維新以來六十年間に種々の積弊があり、時代の進運、人智の進歩に伴はざる現在の行政機構を根本的に建直し、國政を一新して國民の利福を増進するといふことに目標を置き、國費の節約等は附隨的效果として當然收むべきであると考へる。例へば各種の許可認可制度の如き、なるべく之を届出主義に改むれば行政事務も減り、國民も時間と費用を浪費しないで済むやうになる。こゝに自ら冗員の淘汰、政費の節約といふことになるが、之に依つて整理せられたる人員は、此の根本的行政整理と共に行ふべき産業政策上の施設に振り當てることにすれば、失業者も出さず、所謂無用を節して有用に活かすことが出来るのである。現政府の遣り口では財源捻出の必要から有用も之を廢することとなり、失業問題の脅威から無用のものも、時には存置するといふが如き弊を免れず、更に天引の已むなきに陥つて玉石共に焚くことゝもなるのである。そして斯くの如き整理はやがて復た舊狀に復して何等の意義を爲さぬことになることは、歴代内閣が財政窮乏の度毎に掲げた看板の行政整理の成り行きに徴して想像に難しとせぬ。税制整理にしても、從來の如き時代遅れの法規に囚はれ勝ちな官僚的技術的考慮を以てしては達成せられるものでない。これも單なる一例を云へば、農家の課税に際して東北の農家の百圓の収入しかなきものと、臺灣の農民の二百圓の収入あるものとに對し、其の形態の同じきを理由として、同額の課税を爲し、以て公平なりとなすが如き皮相の取扱ひぶりを屢々目撃する。かゝるは決して眞の公正でもなければ善政でもあり得ない。前者には徴兵の義務あれども、後者にはそれが無いといふ事を考慮しても單なる

外面的形態のみに執着することの不可なる所以を悟り得る筈である。若し現政府の遣り口を以てせば、其の行ふ所、遂に苛斂誅求の具にならなければ幸ひである。

五、我々の政策は先づ國民經濟更生

斯くの如く我々の政策は民政黨の彌縫的萎縮主義と全然本質を異にし、その目的とするところは國政の一新を基調とする國民經濟の更生である。之は直に以て今日の不景氣打開の方策であり、また國運發展の礎石である。即ち産業五箇年計畫を策定し、之によつて自然増加以外に十億の生産増加を圖らんとし、更に時勢の變轉に善處する爲め政策の合理化、徹底化に必要な諸般の準備を完成せんとして、現に輸入防遏、輸出増進を目的とする既定産業五箇年計畫の實施細目及方法を始めとし、國民所得の増大と大衆生活の安定、生産費の合理的低下及消費經濟施設の改善、其他合せて十大政綱の實現に精進してゐるのである。是等の政策に就いては其の調査の一部完成したるものは既に公表してゐるのであつて、我々が如何に眞劍に努力しつゝあるかは、識者の察知し得るところと信ずる。

六、産業五箇年計畫に就いて

我々の産業五箇年計畫については、其の趣旨概要を既に公表したが、全般に互る具體的施設に關しては尙ほ調査中に屬するもの多きを以て、未だ細説の時機には達してゐない。併しながら大體に於て國民の所得は最近十ヶ年平均約百十三億圓と推定さるゝに對し、國民消費の總額は約百十五億圓と推定され、毎年二億圓程度の消費超過である。これは細かい計數にあらざるを以て未だ信を置き難しといふものあるやも知らねど、大戰直後二十三億圓を有せる我國の正貨が今日では八億圓臺となつて約十五六億圓を消費し、此間に外國に於て募集したる公債約十二億圓と見れば、丁度毎年約二億圓平均の消費超過となるのである。而して若し今後も此の状態を持ち續けるとしたならば、國民經濟は結局對外的に破産の外なき運命に逢着する恐れあるを以て、吾々は之が對策として、且又國富増進の國策として産業五箇年計畫を策定したのである。

輓近列國は競ふて經濟的自衛策に心血を注ぎ戰後の改造復興に努めてゐる。何れの國も關稅の障壁を高くして自國の産業を保護助長しつゝある。然るに我國に於ては現政府の政策宜しきを得ず、現に深刻なる經濟國難に際會し、失業者の群出を見ながら平然として生産可能の生活用品を巨額の輸入に仰いでゐる。我々の概觀に於て今日の輸入總額十五億圓中、少くとも七億五千萬圓は之を國內にて生産し、それだけ輸入を防遏し、進んで輸出を増加し、以て對外勘定を改善し、國家國民の消費超過を一轉して所得超過たらしめ得る途は存するのである。現に最近略ぼ調査を終つた鐵、鐵製品、鑛産、機械に就いての増産計畫のみを以ても、一ヶ年約三億圓の輸入防止が出来る事が明かになつた。此外農産、水産、林産、化學工業等に互るのであるから、具體的調査完了の結果は、いよゝ産業五箇年計畫の的確なることを明かにすべきこと確信して疑はない。

七、五箇年計画に對する悲觀懷疑の妄

我々の五箇年計画に對し、世人は之が提唱の當初には概ね數字の大なるに驚異の眼を睜るといつた調子であつたが、その後現政府の經濟政策の行詰りと、その結果が激化したる不景氣の深刻、一方には我々の眞劍なる調査力説により、漸次共鳴憧憬の眼を振り向けるやうになつた。とはいへ、多くの人々の中には今尙ほ往々にして理由なき悲觀や懷疑を挟むものゝあるのは遺憾である。しかもそれ等は概ね技術の問題と資本の問題に關して理解を缺いてゐる爲めである。然るに吾々の精密なる調査に據れば、技術の問題に關しては歐洲大戰當時の試練により、既に製作工業の大部分は我國に於て製造可能なることを立證されてゐる。例へば製鐵、造船、飛行機、發電機、變壓機、窒素肥料、レーヨンなど何れも邦人の有する技術能力の優秀なることが事實上に證明されつゝあるのみならず、我が國民の技術能力は世界何れの國民に比較しても根本素質には決して遜色なく、寧ろ歐米各國にも優ると認められてゐる。又資本の問題は、現政府與黨側の頻りに指摘論難するところなるも、そは彼等が所謂非募債主義に拘泥し、眼中たゞ消極經濟あるを知りて積極的生產經濟を理解せざる爲めである。更めて説明するまでもなく吾々の主張する財源の一部として生産公債を發行することは、何等國民經濟に悪影響を及ぼすものではない。否、之を活用する事によつて國富を増進し國民經濟を裕福ならしむることは、恰も原料の輸入を榮養素として輸出の殷盛を圖ると同様であり、爲に國民經濟を利するならば寧ろ多々益々辨すべきである。假りに先

づ鋼鐵、肥料、機械、自動車等概算年額三億圓の製作に對して、何程の資本を投すべきかといふと、約四億圓で足りるのである。素より原則的には民間の事業を督勵して是等の企業に當らしむべきであるが、それには或る期間相當の助成補給を要する。即ち此の四億の資本投下に對し國家が假りに五ヶ年平均五分の補助を與へるとして、その金額は二千萬圓に過ぎない。而して工業の原料は礦石といひ、農林産といひ、石炭といひ、總て労働の結晶に外ならない、故に工業に依る三億圓の生産は其の大部分は労働賃金と稱し得るのであつて、男女工平均一日一圓の勞銀として右の製作により實に百萬人の労働者及其の家族に生計の途を與へ得るのである。隨つてそれは社會政策より見ても極めて重大なる意義を有するのである。

八、斷じて行へば必ず成る

自己に何等の經綸なくして徒らに他の主張を難するものは曰ふ、「今日の不景氣は生産過剩に因る、此上の増産計畫は迂愚の論のみ」と。吾々は既に幾たびとなく此種の論を聞いたが、これこそ認識不足の甚だしきものである。我々の計畫は現在國內に於て生産の過剩なるものを更に増産せんとする如き非常識な空想を持ち出すのではない。輸入防遏の可能なるもの、輸出増進の見込みあるものを對象として生産計畫を樹立するのである。又或る論者は吾々に向つて折角努力しても果して巧く行くか疑問だといふ。併しながら此種の見解は我が國民の智力能力を蔑視するものであつて、數字の明示し道理の存するところ、決して成らざる筈はないのである。假りに一

二、意の如くならざるものありとしても、不撓の努力を以て必らず之を遂行し達成するの意氣がなければ、今日の經濟難局を何うするか。現政府は六千萬圓の赤字埋めに狼狽してゐるが、國庫の赤字は之を彌縫し得るとして、年々二億圓に上ると推定される國家國民の消費超過が永く續いた場合、坐視し能はざる國家の破産、國民の破滅を如何に救はんとするか。手を空しくして自滅を待つか、奮起一番して新機運を打開するか、今日は正に二者その一を擇ぶべき秋である。此點については最早や是れ以上の説明は要せまい。

繰り返し言ふ、此の産業五箇年計畫さへ實現されるれば、今日百萬を突破せる失業者も更生する、官界その他に大整理があつても、翌日から新たに快適なる地位が得られる、そこには就職難もなければ生活難もない、淘汰恐怖もなければ神經衰弱もない。随つて思想の悪化もなく、無論赤化の杞憂もなくなる。そして清明なる日本の國運と、快潤なる大和民族は永遠に繁榮の一路を行進し得るのである。

産業五箇年計畫案一覽表

〔編者曰く〕 本表は昭和六年七月、政友會政務調査會に於て發表せるものにして、産業五箇年計畫に關する我

が山本翁の論策を審かにする爲め茲に収録す。

因みに表中の數字は時に若干の異同あるも大體には變りなし。

方法

- 一、生産費の低下
 - (イ) 動力 政策
 - (ロ) 鐵道 政策
 - (ハ) 金融 政策
- 二、生産の統制
 - (イ) 内地、植民地産業政策の統一
 - (ロ) 農業生産の合理的地方分布
 - (ハ) 工業生産の改良統制
 - (ニ) 生産、購買、販賣組合の整備
- 三、關稅 政策
- 四、保護助長政策

産業五箇年計畫を主題とする報告及演説

五、産金政策

〔備考〕

輸出入増産計畫は現状の推移を基礎として計畫したるものなるを以て、金輸再禁止に依り爲替相場變動の場合には關稅政策等自ら異なるべし。

種 類	重要輸入品中全部又は一部國內生産可能品調 (昭和五年度を基準とす)	
	輸 入 額 (單位千圓)	生 産 可 能 額 (單位千圓)
鐵 及 機 械 類	九五、五三三	九五、五三三
機 械 及 部 分 品	九三、三六四	六五、三五五
自 動 車 及 部 分 品	二〇、七七三	一二、四六三
自 轉 車 及 部 分 品	一、五六三	九三七
ア ル ミ ニ ユ ー ム	九、五五八	九、五五八
時 亞 鉛	四、九九五	二、四九七
化 學 工 業 計 計	四、三九〇	四、三九〇
硫 酸 ア ム モ ニ ユ ー ム	二、三〇、一七六	一、九〇、七三三
パ ラ ビ ン ワ ツ ク ス	三、七、六六一	三、七、六六一
	四、三、六三一	二、一、八一

苛性曹達及曹達灰	九、〇〇六	四、五〇三	五 割
硫酸加	七、八九八	三、九四九	同 割
合成染料	六、〇九五	四、二六六	七 割
鹽化加	二、六六四	一、三二三	五 割
コイルタール分溜及生成物	二、三三九	一、六三七	七 割
爆 小 發 物	一、八〇三	一、八〇三	全 部
機 械 工 業 計 計	七、八二九	五、七、三二三	全 部
毛 織 物	一、四、一八九	一、四、一八九	全 部
毛 織 工	一、二、一四八	一、二、一四八	同 部
紙 織 物	九、九七三	六、九八一	七 割
紙 織 工	一、二、〇八四	六、〇四二	五 割
製 紙 用 紙	二、九、五七三	二、九、五七三	全 部
砂 糖	三、六、三九八	一、八、一九九	五 割
其 他 雜 物	一、四、三六五	八、七、一三二	全 部
農 産 物	五、七、一四〇	二、八、五七〇	五 割
豆 類	四、二、九四〇	三、八、六四六	九 割
小 麥	三、三、六八	三、三、六八	全 部
コ ン デ ン ス ミ ル	二、六、八八〇	二、六、八八〇	同 部
米 類	二、一、三九〇	一、四、五七三	七 割

産業五箇年計畫を主題とする報告及演説

穀粉及澱粉	玉蜀黍粉	植物性纖維	其他雜物	探油	菜子芥	胡麻	荏子	亞麻子	豆	菜子	其他	其他	飼料	煙				
六、三三二	三、五六〇	一六、四四八	三六、〇〇三	二一三、九六一	五、八二三	三、八六九	二、八〇七	三、九一九	一六、四一八	七三、七八〇	二、七二九	一、〇〇二	八、〇五七	八五、六六八	一三、〇三二	二一、三九〇	一二、三九九	四六、八二一
四、三六二	二、四九二	三、二八九	一八、〇〇一	一四〇、一八一	二、九一一	一、一六〇	八四二	一、一七五	六、〇八八	三六、八九〇	一、六三七	三三〇	二、四一七	四一、二七四	六、五一六	一二、八三四	六、一九九	二五、五四九
七割	同割	二割	五割	三割	同割	同割	同割	同割	同割	五割	六割	三割	同割	五割	六割	六割	五割	五割

木綿	綿	絲	總計
五七、七五四	九、九四〇	三六二、六八九	四三〇、三八三
二八、八七七	九、九四〇	二二、一二四	六〇、九四一
五割	全割	六分一厘	六〇九、三三一

重要輸出品中將來増進の見込ある物品調 (昭和五年度を基礎とす)

○印は既往三年間に於て年々金額の増加せるもの
 ▼印は既往三年間に於て年々數量の増加せるもの

種類	輸出額	増産可能額	歩合
織維工業品	(單位千円)	(單位千円)	
一、絹製品	五三一、七七五	一〇六、三五二	二割
生絹	四一六、六四六	八三、三二九	同割
絹織物(人絹を含む)	一〇〇、七一〇	二〇、一四二	同割
層絲真綿及玉絲	六、五七八	一、三一五	同割
人絹	三、二三六	六四七	同割
絹製造絹	六六九	一三三	同割
絹製肩掛	五五六	一一一	同割
紡績絹織	三五七	七一	同割
洋傘絹織			

産業五箇年計畫を主題とする報告及演説

産業五箇年計畫を主題とする報告及演説

一、鈕	二、絶縁	三、製用電	四、木製	五、時計	六、石鹼	七、麻袋	八、麻袋	九、花籃	一〇、理化學器及部分品	一一、蚊取線	一二、殺蟲粉	一三、和傘	一四、洋傘	一五、靴	一六、扇子	一七、財布	一八、ゴム	一九、魚鱗	二〇、鍍物	
鈕	線	製	計	鹼	袋	袋	籃	器	器	線	粉	傘	傘	靴	扇	布	ゴム	鱗	物	
○	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	○	○	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	○
五、六一九	三、六二六	三、四六六	三、一九六	一、四六二	一、四一〇	一、二三八	一、一五〇	一、〇五九	八、一〇	七、七九	七、五八	七、三九	六、九九	六、七六	四、一九	四、一〇	三、八四	五、二七三	六、三三二	二、七、三三八
五六一	七二五	三四六	三一六	一四一	一四一	二四七	二三〇	一〇五	一六二	一五五	一五一	一四七	一三九	一三五	八三	八二	七六	五二七	一、二四六	五、〇三八
一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割

七五九

産業五箇年計畫を主題とする報告及演説

一、身	二、電	三、漆	四、帽	五、硝子	六、玩具	七、履物	八、陶磁器	九、藝品	一〇、毛織品	一一、葉子	一二、鉛丹	一三、晒灰	一四、炭	一五、賣	一六、爆	一七、アル	一八、コ	一九、コ	二〇、セ	二一、肥
身	電	漆	帽	硝	玩	履	陶	藝	毛	葉	鉛	晒	炭	賣	爆	アル	コ	コ	セ	肥
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五、六八六	五、三一六	一、四二八	九、三六四	九、六〇九	一、六九	一、七、六七	二、七、一七	二、七、一七	二、二、五七	六、八二	三、七、八	四、〇、八	四、三、七	一、五、八八	二、〇、七九	七、四、四	九、二、七	八、二、三	一〇、〇、六六	一、七、二六
五、六八	一、〇、六三	一、四二	九、三六	一、九二	一、一、六九	一、一、六九	三、五、三	二、七、一七	一、七、七、七四	一、三、六	七、五	八、一	八、七	三、一、七	四、一、五	一、四、八	一、八、五	一、六、四	二、〇、一三	三、四、五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割

七五八

講す

自動車及部分品 輸入價格 二千七十七萬三千圓

一、計畫 六割生産

二、關稅 一定の價格以上の自動車には奢侈税として相當重き課税を行ふ、之に要する部分品に就いても亦同じ

一、施設 現在日本に存在する三自動車會社に於て一切の部分品迄全部生産し得て毫も外來品に遜色なきこと明かなるが故に之に對して僅少の助成に依りて六割の増産は容易なり

自轉車及部分品 輸入價格 百五十六萬三千圓

一、計畫 六割生産

一、關稅 増徴の要あり

二、施設 此の工業は輸入より輸出の方多きものにして即ち五年度に於て輸出二百九十萬一千圓に及ぶものに付、モーターサイクルの一部分品を除くの外は容易に生産可能なること説明を俟たず

アルミニウム 輸入價格 九百五十五萬八千圓

一、計畫 全部内地生産

一、關稅 現在直ちに關稅引上の要なく元價一噸八百五十圓以下に低下する場合に於て初めて關稅の保護の

必要あり

一、施設 獎勵費一ヶ年一百十萬圓五ヶ年間に五百五十萬圓の補助に依り其の目的を達することを得但し、原料不足一部分の輸入増加は免れ難い

亞鉛 輸入價格 四百九十九萬五千圓

一、計畫 五割生産

一、關稅 前記アルミニウムと同じく一定價格以下に下落したる場合に關稅増徴の必要あり

一、施設 年額一百万圓の補助に依り五ヶ年間に其の完成を見るべし

時計 輸入價格 四百三十九萬圓

一、計畫 全額生産

一、施設 (米三割五分 英三割四分 印度四割) 今や國內生産時計は世界第一の稱ある瑞西ナルダン會社の製品と同一のものを約半額の價格を以て製造し得る域に達し居るを以て手藝工業に近き我が國民に適合したる細密なる機械中最も容易に其の目的を達し得べし

時宜に依り多少の補助を爲すべき必要あるべきも關稅政策に依り大半の目的を達成すべし

硫酸アンモニウム 輸入價格 三千七百六十六萬一千圓

一、計畫 全部生産

産業五箇年計畫を主題とする報告及演説

一、關稅 必要なし

一、施設 政府が全國農民に内地生産品の使用獎勵を爲す丈にて別に補償の途を講ぜずとも其の目的を達成し得ることは殆ど今日異論をはさむものなし

パラフィンワックス 輸入價格 四百三十六萬三千圓

一、計畫 五割生産

一、關稅 一定の關稅増徴の要を認む

一、施設 助成の途を講ずる必要あり

苛性曹達及同灰 輸入價格 九百萬六千圓

一、計畫 五割生産

一、關稅 現行一圓五十錢の關稅を二圓五十錢に引上げる必要あり

一、施設 關稅を以て其の目的を達し得べし

合成染料 輸入價格 六百九萬五千圓

コールドタール分縮生成品 輸入價格 二百三十三萬九千圓

一、計畫 七割生産

一、關稅 一定率の關稅改正の要あり

一、施設 化學工業の驚異的發達と觸媒工業の發明とは之等の工業に特別の刺戟を與へ長足の進歩を見たるを以て或種の關稅改正に依り目的を達し得べきも、綿織物加工の關係上關稅のみに依らず助成の方法に依る必要あり

爆發藥

輸入價格 百八十萬三千圓

一、計畫 全部生産

一、關稅 多少増加の要あり

一、施設 爆發藥は輸出年額二百七萬九千圓に達する工業にして、此の工業には別に補助等を要せず唯陸軍の工廠に於て民業と競争する如き爆發藥の製造販賣を爲しつゝある陸軍不用の黒火藥を民業に移せば足る

硫酸加里 輸入價格 七百八十九萬八千圓

鹽化加里 輸入價格 二百六十六萬四千圓

一、計畫 五割生産

一、關稅 一部分關稅の必要あるも大部分はヨード工業の發達獎勵に俟つ

一、施設 此の工業は加里の原料國內に乏しく容易に發達の見込なき如きもヨード工業が將來對露輸出品として重要視せられ其の工業の發展の副産物として加里工業の増産は困難ならずと認む

毛織絲

輸入價格 一千四百十八萬九千圓

紙類米

輸入價格 一千二百十四萬八千圓

一、計畫 全部生産

一、關稅 増徴の要あり

一、施設 従来古毛織物の市場に乏しかりし時代に於ては絲、織物共國外に仰ぐ分量多かりしも今や漸く需給の平衡を保つことを得るに至り殊に紡織器械の發達は著しきものあり、併しながら之を國內生産に移す當分の間は羊毛輸入九百萬圓を増加するは止み難き状態に在り

紙類

輸入價格 九百九十七萬三千圓

一、計畫 七割生産

印刷用紙、包装用紙、マッチ用紙等之を外國に仰ぐ必要なきは現に紙類の工業に依る輸出額が年々増加し昨年(昭和五年度)度の如きも尙ほ二千七百萬圓に上れるに徴し明瞭なり、故に將來輸入防遏に政府が多少の苦心を加へれば足る、殊に最近發明に係る桑樹に依り製紙の發明は一層之を實現するに容易なりと認めたり

製紙用パルプ

輸入價格 一千二百八萬四千圓

一、計畫 五割増産

一、關稅 改正の必要なし

一、施設 パルプ工業は木材低廉と桑樹パルプの發明とに依り製紙用及人絹用パルプを併せて國內生産に移すこと困難にあらず、之を五割に止めたるは國內森林經營の國策を樹立する迄は極端に之を行ふことが林業上に及ぼす影響を考慮しての事なり

砂糖

輸入價格 二千九百五十七萬二千圓

一、計畫 全額生産

一、關稅 改正の必要なし

一、施設 現在の助長計畫にて足る、昭和六年度砂糖生産額は千四百十萬ピクル、前年より持越し百五十萬ピクル、合計千五百六十萬ピクルに對し今年度消費量千二百九十五萬ピクルを差引くも尙ほ二百六十五萬ピクルの過剰を生じ、來る七年度より輸出に轉すべき状態にして此の狀勢は將來尙ほ持續の可能性十分なり

其他の機械工業雜品 輸入價格 三千六百三十九萬八千圓

一、計畫 五割生産

一、關稅 各品目に應じ保護關稅の必要あり

一、施設 各種機械及部分品として輸入のもの一千一百九十七萬圓、雜品二千四百四十二萬八千圓にして其の内主なるものを擧ぐれば酒類寫眞用品、電話機、人絹、鐵鏈、香水、齒磨粉、薰香類、マグネサ

イド、ドロマイド銃砲、家屋、船舶船渠建築材料、カーボンブラック、眞鍮青銅瀝青、土瀝青、電氣用カーボン、ランプ、提燈、木精、耐火煉瓦、計算器、樂器、ペン先、電信機、鈕釦、木炭、絶縁電線、醫療器、安知母尼、ナフタリン、セメント、顯微鏡、鐵道車輛、石膏、瓦斯ホルダー、重炭酸ソーダ、タードフェルト等、年額三十萬圓以上の輸入雜品に付調査したり

農産物

豆類

輸入價格 五千七百十四萬圓

一、計畫 五割生産

一、關稅 關稅保護の必要あり

一、施設

豆類の内主要品は大豆を最大とし、小豆、落花生、蠶豆、豌豆等にして其の内最も多きは大豆の三百萬石三千六百萬圓餘なり、一見我が國內に於て生産不可能なるが如きも其の原因は採算不利に基くものにして年々生産減少し一反歩當りの收穫高も漸減し此儘に放任せば永久に生産増加の見込なし、乍併國民主要食糧品が國內に於て生産し能はざるの理由なし、現在一反當り收穫八斗六升八合總收穫高三百萬石は品種の改良と施肥宜しきを得ば一反當り一石六斗の收穫を擧ぐべく此の採算の合致する程度に保護獎勵せば其の目的を達し得べし、隨つて關稅改正の要あるべし。英獨は夙に此點に着眼して滿洲大豆の種子を取寄せ國內生産に向つて全力を盡して獎勵しつゝあ

り、氣候風土を同する我國に於て其の計畫を樹立せざるは不都合の甚しきものと云ふべし
其他の豆類亦同斷なり

小麥

輸入價格 四千二百九十四萬圓

一、計畫 九割生産

一、關稅 改正の要あり

一、施設

小麥の需要は既往五ヶ年の平均輸入四百四十四萬石今後五ヶ年後には内地需要と加工輸出とを併せて千百十萬石を要する見込にして現在の平年作六百三十四萬石なり、昭和五年の作付反別四十九萬一千町歩を今後五ヶ年間に十八萬町歩増加し改良品種を配給して一反當り現在一石二斗四升六合を反當り一石四斗九升五合(二割増)に増加すれば九割の増産となる(耕地面積の擴張は一毛作田を二毛作田に變換し得べきもの四十七萬町歩の内を以て之に充當す)、但し關稅改正に依り採算的保護の必要あり

コンデンスミルク 輸入價格 三百三十六萬八千圓

一、計畫 全額生産

一、關稅 改正の要あり

一、施設 品質及價格共國産品が外國品に劣らざることには既に一點の疑ひなし、殊に農村畜産獎勵の意味に